

平成28(2016)年度

年報

第12巻

全仁会グループ

平成28(2016)年度

年報

第12巻

全仁会グループ

倉敷平成病院



発刊によせて



この度の平成28年度年報の発刊を喜ばしく思っております。

平成28年度を振り返ってみると、脳神経外科、整形外科、脳ドックセンターで新たに常勤医師が増え、臨床工学課の新設と人的充実がはかられた一年であったと思います。

7月には岡山市民病院と連携協力協定を、10月にはAMDAと連携協定を締結し、地域医療における当院の存在意義も向上しています。

開院当初から続けている「歌声広場」は5月に1,400回記念を迎えました。当日は、私も参加しましたが『瀬戸の花嫁』『北国の春』『青い山脈』などを皆で歌い、ヴァイオリンの生演奏での『花は咲く』が見る歌聞く歌として心に刻まれています。いわゆる「音楽療法」とは異なりますが、良質の音楽は人生のQOL向上に役立つという思いで、昭和63年から歌声広場を継続しています。当初より運営スタイルを工夫し、今の形になりました。広場全体の運営は介護福祉士と音楽療法士が担当しています。作業療法士や言語聴覚士が携わった時期もありました。紆余曲折を経て今のスタイルですが、ご参加の方々にあわせての運営を心掛けてまいりました。伝統というにはおこがましいですが、我々の理念や継続してあるものの存在意義を学び、自分事として捉え、それをまた伝え、よりよいものに育てていただけることを願ってやみません。

平成28年の10大ニュースには「全仁会4本柱が盛況」というトピックスがあります。「のぞみの会」は第51回を迎え、今まで私がつとめていた「特別講演」は高尾理事長に引き継がれました。のぞみの会は、患者家族会として自然発生し、その存在が患者本位の病院創設の根源となっています。そして倉敷平成病院を支え続けている背骨となっています。この「のぞみの会」に毎年1,000人以上の方々が集い、それを横断的な委員会を通じて職員全員で関わり、運営できていることを大変誇りに感じております。

そして、「研究発表大会」も第25回の節目の会を開催しました。救急から在宅までの当グループの幅広い部署からの演題、今年は委員会活動からの演題もあり、能動的に取り組まれていることも大変心強く頼もしく感じています。

平成29年度がスタートして4か月ばかりが過ぎますが、まずは順調な出だしとなっています。ただ、医療・介護を取り巻く状況の厳しさは増すばかりで、弛まぬ努力が不可欠です。「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」の理念の下で、患者本位の医療を実践してまいりましょう。

この平成28年度年報が、我々の成長の記録として、相互理解と今後の発展に供することができれば幸いです。

平成29年8月吉日

全仁会グループ 代表
高尾 武男

発刊によせて



平成28年度は4月に診療報酬改定があり7：1看護基準の維持には新基準での看護重症度25%を超えるという厳しいハードルが課されました。クリアのためには救急からの適切な入院、手術件数への対応増が求められており、在院日数の短縮のためにはグループ内の協力を更に緊密にして、医療・介護の橋渡しをスムーズにしていくことが必要です。全国的にはこの基準をクリアできず7：1を返上する病院が多数あったとの事ですが、当院は一年を通じてこの基準をクリアできました。これらのことは全仁会が設立時より取り組んできたことでもあり、今まで以上に「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という理念を大事にし、診療や看護に当たるべきだという証明でもあります。

また、医師の充実が図れた年でもあります。新たに7名の医師の入職があり、診療の幅が更に増したと感じています。対外的にはAMDAや岡山市市民病院との包括連携協定を結んだ年となりました。特に岡山市市民病院との連携後は研修医の若い先生方が定期的に救急医療に携わる実際の連携も始まり、軌道に乗りつつあります。この連携を今後も維持し、将来的に医師の入職につながっていけばと考えております。また全仁会の四本柱はさらに充実し、のぞみの会では参加者が千人を超えています。引き続き全仁会の中心となる活動として今後もしっかりと参加者が増えるように取り組んでいきたいと思っております。

平成29年度は倉敷ニューロモデュレーションセンターの開設に続き、新救急棟の増設準備、日本臨床医療福祉学会への参加や平成30年医療・介護同時改訂への対応、また来年迎える全仁会30周年記念事業の検討など、取り組むべき案件の多い一年となりそうです。そのような多くの課題に職員が心ひとつで立ち向かえるよう、我々が歩んできた道を表すこの年報が、全仁会職員の誇りとなることを、またこれから歩むべき道を指し示す一助となることを願います。

平成29年8月吉日

社会医療法人全仁会 理事長
高尾聡一郎

発刊によせて



平成28年度年報を発刊できることに、まずは御礼申し上げます。

昨年8月のリオデジャネイロ五輪では、日本は史上最多のメダル41個（金12、銀8、銅21）を獲得し、日本選手団は2020年の東京大会へ弾みがつく成績を残せたのではないのでしょうか。

ではここで昨年度の全仁会グループの出来事を振り返ってみたいと思います。

平成28年度

- 4月：新任医師5名（脳神経外科1名、整形外科1名、放射線科1名、神経内科1名、歯科1名）を含む55名が入職
- 5月：歌声広場1,400回 開催
- 6月：熊本地震被災者の方々へ義援金（約63万円）を倉敷市へ寄託
- 7月：第26回看護セミナー「とどけたい、看護の力～認知症の方のケアを通して～」開催
倉敷天領夏祭り「OH！代官ばやし」5年連続特別賞受賞
ベトナム人実習生1名受入（7月11日～16日）
岡山市民病院と包括連携協定締結
- 9月：第28回消火技術訓練大会 男子4位、女子3位入賞
- 10月：神経内科医師着任（9月末1名退職）
第29回神経セミナー「認知症予防と対策」開催
AMDAと連携協力協定を締結
- 11月：脳ドックセンター 常勤医師着任
第51回のぞみの会 開催
グランドガーデン南町ヘルプステーション南町の介護士が第7回オールジャパンケアコンテストにて「奨励賞」受賞
グランドガーデン南町が第12回倉敷市建築文化賞一般建築物部門「奨励賞」受賞
第25回全仁会研究発表大会「医療・介護におけるチームアプローチの発展～一心で全仁会を高めよう～」を開催
- 12月：全仁会グループ職員旅行の実施（6月～12月 全7コース 延286名参加）

岡山市民病院との包括連携協定締結、AMDAとの連携協力協定締結など、今後全仁会が広い分野で活躍ができると期待しております。倉敷平成病院を中心に今まで以上に病病連携、病診連携を密にし、地域連携を強化してまいります。そして地域に信頼され、皆様の健康を守る病院となりますように努力してまいります。

平成29年8月吉日

社会医療法人全仁会 倉敷平成病院 院長
平川 訓己

救急から在宅まで 何時いかなる時でも対応します

—— 限らない QOL を求めて ——

クオリティ オブ ライフ
Quality of Life 人生の充実

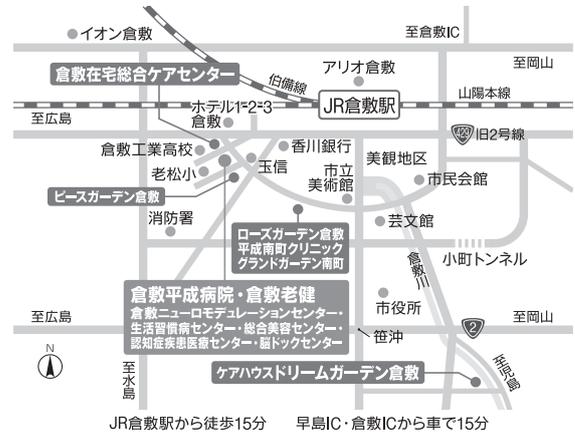
- 臨床・教育・研究分野で患者本位の国際的水準の病院を目指します
- 急性期から在宅医療まで質の高い効率的な継続的医療を目指します
- 生活習慣病予防を基礎に予防医学を確立します
- 患者本位四原則のもとに質の高いチーム医療を目指します
- 患者さんの安全に配慮し、尊厳を尊重し、患者本位の原則を守り、患者さんに選ばれる病院を目指します

患者本位四原則

- 患者さんのニーズを第一に最短でよくなる**正しい目標**を設定し、全人的に対応し、科学的根拠のある医療を行う
- 治療効果を上げるため**正しい配置**につき、統合された質の高いチーム医療による患者本位の最善の医療を追求する
- 共に学び合う仲間を作り切磋琢磨し、全仁会医療人として個々のレベルを向上させ、**正しい機能**を発揮する
- 日々研鑽を惜しまず、わかりやすい、やさしい医療サービスを提供し、患者さんから**正しい評価**を受ける

救急から在宅まで

何時いかなる時でも対応します



全仁会グループ

社会医療法人 全仁会 社会福祉法人 全仁会 有限会社 医療福祉研究所ヘイセイ

倉敷平成病院

内科・神経内科・脳神経外科・脳卒中内科・整形外科・消化器科・循環器科・呼吸器科・耳鼻咽喉科・形成外科・皮膚科・眼科・総合診療科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・和漢診療科・歯科

倉敷ニューロモデュレーションセンター

脳神経外科 (DBS:脳深部刺激療法・SCS:脊髄刺激療法)

倉敷生活習慣病センター

糖尿病・代謝内科

総合美容センター

美容外科・形成外科・婦人科・乳腺外科

認知症疾患医療センター

平成脳ドックセンター

岡山県倉敷市老松町 4-3-38 〒710-0826 TEL.086-427-1111 FAX.086-427-8001

倉敷老健

岡山県倉敷市老松町 4-3-38 〒710-0826 TEL.086-427-1111 FAX.086-427-8001

倉敷在宅総合ケアセンター

- ・訪問看護ステーション
- ・ホームヘルプステーション
- ・ショートステイ
- ・通所リハビリ
- ・予防リハビリ
- ・ケアプラン室
- ・高齢者支援センター
- ・ヘイセイ鍼灸治療院

岡山県倉敷市老松町 4-4-7 〒710-0826 TEL.086-427-0110 FAX.086-427-8002

複合型介護施設 ピースガーデン倉敷

- ・地域密着型特別養護老人ホーム
- ・ショートステイ
- ・グループホーム
- ・デイサービス

岡山県倉敷市白楽町 40 〒710-0824 TEL.086-423-2000 FAX.086-423-0990

平成南町クリニック

岡山県倉敷市南町 4-38 〒710-0823 TEL.086-434-1122 FAX.086-434-1010

住宅型有料老人ホーム ローズガーデン倉敷

- ・ヘルプステーション

岡山県倉敷市南町 4-38 〒710-0823 TEL.086-435-2111 FAX.086-435-2118

サービス付き高齢者向け住宅 グランドガーデン南町

- ・南町ケアプラン室
- ・ヘルプステーション南町
- ・よくなるデイ南町

岡山県倉敷市南町 1-12 〒710-0823 TEL.086-435-2234 FAX.086-435-2224

ケアハウス ドリームガーデン倉敷

- ・デイサービス ドリーム

岡山県倉敷市八軒屋 275 〒710-0037 TEL.086-430-1111 FAX.086-430-1195

URL : <http://www.heisei.or.jp/> E-mail : heisei@heisei.or.jp

目 次

発刊によせて	2
全仁会グループの理念	6
全仁会グループ概要	7
目次	8
業績目録 第12巻 平成28（2016）年度	9
学会発表 一覧	10
学会発表 抄録	13
学会・研修会等参加	28
誌上発表 一覧	38
誌上発表 抄録	39
全仁会研究発表大会	40
外部講演	41
座長・挨拶	43
講演主催	44
講演共催	45
勉強会（職員向け）	46
勉強会・公開講座・健康教室（一般向け）	47
委員会・会議概要	51
JA岡山西広報誌「なごみ」	68
外部受け入れ実習	69
購入図書	71
職員旅行	73
2015年度実績（ST科）	74
数字で見る全仁会	77
倉敷平成病院 常勤医師	99
全仁会グループ 組織図	104
編集後記	106

業績目録 第12巻

平成28(2016)年度

学会発表 一覧 ●

学会発表 抄録

学会・研修会等参加 ●

誌上発表 一覧 ●

誌上発表 抄録

全仁会研究発表大会 ●

外部講演 ●

座長・挨拶 ●

講演主催 ●

講演共催 ●

勉強会(職員向け) ●

勉強会・公開講座・健康教室(一般向け) ●

委員会・会議概要 ●

JA 岡山西広報誌「なごみ」 ●

外部受け入れ実習 ●

購入図書 ●

職員旅行 ●

2015年度実績(ST科) ●

学会発表 一覧

☆は抄録のあるもの

年月日	演 題	発 表 者	学 会	場 所
2016. 4.13～15	A relationship between variability of gait dynamics by dual-tasking and the risk of falling in patients with stroke. ☆	Yu Inoue・Kazuhiro Harada	The 20th European Congress of Physical and Rehabilitation Medicine (ESPRM2016)	ポルトガル
2016. 4.23～28	悪性腫瘍切除後の上眼瞼広範囲欠損創に対して composite graftを用いて再建した2症例	石田 泰久・華山 博美	第59回日本形成外科学会総会・学術集会	福岡
2016. 5.19～21	経腸栄養施行中の糖尿病患者の血糖変動の観察 ☆	小野 詠子・青山 雅	第59回日本糖尿病学会年次学術集会	京都
	糖尿病網膜症に対し主体的に眼科受診が出来るための取組み～眼科受診に向けての具体的な療養支援についての一考察～	小山 千沙		
2016. 5.27	介護老人保健施設における足病変への取り組み－多職種、他施設との連携が奏効した2症例－ ☆	小山恵美子・永野 友美 大橋 美枝・大浜 栄作	第8回日本下肢救済・足病学会	東京
2016. 5.27～29	脳卒中患者の歩行動態の変動性と転倒リスクとの関連性 ☆	井上 優 他	第51回日本理学療法学会大会	札幌
	大腿骨近位部骨折患者に対するNSTと連携した介入が歩行能力に及ぼす影響 ☆	近藤 洋・井上 優 安藤 駿・奥田 朋樹 奥山 卓哉・竹田 沙布 渡辺聡一郎・山崎 諒 白神 侑祐・中根 航 伏見 恭一・江口 健 津田陽一郎・小野 詠子 堀内 武志		
	2ヶ月間複合運動プログラムが地域在住一般高齢者の運動機能と認知機能に与える影響について	倉地 洋輔・柳原 順子 井上 優		
	健常高齢者における後方歩行の特性と運動機能および注意機能の関連	植木 努・曾田 直樹 河合 克尚・大場かおり 石田 裕保・辻 圭一 藤橋雄一郎・箕浦 由布 井上 優・原田 和宏		
2016. 6.11	失語症者と病棟スタッフとのコミュニケーション行動について ☆	小幡明日佳・青柳 政芳 木村 仁美・藤本 憲正	第17回日本言語聴覚学会	京都
2016. 6.23～24	造影CTにおける最適な造影条件を求めて ☆	藤野 匡司	第66回日本病院学会	岩手
	病棟薬剤業務における薬学的管理の充実 ☆	稲葉 佳南・小田 真澄 木村 佳美・中田 早苗 安原 梨恵・大西 優菜 齋藤 文佳・久原 典子 榊原一二三・市川 大介		
	便秘解消ケアの実践 ～自然排便促進による患者と介護者の負担軽減を目指して～ ☆	桑野 智章・樹田 茜		
2016. 6.25～26	脳塞栓症を呈した高齢心サルコイドーシスの1例	芝崎 謙作・高尾 芳樹 涌谷 陽介	第100回日本神経学会中国・四国地方会	島根
2016. 8. 6	MRI上ARIA-E様の所見を呈した多発性脳葉型微小出血の2例	涌谷 陽介・高尾 芳樹 本倉 恵美・芝崎 謙作	第7回日本脳血管・認知症学会学術集会	石川
2016. 8.18～19	おむつの見直しによるコスト削減の取り組み ☆	竹内 真矢・佐々木嘉信 小山恵美子・大浜 栄作	第2回中国地区老人保健施設発表大会	岡山
2016. 9. 2～ 3	入退院を繰り返す褥瘡患者に対する継続した栄養管理の必要性	小野 詠子	第18回日本褥瘡学会学術集会	神奈川
2016. 9. 3～ 4	歩行における筋シナジーの加齢変化 ☆	戸田 晴貴・長野 明紀 羅 志偉	第30回中国ブロック理学療法学会	岡山
	上耳介筋に対するストレッチングが僧帽筋・頸部伸筋の筋電図積分値に及ぼす影響 ☆	妹尾 祐太・井上 優		

年月日	演 題	発 表 者	学 会	場 所
2016. 9. 9～11	振動刺激が感覚性運動失調を呈上肢機能に与える影響～シングルケースデザインによる検討	有時 由晋	第50回日本作業療法学会大会	札幌
	要介護高齢者および家族介護者の作業参加が健康関連QOLに与える影響について ☆	最相 伸彦・藪脇 健司		
2016. 9.11	当院通所リハビリ利用者における栄養状態と運動機能との関連性 ☆	隠明寺悠介・白神 祐侑 服部 宏香・黒川 恵子 阿部紗千恵・大島 葉奈 行本 結衣・高尾 祐子	第1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会	倉敷
	パーソン・センタード・ケア (PCC) の研修と、ひもときシートを用いたカンファレンス実施が通所リハビリテーション職員におけるPCC理解度に及ぼす影響 ☆	叶 智子・阿部 弘明 須増 智美・高尾 祐子		
	保育園児に対する読み聞かせが通所リハビリテーション利用者の心身機能に及ぼす影響について ☆	小関 麻未・大西 康予 高尾 祐子		
	突発的な天候不良時に通所サービス利用者の安全な送迎についての検討 ☆	小野 恵美・山田美弥子 最相 伸彦・高尾 祐子		
	脳血管障害を既往に持つ高齢者における外出頻度への影響因子 ☆	大柴 勇貴・最相 伸彦 高尾 祐子		
	当老健施設のリピート利用により身体・認知機能の維持を図りながら、在宅生活を継続している事例の紹介 ☆	檀上 香・和田 恵 竹内 真矢・野上 弘子 小橋紗和子・小野田温美		
	前頭側頭型認知症による反社会的行動に対して視覚コミュニケーション手段が与える影響について ☆	中山 風香・高尾 祐子		
	経口摂取継続を目指して ～最期まで口から食べたいという希望を叶えるために～	眞壁 忍		
	寝たきり、日中独居の方でも「我が家が一番」 ☆	濱田ゆりか・木村 綾 山本 里織		
	当法人内における職種間連携の取り組みによって、身体機能改善を認めた1症例 ☆	三木真奈美・荻野 誉子 山本 幸		
2016. 9.12～14	歩行中の関節ストレスにおける性差	戸田 晴貴・長野 明紀	第24回日本バイオメカニクス学会大会	滋賀
2016. 9.15～16	倉敷老健における入所者の体調管理の強化～看護体制の見直しを通して～ ☆	永野 友美・渡辺 藤江 小山恵美子・大浜 栄作	第27回全国介護老人保健施設大会	大阪
2016. 9.22～25	軽度認知機能障害【MCI】におけるリバーミード行動記憶検査【RBMT】の有効性について ☆	阿部 弘明・涌谷 陽介 上田 恵子・藤本 憲正	第6回日本認知症予防学会学術集会	宮城
	当院の認知症およびせん妄サポートチーム (DST) 活動の続報および職員の理解度とケアの状況	涌谷 陽介・犬飼 一智 坂井 誓子・上田 恵子 津田陽一郎・猪木 初枝 池元 洋子・市川 大介		
2016.10.12～14	地域特性を考慮した外因コードの現状と重要性	中田 悠太	第42回日本診療情報管理学会学術大会	東京
2016.11. 5	大腿骨近位部骨折術後患者の歩行能力と筋機能の関連～シングルケースによる検討～ ☆	山崎 諒	第43回日本股関節学会学術集会	大阪
2016.11. 5～6	病棟薬剤業務の実施に対する評価と今後の課題 ☆	中田 早苗・小田 真澄 古谷 佳美・稲葉 佳南 大西 優菜・齋藤 文佳 久原 典子・市川 大介	第55回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会	岡山
2016.11.25～26	グループワークを活用した介護労働支援の評価	松久保ひとみ・竹下 穰	第23回日本介護福祉士会全国大会・日本介護学会in大分	大分
2016.11.26～27	HbA1c測定によって一酸化炭素中毒を診断した1例 ☆ ※この演題は「平成29年度岡山県臨床検査技師会 優秀発表賞」を授与されました。	宮川 愛里・森山 研介 藤田 昌美・美納 妙香 木口 直哉・小橋 博子	第49回中国四国医学検査学会	高知

年月日	演 題	発 表 者	学 会	場 所
2017. 2. 6 ~ 7	当院フットケア外来の現状と課題	石田 泰久・華山 博美 志摩あゆみ	第14回日本フットケア学会年次学術集会	兵庫
	フットケア外来における感染予防対策の検討	志摩あゆみ・石田 泰久		
2017. 2.23 ~ 24	通所利用在宅高齢者における運動とBCAA併用が栄養状態や筋肉量に及ぼす影響についての検討☆	小野 詠子・中野 聖子 平田 沙織	第32回日本静脈経腸栄養学会等	岡山
2017. 3. 5	老健施設内の褥瘡保有者への栄養強化—管理栄養士の活動— ☆	梶子 恵美・小野 詠子 小山恵美子	第17回日本褥瘡学会中国四国地方会	愛媛
2017. 3.18 ~ 19	回復期リハビリテーション病棟において当院におけるmCI療法の試み	山畑 美佳	第29回岡山県作業療法学会	岡山
	慢性期脳卒中患者の上肢機能に対する運動観察治療の効果～シングルケースデザインによる検討～	江尻 典史		
2017. 3.24 ~ 25	外来と病棟・老健施設で継続したフットケアを行う体制作りへの取り組み	木村 郁美・石田 泰久	第15回フットケア学会年次学術集会	岡山

学会発表 抄録

A relationship between variability of gait dynamics by dual-tasking and the risk of falling in patients with stroke.

Department of Rehabilitation, Kurashiki Heisei Hospital¹⁾,

Institute of Health and Welfare, KIBI International University²⁾

Yu Inoue^{1, 2)}, Kazuhiro Harada²⁾

【Introduction】 Falling in patients with stroke is a common occurrence which leads to serious problems. Acceleration time-series data analysis were reported as a useful tool to detect the changes of gait dynamics by task-loads. However, it is unclear whether variability of gait dynamics caused by dual-tasking is related to the risk of falling in patients with stroke.

【Purpose】 The purpose of this study was to investigate the relationship between variability of gait dynamics caused by dual-tasking and the risk of falling in patients with stroke.

【Method】 Participants were 14 patients with stroke who were capable to walk without any assistance. Participants were instructed to perform 10-meter walking test (10MWT) under single-task and dual-task condition. Trunk acceleration data were recorded using a tri-axial accelerometer during 10MWT. Using the peak antero-posterior accelerations of the non-paralyzed side at heel contact, ten gait cycles were extracted. Each gait cycle data was divided into seven 64-sample sections with 50% overlapped portions. Within each section, root mean square (RMS) and power spectrum entropy (PSEn) were calculated as parameters representing the magnitude of motion and smoothness of motion, respectively. Coefficient variations (CV) of both parameters were calculated. On the basis of Berg balance scale and Stops walking when talking test, participants were allocated to high-risk of falling group or low-risk of falling group. Data were analyzed by non-paired t-test.

【Results】 Significant differences regarding amount of change in CV of PSEn were found from pre-swing phase to initial contact of the paralyzed leg

between the groups. There were no significant differences regarding amount of change in CV of RMS between the groups.

【Discussion and Conclusions】 The results suggested that amount of change in CV of PSEn by dual-tasking is useful to identify the risk of falling in patients with stroke.

2016.4.13~15 The 20th European Congress of Physical and Rehabilitation Medicine (ESPRM2016)にて発表

経腸栄養施行中の糖尿病患者の血糖変動の観察

倉敷平成病院 栄養科¹⁾、生活習慣病センター²⁾

小野 詠子¹⁾、青山 雅²⁾

【はじめに】 当院では脳血管疾患などにより嚥下障害をきたし、経腸栄養による栄養補給を行っている患者が多く、その中には糖尿病を合併している患者もいる。糖尿病あるいは耐糖能異常を伴う患者に経腸栄養剤を使用すると、急激な血糖値の変動が起こり血糖コントロールが困難となることも多い。当院では平成23年に、経腸栄養施行中の糖尿病患者へのグルセルナExの使用が血糖コントロールに有効であるとのデータを得ており、糖尿病で血糖コントロール不良の経管栄養患者にはグルセルナExを第一選択としている。しかし特殊病態用の栄養剤は、時に施設や自宅での継続使用が困難な場合がある。今回、グルセルナExから汎用の栄養剤への変更と経口摂取への移行を検討した症例について報告する。

【症例】 80歳女性。2型糖尿病。HbA1c7.3%、身長150cm、体重41.3kg、BMI18.4。グルセルナEx1500kcal注入しており、ランタス6U/日で血糖コントロール良好に保たれていた。退院に向けて経口摂取への移行を進めていく際に経鼻チューブを細径のものに変更したところ、粘度の高いグルセルナExの滴下のしにくさが問題となった。滴下しやすい栄養剤への変更と、経口移行について検討していく中で、血糖変動についても調査することにした。

【方法】

- ①グルセルナEx、E-7Ⅱ各1500kcalの注入中にCGMを施行し血糖変動を比較した。
- ②経口摂取への移行状況に合わせて血糖変動を比較した。

【結果】

- ①注入前の平均血糖値はグルセルナEx123±17mg/dl、E-7Ⅱ159±46mg/dlでグルセルナが低値であり、注入前後の血糖変動もグルセルナExが小さかった。CGM

結果よりE-7Ⅱでは食後血糖が上昇していることが分かった。

②経口摂取への移行は、ST介入のもとで経管栄養との併用で行った。経口摂取1回から開始し、3回まで移行した。(経管栄養+経口摂取が合計1200kcalとなるよう調整した。)食事前の平均血糖値は経口摂取1回113±24mg/dl、2回140±29mg/dl、3回139±38mg/dlであった。

【終わりに】グルセルナExで注入前の平均血糖値、血糖変動において血糖コントロールは良好だった。平成23年の研究結果とも合わせ、グルセルナExを注入することは血糖コントロールに有効で、これは、グルセルナが糖質・脂質の配合比率を調整しているため血糖上昇が緩やかになったためと考えられた。経口摂取移行後、ジャヌビア50mg/日が開始になり3食経口摂取での退院となった。経腸栄養の患者は退院先を見据えての栄養補給方法の検討も必要となる。血糖変動に注意しながら経口摂取へ移行できたことは血糖コントロールの安定とQOLの向上に繋がると考えられ、今後も前向きに検討していきたい。

2016.5.19~21 第59回日本糖尿病学会年次学術集会にて発表

介護老人保健施設における足病変への取り組み —多職種、他施設との連携が奏効した2症例—

倉敷老健

小山 恵美子、永野 友美、大橋 美枝、大浜 栄作

【目的】介護老人保健施設(以下老健)の入所者は年々高齢化し、ADLの低下や糖尿病、閉塞性動脈硬化症など足病変のリスクを有する者が多い。そのため入所者の足病変の予防・管理は重要である。老健では常勤医師が少なく、看護職に比べ介護職が多数を占めている。そのため足病変の早期発見・治療には多職種・他施設との連携が必要である。今回病院との連携が効果をあげた2症例を報告する。

<症例1>

69歳 女性 転倒し腰椎圧迫骨折でADLが低下し、リハビリ目的で入所された。

経過：入所時は車椅子移動であったが、リハビリで立位、歩行訓練開始後右足底部皮膚に潰瘍が発生した。看護職、介護職、理学療法士でケアを行うが治療に至らないため、併設病院のフットケア外来を受診した。装具の調整を重ねケアを統一することで治療に至った。

<症例2>

72歳 男性 糖尿病あり。

経過：脳梗塞発症後ADLが低下し、入所した。ADL低下に伴い臥床時間が増え、左足外側部に並列して3箇所に褥瘡が発生した。併設病院の褥瘡・足回診を受け除圧、軟膏治療で徐々に改善し、1箇所の

みとなったが、急速に悪化した。左足背動脈の狭窄を認め、連携病院に転院し左脛骨動脈狭窄にバルーン拡張を行い創部は治癒傾向となった。

【まとめ】老健では、足病変リスクが高い入所者が多い。各職種救肢への意識をもち、連携することで早期発見、ケアを行うことができる。また、他施設と連携することで救肢に繋がると考える。

2016.5.27 第8回日本下肢救済・足病学会にて発表

脳卒中患者の歩行動態の変動性と転倒リスクとの関連性

倉敷平成病院 リハビリテーション部¹⁾、
吉備国際大学 保健福祉研究所²⁾、
吉備国際大学大学院 保健科学研究科³⁾、
平成医療短期大学 リハビリテーション学科⁴⁾
井上 優^{1, 2)}、原田 和宏^{2, 3)}、植木 努^{3, 4)}

【はじめに、目的】近年のセンシング技術の向上により、測定のコストが低く経済性に優れた加速度計を用いた歩行解析が注目されている。我々は脳卒中患者を対象に歩行中の体幹加速度を記録し、Root mean square (RMS)、Power spectrum entropy (PSEn) を算出し検討した結果、これらの指標は歩行条件の違いにより生じた変化をとらえることが可能で、転倒リスクを反映する歩行動態指標であることを報告した。一方、一般高齢者を対象とする報告では、歩行動態の変動性が転倒リスクに関与することが報告されているものの、脳卒中患者では歩行動態の変動性が転倒リスクとどのように関連するかは十分検討されていない。そこで本研究では、体幹加速度解析に基づく脳卒中患者の歩行動態指標の変動性と転倒リスクとの関連性について検討することを目的とした。

【方法】対象は一医療施設、または二通所施設を利用している脳卒中患者のうち、認知機能に問題がなく10m以上の自力歩行が可能な脳卒中患者14名とした。歩行動態の評価は、快適歩行中の体幹加速度をMicrostone社製3軸小型無線モーションレコーダMVP-RF8を第3腰椎棘突起に固定し、サンプリング周波数を200Hzとして記録した。記録された加速度波形はMathworks社製数値演算ソフトMATLAB2012を用いてノイズ信号の除去を行った後、非麻痺側のheel contact (HC) により生じた波形を基に歩行周期を同定し、定常歩行中の10歩行周期を解析対象として選択した。解析対象となった各歩行周期データを標準化した後に7つの区間に分割し、各区間の加速度鉛直成分において加速度の大きさを表すRMS、歩行円滑性を表すPSEnを算出した。得られた10歩行周期分のデータを用いて各区間の変動係数(Coefficient of variation: CV)を算出した。脳卒中患者の転倒リスクは、Berg balance scale (BBS) とStops walking when talking test (SWWT) により

評価し、BBS45点未満でSWWT陽性の者をhigh risk群 (HR群)、BBS45点以上でSWWT陰性の者をlow risk群 (LR群) に分類した。統計解析はIBM SPSS statistics ver.22を使用し、HR群・LR群に加え、転倒経験のない地域在住一般高齢者5名 (Con群) を加えた3群で、各指標のCVを従属変数とする二元配置分散分析と多重比較を行い、有意水準は5%とした。

【結果】 二元配置分散分析の結果、RMS、PSEnともに交互作用は認めなかった。多重比較の結果、RMSのCV値は、麻痺側HC期にHR群・LR群とCon群間に有意差を認めたものの、HR群とLR群間に有意差は認めなかった。PSEnではLR群とCon群は全歩行周期を通じ類似した変動傾向を視認でき、各区間のCV値に有意差を認めなかった。一方、HR群はLR群と比べ麻痺側pre-swingからHC期にかけてCV値は有意に大きかった。

【結論】 体幹加速度波形から算出した歩行円滑性を表すPSEnの変動性は、脳卒中患者の転倒リスクを反映する指標となり得ることが示唆された。

【倫理的配慮、説明と同意】 本研究はヘルシンキ宣言に沿い、当該医療施設の倫理審査委員会と施設長の承認 (承認番号 H25-005号)、および平成医療短期大学倫理審査委員会の承認を得て実施した (承認番号 第H26-81号)。研究の目的・内容・方法・危険性等について文書と口頭により説明し、書面による同意を得て実施した。

2016.5.27~29 第51回日本理学療法学会大会にて発表

大腿骨近位部骨折患者に対するNSTと連携した介入が歩行能力に及ぼす影響

倉敷平成病院 リハビリテーション部¹⁾、栄養科²⁾、呼吸器科³⁾

近藤 洋¹⁾、井上 優¹⁾、安藤 駿¹⁾、奥田 朋樹¹⁾、奥山 卓哉¹⁾、竹田 沙布¹⁾、渡辺 聡一郎¹⁾、山崎 諒¹⁾、白神 侑祐¹⁾、中根 航¹⁾、伏見 恭一¹⁾、江口 健¹⁾、津田 陽一郎¹⁾、小野 詠子²⁾、堀内 武志³⁾

【はじめに、目的】 近年、栄養状態に起因するサルコペニアが注目され、栄養状態と移動能力の関連性に対する関心が高まっている。我々は過去3年間に骨関節疾患により当院に入院し理学療法を行った患者の約7割に栄養障害を認めたこと、栄養状態と歩行能力の再獲得に要する期間に関連を認めたことを確認した。このことは、適切な栄養サポートを行うことで、移動能力の回復が促進される可能性を示唆していると考えられた。そこで本研究では、栄養サポートチーム (Nutrition Support Team : 以下、NST) と連携した介入が、歩行能力再獲得までの期間に影響を及ぼす

のか、そしてその関連要因を検討することを目的とした。

【方法】 対象は、大腿骨近位部骨折により入院し術後理学療法を実施した患者で、NSTによる栄養サポート実施患者22名 (2014年10月~2015年9月入院) を介入群、NSTによる栄養サポート非実施患者8名 (2011年5月~2012年5月入院) を対照群とした。中枢神経疾患による歩行障害を有する者、神経筋疾患・糖尿病を有する者は除外した。介入群に対し、NSTにて理学療法の進捗状況や活動量及び栄養状態に応じ、食事摂取の内容や方法の検討を行った。調査は、年齢・性別及び疾患に関する一般情報、認知機能 (Mini Mental State Examination : 以下、MMSE)、栄養指標 (Controlling Nutritional Status : 以下、CONUT)、1日平均リハビリテーション実施単位数 (以下、平均実施単位数) の情報を収集した。術後から10m歩行が自力で可能となるまでに要した日数 (以下、歩行可能日数) の違いを、Mann-WhitneyのU検定を用いて2群間で比較した。介入群は、術後1週毎に生体電気インピーダンス法 (インボディ社製InBody S10) で四肢骨格筋量を計測し、骨格筋指標 (Skeletal Muscle mass Index : 以下、SMI) を算出した。歩行可能日数とSMIとの関連性を、Pearsonの積率相関係数を用いた相関分析により検討した。統計処理はIBM SPSS statistics 21を使用し有意水準は5%とした。

【結果】 介入群と対照群の2群間で、年齢、入院時のMMSE得点及びCONUT値、平均実施単位数に有意差は認めなかったものの、歩行可能日数は、対照群に比べ介入群は有意に短かった (介入群16.0±10.7日、対照群32.0±24.1日、 $p=0.019$)。相関分析の結果、歩行可能日数と術後1週目のSMI値に有意な負の相関を認めた ($r=-0.540$ 、 $p=0.031$)。

【結論】 大腿骨近位部骨折術後患者の早期歩行の獲得には、栄養サポートと共に運動療法を行うことが重要である可能性が示唆された。また歩行可能日数と術後1週目の四肢骨格筋量の関連性が示唆されたことより、術後の骨格筋量の低下を防ぐことは、早期歩行獲得の一助となるのではないかと考えられた。今後は術前から骨格筋量を経時的に評価し、周術期における栄養サポート開始時期の検討が必要である。

【倫理的配慮、説明と同意】 本研究はヘルシンキ宣言に沿い、倉敷平成病院倫理審査委員会と施設長の承認を得て実施した。入院時に、個人が特定できないよう配慮した臨床データを研究資料として利用することを説明し、書面により同意を得た上で実施した。

2016.5.27~29 第51回日本理学療法学会大会にて発表

失語症者と病棟スタッフとのコミュニケーション行動について

倉敷平成病院 リハビリテーション部

小幡 明日佳、青柳 政芳、木村 仁美、藤本 憲正

【目的】 病棟スタッフは、言語機能が不良な失語症者に対してもコミュニケーションが成立している場面にしばしば遭遇する。この要因について対話者側から明らかにする。

【研究方法】

<対象> 回復期リハビリテーション病棟スタッフ11名(男2/女9)。

<材料> コミュニケーションの成立方法について、廣實(2008)、Cumplingsら(2009)を参考に、言語コミュニケーションと語用論的コミュニケーション2領域からなるアンケート(20項目5件法)を作成した。このアンケートは、「表情の変化で訴えが推測出来ますか?」など、失語症者とのコミュニケーションの成立方法について調査した。得点が高いほどコミュニケーションが高いとした。

<手続き> 対象者であるスタッフにアンケートを行った。初回評価時とその2ヶ月後に再評価を行った。失語症者は、他の重篤な認知障害がない3例。

<分析方法> アンケート結果の得点率を従属変数とし、初回と再評価の結果を分析した。また同様に介護負担尺度(COM-B)を行い、初回と再評価の結果を比較した。

【結果】 コミュニケーション方法における得点率の変化は、初期評価と再評価の比較から、言語コミュニケーションすなわち言語手段やコミュニケーションノートなどによる方法は-4.7%と減少し、語用論的コミュニケーションは11.3%と増加した。コミュニケーション方法の割合、すなわち言語と語用論的コミュニケーション手段の割合は、初回評価では差がなかったが、再評価では差を認め、病棟スタッフは語用論的な方法を用いることが増えていた。コミュニケーション負担感について、COM-Bの総得点は差があり、負担の軽減がみられた($p=0.03$)。

【考察】 スタッフは言語機能的な支援方法が難しいと判断した場合、語用論的方法、すなわち非言語な方法などでコミュニケーションを行っていた。コミュニケーションノートなどに加え、語用論的な支援が有効であることが示唆された。

2016.6.11 第17回日本言語聴覚学会にて発表

造影CTにおける最適な造影条件を求めて

倉敷平成病院 放射線部

藤野 匡司、平松 利勝

【目的】 当院では従来、肝ダイナミックCTに用いる造影条

件は体重によって決定していた。しかし、この方法では体格の違う患者間で造影効果の差やバラツキが見られていた。そこで造影剤の脂肪組織への灌流がない性質に着目し、造影条件決定に体脂肪を考慮することで体格差に関係なく一定の造影効果が得られるのではないかと考え検証した。

【方法】 対象は2014年2月から2016年1月に肝ダイナミックCTを行った61名。その内、従来法は2014年2月～2015年4月の33名。体脂肪法は2015年5月～2016年1月の28名。

従来法：体重55から65kgまではそのままの体重を使用。それ以外では技師の判断。

体脂肪法：体脂肪率から除脂肪体重を求める。その体重に日本人の男女・年代別の体脂肪平均表から標準体脂肪率になるよう体脂肪を付加した体重を求め造影条件を決定する。

造影効果の評価は、早期動脈相での腹腔動脈分岐部レベルの腹部大動脈のCT値、単純・門脈相では肝実質のCT値を用いて体脂肪法と従来法で造影効果を比較検討した。

【結果】 早期動脈相の腹部大動脈での平均CT値は従来法で333HU、体脂肪法で297HU。門脈相の肝実質の濃染は従来法で平均71HU、体脂肪法で59HUであった。造影効果のバラツキは、体脂肪法が従来法より早期動脈相で47%、門脈相で26%減少した。また造影剤量は6.1%減少した。

【考察】 肝臓の造影法は確立されており平均的な体重を元に作られている。従来はそのままの体重を使用し、技師の判断で適宜造影条件を変更していた。そのため不確定要素も多く、造影効果のバラツキが多かったものと推測される。一方、我々の体脂肪法では、造影剤の灌流しない体脂肪を適正な量に調整し、造影条件を決定した。その結果、造影効果のバラツキが減少し、安定した検査を行う事ができた。この体脂肪法導入により、技師判断での曖昧な部分がなくなり、条件決定が画一化した事で安定した撮影が可能となった。

2016.6.23～24 第66回日本病院学会にて発表

病棟業務における薬学的管理の充実

倉敷平成病院 薬剤部¹⁾、看護部²⁾

稲葉 佳南¹⁾、小田 真澄¹⁾、木村 佳美¹⁾、中田 早苗¹⁾、安原 梨恵¹⁾、大西 優菜¹⁾、齋藤 文佳¹⁾、久原 典子¹⁾、榎原 一二三²⁾、市川 大介¹⁾

【目的】 当院では、周術期の内服薬管理を安全に行うため、外科系急性期病棟では薬剤師が毎日与薬の準備を行っている。内科系急性期病棟においても薬剤師が与薬に関わることで、薬物治療の質の向上やチーム医療の推進に繋がった

かについて検証を行った。

【方法】 内科系急性期病棟では看護師が与薬の準備を行っているが、平成27年4月より与薬準備前の臨時薬のセットを病棟薬剤師が行うことにした。平成27年5月～9月に薬剤師が薬物療法に介入した症例を集計・分析し、取り組みの評価を行った。また、取り組み前後に看護師へアンケートを行い、取り組みの評価を行った。

【結果】 期間中に行った内服薬に関する薬学的介入は170件であり、治療への反映率は87%であった。そのうち、内科系急性期病棟において開始した業務がきっかけで介入に至ったものは10件であった。内容は、絶食中の内服継続確認、中止薬の再開確認、処方薬と持参薬の重複投与など薬の適正使用に関するものだった。

取り組み前に看護師に行ったアンケート（n=54）において、「薬の変更・追加がわかりやすい」と回答した割合が38%と低かったことから、医師への介入・確認事項を電子カルテに記載するよう改善した。取り組み後のアンケート（n=51）では「わかりやすい」と回答した割合が60%に増加した。また、取り組み前後で、「業務負担が軽減されている」という回答が69%から86%へ、「チーム医療に役立っている」という割合が61%から92%へ増加した。

【考察】 薬剤師による病棟業務の充実が、より安全な薬物治療に結びつく契機となり、看護師の業務負担軽減にも繋がっていると示唆された。また、薬学的介入内容を電子カルテ上に記載し情報共有を行うことで、介入内容が伝わりやすくなり、チーム医療の推進に繋がったと考えられる。

2016.6.23～24 第66回日本病院学会にて発表

便秘解消ケアの実践 ～自然排便促進による患者と介護者の負担軽減を目指して～

倉敷平成病院 看護部

桑野 智章、吉田 芽生、今井 麻美、細田 愛歌、
梶田 茜

【目的】 当病棟では、高齢者が大半を占め、多くの患者が便秘の問題を抱えている。便秘は腹部膨満感や食欲不振等の身体的苦痛を伴い、QOL低下にも繋がる。また、座薬や浣腸等の便処置は血圧低下や腸管損傷等のリスクがある。更に、施設入所や福祉サービスを選択する際の制限や在宅での介護負担等が考えられる。そこで、自然排便を促し、患者と介護者の負担軽減に取り組んだ。

【方法】 当病棟の入院患者の排便状況と便処置の実施状況を確認し、2週間に3回以上何らかの便処置を行った患者を対象とした。①温電法・マッサージ（以下マッサージと称す）を1回/日、2週間実施した。40℃の湯で腹部温電法10分

間、その後腹部マッサージ5分間実施した。②ココアの飲用（以下ココアと称す）を2回/日、2週間実施した。ココア22gを白湯200mlで溶いて飲用した。①②実施後、結果分析を行い、病棟看護師にアンケート調査を行った。

【結果】 マッサージもココアも実施期間中の自然排便は増え、便処置は減少した。アンケート調査では、「患者の負担軽減に繋がる」はマッサージ76.9%、ココア84.6%であり、「介護者の負担軽減に繋がる」はマッサージ46.2%、ココア84.6%であった。「業務上負担に感じた」はマッサージ46.2%、ココア15.4%であった。ココアで排便状況が改善した自宅退院患者に資料を作成し、情報提供を行った。

【考察】 マッサージ、ココアともに自然排便が増え、便処置は減少傾向にあった為、両者ともに便秘解消に効果的であったと考える。しかし、マッサージは実施の負担感や手技の個人差があり、ココアは実施の負担は少ないがコスト負担がある。効果には個人差がある為、どちらを導入するかは排便状況や介護負担に応じて検討する必要がある。

2016.6.23～24 第66回日本病院学会にて発表

おむつの見直しによるコスト削減の取り組み

倉敷老健

竹内 真矢、佐々木 嘉信、小山 恵美子、大浜 栄作

【目的】 当施設は入所定員150名である。平成27年度介護報酬マイナス改定の影響を最小限に抑えるためには、コスト削減が必要である。その中で、現在、ほとんどの入所者がおむつを使用しているが、これまでコスト面や種類について十分に検討されていなかった。従来使用しているおむつと新商品とを比較検討し、新たに導入した尿取りパッドにより、職員の排泄用品の選定意識の向上とコスト削減に繋げることができたので報告する。

【研究方法】 対象：おむつ使用中の入所者

1. 現在採用中のおむつと別メーカーのおむつの特徴を比較検討し、おむつを選定。
2. おむつ選定後おむつ使用中の入所者140名に試用し、効果を検討。
3. おむつコストの比較及び職員へのアンケート

【結果】

- 1) 看護、介護、リハビリの多職種12名で、現在採用しているおむつのテープ止め、紙パンツ、尿とりパッド（430ml）、ビッグパッド（1600ml・2000ml）と別メーカーのテープ止め4種類、尿とりパッド7種類、ビッグパッド3種類を吸水の速さ、水分の逆戻り、さらさら感、濡れ感の4つのポイントで比較した。その結果、評価の高かった尿取りパッド900mlの試用を決定した。

- 2) おむつ比較は、評価の高かったおむつを入所者に試用して評価した。導入前は、尿量の多い入所者に対して吸収容量の多いパッドを使用したり、パッドを複数枚使用し、漏れを防ぐなどで対応していた。試用期間では、尿取りパッド900mlの導入によりパッドの選択肢が広がり、より排泄状況に合わせたケアが可能となった。
- 3) 現在使用している排泄用品1枚あたりの単価は、尿取りパッド15円、ビッグパッド小60円、ビッグパッド大90円。新たに導入する尿取りパッド900mlの単価が40円のため、ビッグパッドを使用するよりコストを削減することができた。導入前と比較して尿とりパッドの使用が毎月平均13箱、ビッグパッド1600mlも平均3箱減少し、平成26年度と平成27年度のおむつ費用を比較した結果266,041円を削減ができた。
- 4) 新用品導入後に介護職員42名を対象に使用感や業務改善等について排泄アンケートを実施した。導入した商品は使いやすい(93%)、失禁漏れ等でおむつ交換・更衣の回数が減った(93%)、新商品導入前に比べるとおむつ・パッドの選定意識が向上した(76%)、排泄介助の業務改善に繋がった(86%)、今後もおむつ比較や使用用品の見直しを行いたい(93%)、排泄の勉強会にも積極的に参加したい(81%)などの意見があった。

【考察】 新用品の導入により、排泄用品の選択肢が増え、入所者の排泄状況に応じたケアを行うことができるようになり、かつ、コスト削減を達成することができた。今後も日常業務の見直しを図り、職員一心となって更なる業務改善とコスト削減に繋げたい。

2016.8.18~19 第2回中国地区老人保健施設発表大会にて発表

歩行における下肢筋シナジーの加齢変化

倉敷平成病院 リハビリテーション部¹⁾、
神戸大学大学院 システム情報学研究科²⁾、
立命館大学 スポーツ健康科学部³⁾
戸田 晴貴^{1, 2)}、長野 明紀³⁾、羅 志偉²⁾

【目的】 本研究の目的は、高齢者と若年者における歩行中の筋シナジーの違いを分析することであった。

【対象】 対象者は、65歳以上で歩行補助具および介助なしで歩行可能な高齢者20名(男性10名、女性10名)と若年者20名(男性10名、女性10名)であった。歩行に影響を及ぼす疾患を有しているものはいなかった。本研究はヘルシンキ宣言に則って行われており、対象者には計測に先立ち研究目的と方法について文書および口頭で説明し同意を得た。

【方法】 課題動作は定常歩行とした。対象者は、7mの直線歩行路にて最も歩きやすい速度で歩行した。運動学データは、赤外線カメラ8台を用いた三次元動作解析装置 VICON MX (VICON Motion Systems 社製)を用いて計測した。同時に床反力は、床反力計 (AMTI社製) 8枚を用いて計測した。得られたマーカー座標データと床反力データから、筋骨格シミュレーションソフトOpenSim3.2を用いて筋張力の推定を行った。モデルは、23自由度92筋を使用した。各筋の活動度の2乗値の和が最小になるように最適化が行われた。解析に使用した筋は、下肢の10筋であった。筋シナジーの分析には、非負値行列因子分解を用いた。統計学的解析には、歩行速度を共変量とした共分散分析を用いて各シナジーに対する筋の貢献度の違いを分析した。また高齢者と若年者における各筋シナジーの活動パターンの一貫度は、相互相関分析を用いて分析した。統計解析には、SPSS 17.0 J for Windows (エス・ピー・エス・エス社)を使用した。有意水準は、5%とした。

【結果】 解析の結果、高齢者と若年者の両方とも5つのシナジーに分解することができた。その中でも、立脚後期に活動するシナジーにおいて、高齢者は下腿三頭筋や腸腰筋だけでなく股関節や膝関節筋など多くの筋が参加しており、同時収縮をしている傾向にあった。またさまざまなシナジーで、足関節筋の貢献度に加齢変化を認めた。筋シナジーの活動パターンにおいては、高齢者と若年者の間に高い一致度を認めた。

【考察】 本研究の結果、高齢者は立脚後期において下肢筋が同時収縮することと各シナジーにおける足関節周囲筋の貢献度が加齢により変化することが明らかとなった。この結果は、高齢者の歩行能力を改善するためには単純な筋力トレーニングのみでは不十分であることを示しており、運動制御の観点から介入方法を検討する必要性を示唆している。今後は、加齢により筋シナジーが変化する要因を明らかにし、筋シナジーを変化させるための運動療法の開発を行う必要がある。

2016.9.3~4 第30回中国ブロック理学療法学会にて発表

上耳介筋に対するストレッチングが僧帽筋・頸部伸筋の筋電図積分値に及ぼす影響

倉敷平成病院 リハビリテーション部 理学療法科¹⁾、
吉備国際大学 保健福祉研究所²⁾
妹尾 祐太¹⁾、井上 優^{1, 2)}

【はじめに】 種々の徒手療法やボディワーク、鍼灸等で、耳介へのアプローチが行われており、その中には肩こりの緩和を目的としたものもあるが、科学的根拠に乏しい。耳介周囲には、上耳介筋、前耳介筋、後耳介筋が存在する。臨

床上、耳介筋に対するストレッチング（ストレッチ）により、頭頸部筋の筋緊張軽減を経験することがあるが、その効果を検証した報告は皆無である。そこで本研究は、筋緊張の客観的指標として、筋電図積分値（integrated electromyography：IEMG）を測定し、耳介筋の一つである上耳介筋に対するストレッチによる、僧帽筋・頸部伸筋のIEMGへの影響を明らかにすることを目的とした。

【対象】対象は、健常若年男性14名（平均年齢 24.8 ± 1.8 歳）であった。本研究は、ヘルシンキ宣言に沿ったものであり、被検者に研究の内容を説明し、同意を得た上で実施した。

【方法】被検筋は左右の僧帽筋上部線維、頸部伸筋群とし、筋活動の測定には、表面筋電図EMGマスター（小沢医科器械社製）を用いた。端座位において、30秒間の安静後、検者が被検者の右耳介上部を把持して下方（右上耳介筋を伸張する方向）へ、頭頸部の運動を伴わないように、10秒間伸張した。その後、1分間安静とし、合計1分40秒間を解析対象とした。得られた筋電図データから、5秒間ごとのIEMGを算出し、ストレッチ前のIEMGで正規化した（%IEMG）。そして、ストレッチ前の%IEMGを基準として、その変化率を求めた。統計学的解析は、Shapiro-Wilk検定により正規性がないことを確認し、4筋において、各時間幅間の%IEMG変化率の差をSteel-Dwass法で多重比較を行った。有意水準は5%とした。

【結果】右僧帽筋において、%IEMGはストレッチ前と比較し、ストレッチ終了後0～5秒（-3.2%）と15～20秒（-6.4%）で、有意に低下した。右頸部伸筋群では、ストレッチ前よりストレッチ終了後0～5秒（-4.1%）で、有意に低下した。左頸部伸筋群では、ストレッチ前よりストレッチ開始後0～5秒（+3.9%）と5～10秒（+4.8%）で、有意に増大した。

【考察】Stecco（2011）は、上耳介筋が帽状腱膜に付着するため、その緊張は伝達すると述べている。Myersが提唱している筋筋膜経線のうち、Superficial back lineは足底筋膜から腓腹筋、ハムストリングス、脊柱起立筋などを介して帽状腱膜まで繋がる。また、僧帽筋と帽状腱膜の連続性も示されている。本研究の結果から、上耳介筋を伸張することが、筋や筋膜の連続性を介して、同側の僧帽筋や頸部伸筋の筋緊張を低下させる可能性があると考えられ、治療への有用性が示唆された。対側の頸部伸筋群のIEMGは増大したが、ストレッチに対する、頭頸部アライメント制御の結果と考えられた。今後は、耳介の伸張方向や時間、強さを検討し、セルフストレッチの効果を検証する必要がある。

2016.9.3～4 第30回中国ブロック理学療法学会にて発表

要介護高齢者および家族介護者の作業参加が健康関連QOLに与える影響について

倉敷老健 通所リハビリ¹⁾、

吉備国際大学 保健医療福祉学部²⁾

最相 伸彦¹⁾、藪脇 健司²⁾

【序論】現在、我が国では超高齢化に突入している。厚生労働省は地域包括ケアシステムにおいて要介護高齢者のみならず家族支援の強化を重点課題として挙げている。日常生活の中に介護が存在することは、仕事や家事、社会活動、余暇活動への制限など家族の生活に変化が生じると報告されている。また両者のニーズやQOLは異なる事、要介護高齢者との家族関係が家族介護者の精神的健康観に関連する事が報告されており、両者への同時介入の必要性が指摘されている。地域で要介護高齢者および家族介護者の生活支援に向け、作業療法士が果たす役割や効果を明示することは地域リハビリテーション分野で作業療法が貢献するためにも重要であるが、作業療法の焦点である作業参加が及ぼす影響について要介護高齢者および家族介護者の両者の関係性からは検討されていない。

【目的】本研究では、要介護高齢者および家族介護者の作業参加の特徴を把握し、両者の作業参加が健康関連QOLへ及ぼす影響を構造的に明らかにすることを本研究の目的とした。

【対象と方法】2015年5月～11月に介護保険サービスを利用している要介護高齢者（年齢 78.3 ± 8.6 歳）と同居している家族介護者（年齢 68.5 ± 10.5 ）で、研究の主旨に同意した82組の家族164名を対象とし、横断的質問調査票を行った。調査項目は、一般情報、作業参加の測定に自記式作業遂行指標（Self-completed occupational performance index；以下、SOPI）、健康関連QOLの測定にMOS 12-item Short Form Health Survey（以下、SF-12）を用いて収集した。SOPIは、今井ら（2008）によって開発され、余暇活動、生産的活動、セルフケアの3因子9項目で構成される。SF-12は、下位項目8因子12項目と3つのサマリースコアで算出される。データ分析として、SOPIの項目特性を項目得点多列相関と項目反応理論（段階反応モデル）によって検討した。階層性を検討する為、作業参加と健康関連QOLの級内相関係数を算出した。また、要介護高齢者と家族介護者の相互作用を検討する為、行為者-パートナー相互依存性モデル（Kenny, 2006）を用いSOPIの潜在変数を従属変数、SF12の各因子得点を独立変数とした構造方程式モデリングを実施した。統計ソフトウェアには、項目反応理論にexametrika 5.3、級内相関係数の算出と構造方程式モデリングにMplus ver.7.4を使用した。なお、本研究は、吉備国際大学研究倫理委員会の承認を得て実施した（受理番号14-41）。

【結果】項目得点多列相関は、要介護高齢者で0.65～0.84、家族介護者で0.83～0.91であった。項目反応理論では、要介護高齢者が識別力0.72～1.19、困難度-2.24～2.56、家族介護者が識別力0.97～1.81、困難度-2.11～2.22であった。SOP1の3因子とSF12の下位項目4因子に0.1以上の級内相関係数を認め集団内類似性を確認した。構造方程式モデリングでは、要介護高齢者の作業参加が自身の健康に与える行為者効果と家族の健康に与えるパートナー効果は同様に有意な影響を示した。標準化係数は、行為者効果が0.60でパートナー効果が0.44であり、共に強い影響を与えることが示された。家族介護者の作業参加においては、自身の健康に与える行為者効果のみ有意な正の影響を示した。標準化係数は、行為者効果が0.20でパートナー効果が0.32であった。適合度はCFI=.870、SRMR=.098、RMSEA=.107であった。

【考察および結論】項目分析の結果から、本研究で用いたSOP1は、要介護高齢者および家族介護者の作業参加を測定する全項目が適切に機能していると考えられる。また、構造方程式モデリングの結果から、作業参加は、健康関連QOLに対して相互に影響を及ぼす事が示唆される。この事は、今までは作業参加が個人の側面のみ捉えていたことに対し作業参加の相互作用プロセスを家族というコミュニティにおいて捉える事の有効性や可能性を示したと考えられる。

2016.9.9～11 第50回日本作業療法学会大会にて発表

当院通所リハビリ利用者の栄養状態と身体機能の関連性

倉敷平成病院 通所リハビリテーション¹⁾、
リハビリテーション科²⁾

隠明寺 悠介¹⁾、白神 祐侑¹⁾、服部 宏香¹⁾、黒川 恵子¹⁾、
阿部 紗千恵¹⁾、大島 葉奈¹⁾、行本 結衣¹⁾、高尾 祐子²⁾

【目的】当院通所リハビリテーション利用者の栄養状態と身体機能の関連性を明らかにすること

【方法】対象者は、当院通所リハビリテーション利用者61名(平均年齢81.2±5.9歳、男性21名、女性40名、平均介護度は要支援1.4、栄養改善加算算定者は除外した)。栄養状態の評価は、Body mass index(以下BMI)、簡易栄養状態評価表(以下MNA)を用いた。身体機能評価は、握力、片脚立位、30秒椅子立ち上がりテスト(以下CS-30)、Timed up and goテスト(以下TUG)、5m歩行速度とした。統計処理は、MNAの合計点が12点以上の群を栄養状態良好群、11点以下8点以上を低栄養リスク有群とし、各群においてBMI値を制御変数とした偏相関係数を用いて、上腕周径、下腿周径と身体機能評価の各項目間の相関係数を算出した。有意水準は5%未満とした。参加者には事前に書面にて同意を得たうえで実施した。

【結果】低栄養リスク有群において、下腿周径と片脚立位($r=0.5, p=0.02$)、下腿周径とCS-30($r=0.5, p=0.02$)、下腿周径とTUG($r=-0.5, p=0.2$)、下腿周径と5m歩行($r=-0.7, p=0.003$)に有意差を認めた。

【考察】低栄養リスク有群においてのみ下腿周径と身体機能評価の項目間に有意差、相関関係を認めており、栄養状態と身体機能との間の関連性が示唆された。

2016.9.11 第1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会にて発表

パーソン・センタード・ケア(PCC)の研修と、ひもときシートを用いたカンファレンス実施が通所リハビリテーション職員におけるPCC理解度に及ぼす影響

倉敷老健 通所リハビリテーション¹⁾、倉敷平成病院²⁾
叶 智子¹⁾、阿部 弘明¹⁾、須増 智美¹⁾、高尾 祐子²⁾

【目的】より良い認知症のケアについてPCCとカンファレンスを用いて再確認し、利用者・職員共に心地よい通所リハビリテーションをすること。

【方法】通所リハビリ職員25人を対象にPCCの研修を行った。その後、認知症利用者に関するカンファを行った。カンファでは、ひもときシートを用いた群(以下有り群)と用いない群(なし群)に分けた。2群間で経験年数を基準に両群に差が生じない様に振り分けた。研修前後とカンファ後の3回、ADQ日本語版で、PCCの理解度の変化を見た。研修前後、カンファ後におけるPCCの理解度の比較検討には、Mann-Whitney U testを用いた。

【結果】有り群の研修前ADQ総点平均69.54点(SD=6.08)、研修後70.54点(SD=7.30)、カンファ後71.69点(SD=6.88)であった。なし群の研修前ADQ総点平均71点(SD=8.19)、研修後72.42点(SD=7.90)、カンファ後72.25点(SD=6.50)であった。各評価間におけるPCCの理解度の比較にて、今回の標本数で検出できる差は認められなかった。

【考察】結果において、平均値で比較すれば、あり群の方がADQ得点の向上の傾向が見られたが、有意差は認められなかった。

研修が1回30分、カンファは1回20分と短時間での取り組みであった。今後、回数や時間を増やす事で、PCCの理解度が高くなる可能性が考えられる。

2016.9.11 第1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会にて発表

保育園児に対する読み聞かせが通所リハビリテーション利用者の心身機能に及ぼす影響について

倉敷老健 通所リハビリテーション¹⁾、
倉敷平成病院 リハビリテーション科²⁾
小関 麻未¹⁾、大西 康予¹⁾、高尾 祐子²⁾

【目的】 社会との交流減少は外出頻度の低下を引き起こし、活動量や心身機能の低下により閉じこもりがちになることが示唆される。よって社会との交流の機会として保育園児への絵本の読み聞かせを行うことが利用者の心身機能にどのような影響を及ぼすのか検証することとした。

【事例】 80代、女性。ADL自立にて現在独居で生活している。第1腰椎圧迫骨折・第12胸椎圧迫骨折の既往があり、腰の痛みによる活動性の低下を認めている。

【方法】 評価項目は、うつ症状の有無を評価するため老年期うつ病評価尺度 (Geriatric depression scale 15 ; GDS-15) を用い、QOLの評価としてShort Form-12 (SF-12) を用いた。保育園へ出向き、2、3歳児へ絵本の読み聞かせを行う。読み聞かせ実施前後でアンケートを実施し変化があるかを調査する。

【結果】 SF-12では実施前後で身体的側面 (PCS) が10.6から16.5、精神的側面 (MCS) が45.3から52.4、役割/社会的側目 (RCS) が36.3から41.4と向上した。又、6点以上を「うつ」と示唆するGDS-15でも実施前6点から実施後4点という結果となった。

【考察】 高齢者のうつの要因として身体機能の障害や認知機能の低下はもちろん、主観的健康観、生きがいの喪失等心理的要因も述べられている。今回の取り組みではSF-12、GDS-15共に改善が認められ、読み聞かせを通し社会への貢献の機会を得たことが利用者の心身機能の向上に影響を及ぼした可能性があると考えられる。

2016.9.11 第1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会にて発表

突発的な天候不良時に通所サービス利用者の安全な送迎についての検討

倉敷老健 通所リハビリテーション¹⁾、
倉敷平成病院 リハビリテーション科²⁾
小野 恵美¹⁾、山田 美弥子¹⁾、最相 伸彦¹⁾、高尾 祐子²⁾

【目的】 われわれ全仁会は、法人内での通所系サービスご利用者の送迎範囲は広域にわたる。近年、地球温暖化の影響で突発的に短時間に天候が悪化するなど、送迎時の悪天候の迅速なリスク管理が求められている。そこで安全なリス

ク管理の検討と運行マニュアル作成を目的とした。

【方法】 対象は、通所リハビリ職員 (47名) と送迎運転手 (32名) とした。方法は、現行の運行マニュアルの確認と照らし合わせ、警報時の具体的な送迎時の対応方法の検討、突発的な天候不良時の事前の検討をおこない安全な運行マニュアルを作成した。また、マニュアルの作成前後での職員の意識調査と実際の運用状況を確認した。

【結果】 安全マニュアル作成前後での、職員の意識調査では倉敷市のハザードマップを確認している項目に改善が認められた。その他の悪天候時の項目においては前後での改善は認めなかった。

【考察】 送迎マニュアルを作成することにより事前の行動も明確になり運用状況においてもスムーズな連携がはかれた。運転手のアンケートの結果においては低下する項目もあったが、意識的に気づけたことが自己評価の低下に繋がった要因であると考えられる。また、ご利用者のなかには独居生活の方もいる為、利用者の安全をどのように確認するかが今後の課題となった。今後は、運行マニュアルをもとに各部署との連携も強めていき利用者家族の満足度の向上にも繋がっていきたい。

2016.9.11 第1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会にて発表

脳血管障害を既往に持つ高齢者における外出頻度への影響因子

倉敷老健 通所リハビリテーション¹⁾、倉敷平成病院²⁾
大榮 勇貴¹⁾、最相 伸彦¹⁾、高尾 祐子²⁾

【目的】 厚生労働省より、地域包括ケアの構築に向け、地域在住の要介護高齢者の社会参加の支援と実現が求められている。本研究では、通所リハビリ利用者の外出頻度に着目し、外出頻度における身体特性と環境の影響を構造的に明らかにすることを目的とした。

【対象と方法】 当通所リハビリテーションを利用する脳血管障害を既往にもつ要介護者のうち、自立歩行が可能なもの25名に対し横断的質問調査を行った。調査項目は、一般情報、外出頻度としてLife space assessment、身体特性としてMini-Balance Evaluation Systems Testの低位項目の反応性姿勢制御と動的歩行を評価し、環境の評価としてHome And Community Environment日本語版を用いた。分析方法は、外出頻度に対する各従属変数を影響因子とした構造方程式モデリングにてHADを用い解析を行った。

【結果】 構造方程式モデリングの結果、CFI=0.931、

SRMR=0.068となり適合性が確認された。P値は交通環境のみ0.03と有意差を認めた。標準パス係数は反応性姿勢制御=0.05、動的歩行=0.23、交通環境=0.45、地域環境=-0.15であった。

【考察】本研究では、外出頻度に対する影響する因子として交通環境のみが優位差を認めた事から、外出頻度を増やす為には、交通環境が整備されている事が重要となる事が示唆された。またバランス能力も間接的に外出頻度に影響を与える可能性も示唆された。

2016.9.11 第1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会にて発表

高齢者施設のレピート利用により身体・認知機能の維持を図りながら、在宅生活を継続している事例の紹介

倉敷老健

檀上 香、和田 恵、竹内 真矢、野上 弘子、小橋 紗和子、小野田 温美

【目的】当施設では平成25年度より短期集中リハビリの体制を強化し、居宅介護事業所に対して在宅からのリハビリ強化目的での利用について広報活動を行ってきた。徐々にではあるが、主な利用目的としてリハビリを挙げる紹介が増えている。本事例を通し、地域包括ケアシステムにおける介護老人保健施設の在宅ケア支援施設としての側面について紹介する。

【事例】アルツハイマー型認知症の80歳代女性。要介護度3で娘家族と同居中。既往に糖尿病、2度の腰椎圧迫骨折がある。2年前から当施設を利用している。

【考察】今回が3回目の利用で、身体、認知ともに3ヶ月間の短期集中リハビリを実施した。入所時は前回と比較しFIMや生活自立度では変化がないものの、僅かな筋力低下やバランス能力の低下、注意や判断力の低下により転倒リスクが高まっていた。また、耐久性の低下も来していたが、機能訓練の実施により機能、耐久性ともに改善を図る事ができた。このように介護老人保健施設での集中的な機能訓練の機会をもつ事は、加齢に伴う身体機能の低下、認知機能障害の進行を緩やかに保つうえで有効であると考えられる。今後も、入院後の在宅復帰支援としての役割だけでなく、在宅でのケア支援を目的とした介護老人保健施設の活用も推進していきたい。

2016.9.11 第1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会にて発表

前頭側頭型認知症による反社会的行動に対して視覚コミュニケーション手段が与える影響について

倉敷老健 通所リハビリテーション¹⁾、
倉敷平成病院 リハビリテーション科²⁾
中山 風香¹⁾、高尾 祐子²⁾

【1.症例紹介】80歳代、男性の利用者様は、前頭側頭型認知症（以下、FTD）の疑いがあり、トイレや入浴、ミルクの注入などのケア実施時に反社会的行動が問題となっており、その対応に難渋している。今回は、コミュニケーション手段の変更が、暴力行為を減少させることが出来るか検討を行った。

【2.方法】従来は声かけにて説明を行っていたが、FTDの症状により、聴覚情報を利用した言語理解が難しいことが予測される。その為、視覚情報を利用し、ケアに関する「絵」を示しながら声掛けを行うコミュニケーション手段に変更した。

【3.結果】「絵」に注目し、職員の声かけに落ち着いて耳を傾け、首を振る事でYES・NOの返事をする事が可能となり、職員への反社会的行動が半分程度に減少した。しかし、未だにトイレ内の介助にて反社会的行動が認められることもある。

【4.考察】FTDにより、側頭葉の萎縮が認められており、聴覚的な言語理解が難しい事が考えられ、ケアに対する理解が不十分であったことが、反社会的行動に関連していたと考える。その為、「絵」による視覚的コミュニケーションを用いる事で、実施されようとするケアに対する理解を助けることができ、反社会的行動の減少に繋がった可能性が考えられる。しかし、反社会的行動が続き、難渋している為、今後は「絵」を提示する回数を増やし、細かい手順の説明を行うことで反社会的行動の減少に繋がるか検討する必要がある。

2016.9.11 第1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会にて発表

寝たきり、日中独居の方でも「我が家が一番」

へいせい訪問看護ステーション
濱田 ゆりか、木村 綾、山本 里織

【目的】介護保険サービスにおいては、心身の状態、家族背景、住環境等に応じ、その都度その方に合ったサービスを提供している。しかし疾患の進行、介護の重度化によっては入院、入所を余儀なくされることもある。A氏は寝たきり、日中独居だが多職種の連携、地域の方の協力で最期まで自宅で穏やかに過ごすことができた。

今後、増加すると予想されている中重度者、認知症、独居の方が地域で安心して過ごせるように多職種連携の重要性を経験したので報告する。

【事例】 90代、女性、脳梗塞にて寝たきり。発語なく胃瘻、尿管を挿入している。日中仕事をしている娘と二人暮らし。

【経過】 16年前脳梗塞発症、CMに相談しデイケア、ショートステイ、福祉用具利用。12年前に再梗塞を起こし、寝たきり、胃瘻、尿管挿入となる。病棟での退院指導、訪問看護、訪問リハビリ、訪問入浴追加。途中から訪問診療開始。またいつ起こるかかわからない浸水被害を想定し、市の保健師、町内会長、近隣の方の協力も得ての避難訓練の実施。娘の仕事スケジュールに合わせ、サービス内容や訪問時間を随時変更。病状に応じ介護保険から医療保険に切り替えての訪問看護サービスの提供で、最期まで我が家で過ごすことができた。

【考察】 本事例は家族の介護力が高かったこともあるが、退院時の病棟看護師による介護指導、CMのサービスマネジメントが的確にでき、多職種の連携がしっかり行えた結果といえる。

発語のない利用者でも表情、バイタル、排尿や排便、皮膚状態を観ることで気持ちよく過ごしているか判断できる。自宅で24時間安心して気持ちよく過ごせるように多職種での連携を強めていく必要がある。

2016.9.11 第1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会にて発表

当法人内における職種間連携の取り組みによって、身体機能改善を認めた1症例

ヘイセイ訪問看護ステーション
三木 真奈美、荻野 誉子、山本 幸

【目的】 2度の入退院で、食事量減少・身体機能低下したが、訪問・通所サービスの関わりにて改善を認めた症例を報告する。

【事例】 80代女性。3年前から脳梗塞を繰り返し、現在要介護5。夫・息子と3人暮らし。理解良好だが、失語のため表出困難。食事はペースト食・水分はちみつ状で7割自己摂取その後介助にて10割。1度目の入院で内服薬を変更後、活気低下・注意散漫さ増悪。全身筋緊張亢進。また、座位姿勢の安定性低下、上肢拙劣さ増強し自己摂取困難となった。さらに、夫の介助ペースが合わず食事量減少。4か月で体重47.9kg→40.4kg、TP6.7→5.5、ALB4.1→2.9へ低下。体調悪化、起居移乗動作全介助となり、2度目の入院となった。

【経過】 入院中STとの情報共有実施、退院後サービス担当者で話し合い、通所では介助にて10割摂取していたため夕飯も通所で取るプランに変更。訪問では、筋緊張調整・起居移乗動作能力の向上を中心とした機能訓練と、夫への介助指導を継続。自宅での自己摂取量含む食事量増加、身体機能改善を認め、起居移乗動作軽度介助となった。退院後2ヶ月で、体重43.7kg、TP6.5、ALB3.5と改善した。

【考察】 今回、情報共有を入院時から退院後まで継続し、自宅での様子を各サービス間で把握できたことで、状況変化に応じたサービス調整を行うことができた。さらに、自宅での介助指導を継続したことで、夫自身が介助方法を見直しを行え、身体機能の改善に繋がったと考える。

2016.9.11 第1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会にて発表

倉敷老健における入所者の体調管理の強化 看護体制の見直しを通じて

倉敷老健
永野 友美、渡辺 藤江、小山 恵美子、大浜 栄作

【目的】 当施設は開設時100床（本館）と増設50床（新館）の計150床からなる。入所者は高齢で主疾患以外に複数の疾患や合併症を有する者が多く、そのため合併症予防や体調管理を十分に行う必要がある。フロアの体制としては、平成26年度まで介護士は本館と新館の2つの固定チームに分かれ介護を行っていたが、看護師は固定チームに分かれていなかった。また、看護師の夜勤は本館担当と新館担当に分かれ、150名の入所者の状態を十分に把握しアセスメントを行っているとは言い難かった。今回、入所者の体調変化の早期発見と体調管理の強化に向けて、看護体制の見直しを行ったので報告する。

【研究期間】 平成27年4月1日～平成28年3月31日

【方法】

1. 面接や管理職ミーティングでの問題点の抽出、新体制づくりと業務改善
2. ケアの統一ため記録の充実とノートの活用
3. 平成26年度と平成27年度の入院数の比較

【結果】 これまでの看護業務の流れでは、各フロア（6フロア）担当の看護師と介護士が観察やケアなどを行い、問題があればリーダー看護師が医師に伝え指示を仰いでいた。しかし、リーダー看護師は対象人数が150名と多く、看護師は各フロアを日替わりで担当しており情報収集の困難さがあった。これらの事を踏まえ、看護管理職でのミーティングで入所者の体調管理を強化するために、看護師が対象人数を減らし状態を把握しやすくできる体制作りを行う必要

が挙げられた。看護師の対象を減らすために、担当フロアを介護度や動線を考え150床から3フロアずつの上フロア（69床）と下フロア（81床）へ変更した。また、看護師・介護士・リハビリスタッフが上下フロアに分かれ固定チームで対応するようにした。これにより、フロアの受け持ち看護師・介護士が入所者の状態を把握し易くなった。また、リーダー看護師も情報収集の対象人数が減り、状態の把握がし易くなった。これまでリーダー看護師は固定の看護師が行っていたが、看護の質をあげるためにリーダー業務のマニュアル化と教育を行い、複数でリーダー看護師ができるようにした。看護師はリーダー業務を通じ自信を深め、フロアの看護師や介護士に観察点や注意点について指示が出せるようになり、医師への報告も的確なものとなった。また、リハビリも固定のスタッフが担当するようにしたため、相談など誰にするかが明確になり対応がスムーズになった。これまで各フロアのケア等は、その日の担当の看護師と介護士が話し合っていた。しかし、統一したケアや観察などが、継続して行えるように経過記録に記入する従来の方法に加えて、新たに各フロアにノートを作成し、看護主任やリーダーが入所者への日常の関わりや注意点などを記入するようにした。これにより、看護の立場から観察やケアなどの理由や方法など示せることで、これまで以上に情報共有が可能となった。医師の診察については、リーダーから報告を受けた施設長が内科診察を行い、病院での治療が適切と判断した場合は受診または入院を行っていた。入所者の中には血圧の変動や心疾患のある者も多く、専門的な判断を要するケースがみられた。そのためリーダーがピックアップした入所者を週1回は老健内で循環器専門医に紹介状なしで診察してもらえらることになり、早期対応、治療に繋ぐことができた。当施設では、入所時にスクリーニングとして褥瘡アセスメントシートと足チェックシートを導入しているが、記入忘れなどが多く作成率が悪かった。そのため、用紙の記入について看護主任がチェックし、出来ていないスタッフにはフィードバックした。その結果、作成率は上フロア90%で下フロア100%となり、入所時に褥瘡リスクや足病変のリスク者の発見に繋がり、観察やケアに活かされるようになった。平成26年度と平成27年の入院者数を比較してみると、平成26年度は入所者数347名に対し入院者数が113名（32.6%）、平成27年度は入所者数371名に対し、入院者数が95名（25.6%）で18名（7%）減少した。平成26年度と平成27年度の転倒・転落者数を比較してみると、平成26年度は入所者数347名に対し転倒・転落者数が138名（39.8%）、平成27年度は入所者371名に対し、転倒・転落者数が119名（32.1%）で19名（7.7%）減少した。

【考察】 担当フロアの変更により、対象の入所者数が減ったことで状態の把握がし易くなった。このことから、異常の早期発見からアセスメントを行い医師へ報告し指示を仰ぎ治療までの時間が短縮され、早期の治療に生かされたと考える。看護師は担当入所者数の減少とスタッフの受け持ちの

固定導入に伴い、入所者の状態把握がし易くなり、又、看護・介護・リハビリが固定チームとなった事で、情報が共有化された。これにより各職種が自分の担当フロアを良くしていきたいという意欲の向上や責任の明確化に繋がったと考える。他職種と観察点やケアなどの統一を図るために記録やノートの活用を行った。このことは、各フロアのスタッフが観察やケアに対し統一した考えを持つことができるようになり有効であったと考える。入所時の褥瘡と足のスクリーニングの実施率が向上したことにより、入所後の観察やケアに繋がりリスク者の体調管理に繋がったと考える。今回の取り組みが、異常の早期発見や転倒転落の予防に繋がり、入院数の減少に繋がったと考える。

2016.9.15～16 第27回全国介護老人保健施設大会にて発表

軽度認知機能障害者【MCI】における認知機能評価リバーミード行動記憶検査【RBMT】の有効性について

倉敷平成病院 リハビリテーション部 言語聴覚科¹⁾、
認知症疾患医療センター²⁾
阿部 弘明¹⁾、涌谷 陽介²⁾、上田 恵子¹⁾、藤本 憲正¹⁾

【はじめに】 認知症やMCI患者は増加の一途をたどっている。早期診断・治療には、精度の高いアセスメントが必要である。しかし、診療で多用されるMMSEは、感度は高いものの、特異度はやや低めであると言われている。そこで本研究では、MCI患者のRBMT評価結果を検討する。

【方法】 対象者はNIA/AAの診断基準によりMCIとした10名【男性6名76.17±3.19歳 女性4名74.50±5.26歳】である。対象者はすべてMMSEの合計得点が24点以上【24.8±2.2点】であり、追加検査としてNPI、RBMTを実施した。統計処理はSPSS Statistics 17.0を用いた。RBMT標準プロフィール合計点、MMSE合計点、NPI合計点間の相関の検討にはspearmanの順位相関係数を用いた。RBMTの各下位項目の誤答率の検討には χ^2 検定を用いた。またRBMT標準プロフィール得点合計とMMSEの5領域【見当識、記銘、計算、再生、言語認知】得点の相関の検討にはspearmanの順位相関係数を用いた。

【結果】 対象者のRBMT標準プロフィール合計点、MMSE合計点、NPI合計点間に相関は見られなかった。RBMT標準プロフィール得点合計とMMSE5領域の得点間に相関は見られなかった。RBMTの下位項目ごとの検討では、有意に誤答率の高かった項目として、姓名、持ち物、顔写真、道順直後、道順遅延、見当識【日付以外】いずれも* $P < 0.05$ であった。なお、約束、物語【遅延再生】、用件【遅延再生】の4項目はすべての対象者で無得点であった。

【考察】 MMSE得点がカットオフ値を上回る場合でも、

RBMTでは7割の下位項目で有意に低下していた。これはMCIの患者では、認知機能低下をMMSEよりも俊敏にとらえることが可能であると考えられる。

【倫理的配慮】 所属機関の倫理委員会による承認を得た。

2016.9.22～25 第6回日本認知症予防学会学術集会にて発表

大腿骨近位部骨折術後患者の歩行能力と筋機能の関連 —シングルケースによる検討—

倉敷平成病院 リハビリテーション部
山崎 諒

【目的】 本研究の目的は、大腿骨近位部骨折術後患者の歩行能力に対する筋力および動作中の筋活動様式の変化の関連性を検討することとした。

【方法】 対象は大腿骨転子部骨折により観血的骨接合術を施行された80歳代の女性1名とした。筋力は徒手筋力計により股関節外転と伸展を等尺性収縮にて測定した。歩行の評価は快適歩行速度、歩幅、患側立脚中期での左右の肩峰および上前腸骨棘（ASIS）を結ぶ線と水平線のなす角度を計測した。歩行中の筋活動は、表面筋電計を用い計測した。被検筋は中殿筋（GMED）、大殿筋（GMAX）、大腿筋膜張筋（TFL）とし、wavelet変換を用いた周波数解析による平均周波数（MPF）の算出と積分筋電図解析（IEMG）を行った。計測は術後3/4/5週の3回行い、経時変化を検討した。

【結果】 歩行速度は3～5週目で向上傾向を認めた。肩峰の傾きは経時的に患側への傾斜角度が若干減少し、ASISは3/5週目には患側へ、4週目には健側へ傾斜した。歩幅は健側が減少した。股関節伸展筋力は向上したが、外転筋力はほとんど変化がなかった。GMAXのMPFは、立脚中期～後期において、GMEDでは立脚中期において5週目に低値を示した。TFLのIEMGは、全体的に低下した。GMAXのIEMGは活動のピークが前遊脚期から立脚後期へと変化し、GMEDにおいては立脚中期～前遊脚期の活動量が増加した。

【考察】 GMAX、GMEDは3/4週と比較し5週目には立脚中期以降のMPF低下を認め、経過とともに初期接地～荷重応答期での、より瞬間的な速筋線維の活動が増加したと考えられる。本対象者において筋力向上を認めたのは股関節伸展筋力のみであるにも関わらず、歩行中筋活動は量、質ともに変化を認め、これらが歩行速度向上に関与していると考えられる。

【結論】 大腿骨近位部骨折術後患者の歩行能力向上に対して筋力のみならず、動作中の筋活動様式が関与している可能

性が示唆された。

2016.11.5 第43回日本股関節学会学術集会にて発表

病棟薬剤業務の実施に対する評価と今後の課題

倉敷平成病院 薬剤部
中田 早苗、小田 真澄、古谷 佳美、稲葉 佳南、
大西 優菜、齋藤 文佳、久原 典子、市川 大介

【目的】 倉敷平成病院では、2012年4月から病棟薬剤業務を開始し、約4年が経過した。病棟薬剤業務を行う際も、処方受付から薬剤投与後まで様々な段階で多くの患者情報や薬剤情報を把握する必要がある。今回、薬剤師が調剤時に行った疑義照会事例を調査し、病棟薬剤業務との関わりを考察した。また、病棟薬剤業務実施に伴う他職種の満足度・期待度についてアンケートを実施し現状の評価と今後の課題について検証した。

【方法】 内科系急性期病棟を対象に、2016年3月から5月までの3ヶ月間、調剤時に行った疑義照会事例の抽出を行った。アンケートは医師、病棟看護師を対象に負担軽減の程度、今後期待する病棟薬剤業務について総合的な評価を問う設問とした。

【結果】 対象期間中、調剤時に、疑義照会を行った事例103件のうち101件（98%）が医師に受諾された。このうち病棟業務が関与していた事例は全体の69%を占めており「処方日数や開始日変更」「申し送りシステムを使用した薬剤変更」「持参薬に関連したもの」では特に多かった。また、平成27年度から急性期病棟において薬剤師が臨時薬の処理を開始し「薬剤師の介入により業務負担が軽減した」と回答した割合が、開始前の69%から86%に増加した。また、「今後、薬剤師に期待する業務」について、専任薬剤師を配置している急性期病棟では「配薬・服薬確認」等の薬の管理に関する項目、専任薬剤師の配置がない回復期病棟では「退院指導」「転棟時情報提供」等の薬剤師の介入と薬剤情報に関する項目が多かった。

【考察】 処方箋の内容に関する疑義照会は調剤室で行っているが、細かい患者情報や服薬状況は十分に把握出来ない場合がある。調剤前に病棟担当薬剤師から情報を得ることや情報を共有することは、業務の効率化と疑義照会の充実に繋がった。また、持参薬と入院時処方薬をきめ細かく管理することで、重複投与防止等、医療安全に貢献すると考えられる。当院では、回復期病棟に専任薬剤師の配置がなく、介入が十分に出来ていないため、薬剤師の配置を含めた病棟業務拡大については今後の課題といえる。加えて、薬剤師による持参薬や定期薬の処方入力支援体制の構築等、医師の負担軽減に関わる業務についても検討していく必要がある。今後も継続して、他職種と協議しながら病棟薬剤業

務の質の向上と効率化を図り、薬物療法により深く寄与していきたいと考える。

2016.11.5～6 第55回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会にて発表

HbA_{1c}測定によって一酸化炭素中毒を診断し得た1例

倉敷平成病院 臨床検査部

宮川 愛里、森山 研介、藤田 昌美、美納 妙香、木口 直哉、小橋 博子

【はじめに】 HbA_{1c}測定はHPLC法がゴールドスタンダードであるが、各ヘモグロビン (Hb) 成分を分離したクロマトグラムは異常Hb等により様々な波形パターンを示す。今回我々は、異常ピークを認めた患者から一酸化炭素中毒の診断に結び付いた症例を経験したので報告する。

【機器】 東ソー株式会社 HLC-723 G9

【症例】 50代、女性。眩暈、脱力感を自覚し救急車にて当院搬送。アテローム性脳梗塞疑いにてHbA_{1c}を測定した結果 5.5%、カラムチェックエラーが出現し、TP (理論段数) は170で低値であった。また、クロマトグラム上のSA1cのピーク幅が大きくなり、AOピークにかけてスラー様の形状が見られた。再検後も変化は無く、他検体の測定では問題無いため検体依存の異常と判断した。これらより、異常Hbの存在が疑われた。また、文献的知見から一酸化炭素中毒も考えられた。そこで、CBC検体を血液ガス分析したところCOHb 32.4%であった。担当医に報告し、再度問診を行った結果、一酸化炭素中毒が最も疑われた。異常Hbの可能性も考慮し、ラテックス法・アフィニティー法・汎用HPLC法 (40分分析) での分析を依頼したがいずれも可能性は低いと考えられた。

【考察】 TPIはカラムの性能の指標に用いられる。ピーク幅に依存し、太くなるほどTPが低下するためカラムチェックエラーが出現したと思われた。また、HPLC法では各Hb成分の電荷の違いにより分離を行っている。HbA_{1c}は中性であり、一酸化炭素もそれに近い電荷状態であったため、SA1cピークにCOHbが測り込まれて特徴的な形状になったと考えられた。

【まとめ】 HPLC法によるHbA_{1c}測定において、エラーや異常ピークが特定の検体で発生した場合は異常Hb等が考えられる。よって、可能な限り原因を解明する必要がある。一方、救急患者ではピークの形状や臨床症状の聴取を行った上で、一酸化炭素中毒の可能性が推測される場合には速やかに臨床に報告することが重要である。

2016.11.26～27 第49回中国四国医学検査学会にて発

表

通所利用在宅高齢者における運動とBCAA併用が栄養状態や筋肉量に及ぼす影響についての検討

倉敷平成病院 栄養科¹⁾、ピースガーデン倉敷²⁾

平田 沙織^{1, 2)}、中野 聖子¹⁾、小野 詠子¹⁾

【目的】 平成25年に開設した複合型介護施設のピースガーデン倉敷では、平成27年7月よりリハビリに特化したデイサービスを稼働した。自立して生活している高齢者であっても低栄養の割合が多いとされており、特に通所サービスのみ利用している在宅高齢者では、頻回な採血や日常生活の把握が困難であるため栄養状態が掴めないままリハビリを行うことも少なくない。今回、筋肉量増加を促進しリハビリ効果を高めるとされているBCAA含有栄養補助食品 (リハたいむゼリー) を用いることで、栄養状態や筋肉量に及ぼす影響について調査した。

【対象】 平成28年6月20日～7月22日にピースガーデン倉敷リハビリステーションピース利用中で、本人または家族に同意が得られた利用者10名 (男性4名、女性6名、平均年齢82.7±5.7歳、平均介護度1.28)。

【方法】 MNA-SFを用いて栄養状態を評価、運動後にリハたいむゼリー1本摂取し介入前後で体重、BMI、上腕周囲長 (AC)、下腿周囲長 (CC)、FIM、握力を測定し、比較した。

【結果】 MNA-SFによる栄養評価では平均12.9点。介入前後の平均値の比較ではAC、CC、握力では介入後に増加した。FIMは変化がみられなかった。BMIはほぼ変化がみられなかった。リハたいむゼリーは利用者の嗜好に合い、摂取しやすくと好評で無理なく続けることができた。

【考察・結語】 当施設利用者は低栄養状態はなく、運動後にリハたいむゼリーを摂取し、AC、CCが増加したことで筋肉量が増加したと考えられる。運動後のBCAA補給は筋肉量増加が示唆されたため、今後リハビリ効果の検証も続けていきたい。患者自身が改善を自覚することによって、栄養摂取に対する意識が向上し、リハビリと栄養の相乗効果が得られ、良循環へ導くことができると考えられる。しかし当施設における運動機能や運動量に対する栄養量の明確な基準を示すことはできておらず、今後さらなる取り組みと検討を行う必要がある。

2017.2.23～24 第32回日本静脈経腸栄養学会等にて発表

老健施設内の褥瘡保有者への栄養強化－管理栄養士の活動－

倉敷老健¹⁾、倉敷平成病院²⁾

梶子 恵美¹⁾、小野 詠子²⁾、小山 恵美子¹⁾

褥瘡治療には全身管理、局所療法と並んで栄養管理が重要である。当施設では医師・看護師・介護士・理学療法士・言語聴覚士・管理栄養士による褥瘡回診やNST活動を行っており、褥瘡保有者にも多職種関わっている。今回、褥瘡保有者に管理栄養士が中心となり個人の特性と褥瘡の状態に合わせたたんぱく質強化を行い褥瘡の改善、治癒がみられたので報告する。

2017.3.5 第17回日本褥瘡学会中国四国地方会にて発表

学会・研修会等参加

(医 局)

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人 数
4	第81回日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会	高知	医局	1
	第59回日本形成外科学会総会・学術集会	福岡	医局	2
	第113回日本内科学会総会・講演会	東京	医局	5
	第16回日本核医学会春季大会	大阪	医局	1
	第32回臨床皮膚科学会総会	岡山	医局	1
5	第89回日本整形外科学会学術総会	神奈川	医局	1
	第57回日本神経学会	兵庫	医局	3
	第6回総社市地域医療連携ネットワーク会議	総社	医局	1
	第36回日本脳神経外科コンgres総会	大阪	医局	2
	第117回日本耳鼻咽喉科学会総会	愛知	医局	1
	日本麻酔科学会第63回学術集会	福岡	医局	1
6	第115回日本皮膚科学会総会	京都	医局	1
	第25回日本脳ドック学会総会	長野	医局	1
	第53回日本リハビリテーション医学会学術集会	京都	医局	2
	第16回日本抗加齢医学会	神奈川	医局	1
	第7回日本プライマリケア連合学会学術大会	東京	医局	1
	中国四国リウマチ医の会（第5回）	山口	医局	1
	第31回日本老年精神医学会	石川	医局	1
	第4回岡山県認知症臨床倫理研究会	岡山	医局	1
	第100回日本神経学会中国・四国地方会	島根	医局	2
第25回日本神経学会中国・四国地方生涯教育講演会	島根	医局	1	
7	第8回日本創傷外科学会総会学術集会	東京	医局	1
	第57回日本人間ドック学会学術大会	長野	医局	1
8	第7回日本脳血管・認知症学会学術大会	石川	医局	2
9	第14回日本臨床医療福祉学会	秋田	医局	1
	第18回中国四国脳卒中研究会	広島	医局	1
	第31回日本皮膚外科学会	静岡	医局	1
	日本脳神経外科学会第75回学術総会	福岡	医局	2
10	第31回日本整形外科学会基礎学術集会 第13回日本整形外科学会指導者講習	福岡	医局	2
	第7回総社市地域医療連携ネットワーク会議	総社	医局	1
	第19回日本栓子検出と治療学会	兵庫	医局	1
	平成28年度人間ドック健診専門医認定試験	東京	医局	1
	第44回日本頭痛学会総会・教育セミナー	京都	医局	1
	第67回皮膚科学会中部支部学術大会	大阪	医局	1
	第11回日本リハビリテーション医学会学術集会	石川	医局	1
第5回岡山県認知症臨床倫理研究会	岡山	医局	1	
11	第34回日本神経治療学会総会	鳥取	医局	1
	第70回日本臨床眼科学会	京都	医局	1
	総社市愛育委員協議会ブロック研修会	総社	医局	1

月	学会・研修会	場所	部署	人数
11	第68回日本皮膚科学会西部支部学術大会	鳥取	医局	1
12	第35回日本認知症学会学術集会	東京	医局	1
	第101回日本神経学会中国・四国地方会	岡山	医局	2
1	平成28年度第6回認知症サポート医養成研修	東京	医局	1
2	第6回岡山県認知症臨床倫理研究会	岡山	医局	1
3	第42回 日本脳卒中学会学術集会	大阪	医局	1
合計				59

(部署別)

月	学会・研修会	場所	部署	人数
4	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会（香川県）	香川	検査部	2
	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会（広島県）	広島	検査部	2
	日本放射線技術学会 第72回総会学術学会	神奈川	放射線部	1
	第108回福山MRI勉強会	福山	放射線部	1
	第33回倉敷栄養ネットワーク	倉敷	栄養科	1
	メディカルコード活用研究会	福岡	事務	3
	医師事務作業補助者研修	大阪	事務	1
	次期医療介護同時改定に向けて～老建施設の目指すべき役割	倉敷	倉敷老健	8
	平成28年度要介護認定調査員 新規研修	岡山	倉敷老健・居宅	3
	岡山県認知症臨床倫理研究会	岡山	通所リハ	1
	第2回人間作業モデル事例検討会 四国	愛媛	通所リハ	2
	岡山県認知症倫理研究会 第3回研究会	岡山	通所リハ	1
4月小計				26
5	平成28年度感染制御専門薬剤師講習会	福岡	薬剤部（感染対策部）	1
	リスクマネージャー育成研修	岡山	2F	1
	楽しい看護研修	岡山	2F・3東・3西・4東・4西	6
	2016年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル	岡山	3東	1
	プリセプターナースの教育力を身につける	岡山	3東・3西・4東	3
	九州臨床動作法 研修会	福岡	CP	1
	平成28年度感染制御専門薬剤師講習会	福岡	薬剤部	1
	第17回合同MRI勉強会	広島	放射線部	1
	第3回岡山Brest Meeting	倉敷	放射線部	2
	K-CAST（倉敷脳卒中チームケア研究会）	倉敷	栄養科	1
	クレームや暴力（セクハラ含）への対応	岡山	医療安全	1
	医療現場における事故低減とRMの実務 四大ミスの低減にむけて	岡山	医療安全	1
	脳卒中連携協議会	倉敷	地域連携室	1
	第6回総社市地域医療連携ネットワーク会議	総社	地域連携室	1
	倉敷もの忘れ・認知症事例検討会	倉敷	認知症疾患医療センター	6
	第12回倉敷地区情報交換会	倉敷	事務	2
	第14回瀬戸内医療情報ネットワーク、福山医師会勉強会	広島	事務	1
	第9回広島県医療情報技師会	広島	事務	1
	医事研究会（新任者教育基礎講座）	岡山	事務	2
	岡山県老健協学術委員会役員会	倉敷	倉敷老健	1
排泄ケアセミナー 排泄ケアな1日を過ごしましょう。	岡山	倉敷老健	1	
排泄ケアセミナー オムツはずしことはじめセミナー	岡山	倉敷老健	1	

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人 数
5	効果的な広報誌の作り方	岡山	倉敷老健	1
	介護現場で役立つ機能訓練の方法	岡山	グランドガーデン南町	1
	第14回高齢者住宅入居フォーラム 一般社団法人コミュニティーネットワーク協会主催	大阪	ローズガーデン倉敷	2
5月小計				41
6	ファシリテーションスキルアップ	岡山	2F・3東	2
	第1回病院看護師のための認知症対応力向上研修会	東京	2F・3東・3西・4東・4西	5
	第1回看護研究会（新任看護師教育講座）	岡山	2F・3東・3西・4西	6
	プリセプターを育てる師長・主任の役割	岡山	2F・4東	2
	臨床に活かせる薬の知識	岡山	3西	1
	在宅介護推進の最新の動向	岡山	3東	1
	糖尿病をもっと知ろう！～基礎から最新まで～	岡山	3東・3西	2
	心不全患者の看護	岡山	3東・3西	2
	リーダーシップ	岡山	4東	1
	第17回日本認知症ケア学会	兵庫	ケアサポート・倉敷老健・通所リハ・地域包括	8
	平成28年度生活行為向上マネジメント基礎研修会	倉敷	OT	2
	平成28年度成人ボバースアプローチ認定基礎講習会	福岡	OT	1
	第17回日本語聴覚学会	京都	ST	1
	平成28年度NST専門療法士研修	岡山	ST・薬剤部・歯科	3
	高齢者のうつ病と認知症－鑑別と関連（ビデオ）	倉敷	CP	3
	第64回日本化学療法学会総会	兵庫	薬剤部（感染対策部）	1
	第110回福山MRI勉強会	広島	放射線部	3
	第10回岡山CTテクノロジー	岡山	放射線部	2
	第34回倉敷栄養ネットワーク	倉敷	栄養科	1
	第39回日本栄養アセスメント研究会	兵庫	栄養科	1
	カムロックセミナー in岡山	岡山	事務	3
	平成28年度倉敷市介護保険事業者等連絡協議会総会	倉敷	倉敷老健	1
	リフレケア改善セミナー 日本の介護現場に何が必要か？現状のケアと目指すケアの違いは？	岡山	倉敷老健	2
	第23回倉敷リハビリテーション看護研究会 認知症介護について	倉敷	倉敷老健	2
	平成28年度第1回西Aブロック研修会 接遇研修（心を伝えるカタチ）	倉敷	倉敷老健	4
	第57回日本神経病理学会総会	広島	倉敷老健	1
	平成28年度認知症介護実践者研修	岡山	倉敷老健	4
	リハ栄養フォーラム2016	岡山	倉敷老健・予防リハ	6
	第23回倉敷リハビリテーション看護研究会	倉敷	倉敷老健・通所リハ	3
	生活行為向上リハビリテーション研修会	大阪	予防リハ	1
	第41回岡山県介護福祉研究会	岡山	予防リハ	1
	H28年度畿央大学ニューロリハビリテーションセミナー	奈良	通所リハ	1
在宅看護の現状について	倉敷	グランドガーデン南町	1	
2016年度ユニットケア研修（座学）	岡山	特養	1	
6月小計				79
7	あなたの施設の災害対策は？	岡山	外来	1
	褥瘡に強いナースになる！B日程	岡山	外来・美容センター・3東・4西	4
	平成28年度新卒・新入会員研修会D日程	岡山	中材・2F・3西	5
	パートナーシップ・マインドを学ぶ	岡山	2F	1

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人 数
7	平成28年度新卒・新入会員研修会A日程	岡山	2F・3東・3西・4東	6
	平成28年度新卒・新入会員研修会B日程	岡山	3東・3西・4東・4西	5
	平成28年度新卒・新入会員研修会C日程	岡山	3西・4東	2
	認知症の理解とケア	福岡	2F・3東・3西・4東・4西	5
	薬はリスク～薬剤による医療事故を回避しよう～	岡山	2F・3東・訪問看護	3
	平成28年度第2回看護師職能集会「管理者に求められる業務・環境改善力」	岡山	2F・4東	2
	第1回就労環境改善研修会「夜勤・交代制勤務の諸問題と対策」	岡山	2F・4東	2
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識 日程①	岡山	3東・4東	2
	急変に気付く（A日程）	岡山	3西・4東・4西・訪問看護	4
	平成28年度岡山県保健師助産師看護師実習指導者講習会	岡山	4東	1
	看護師に求められる倫理	岡山	4東・4西	2
	自動車運転&就労支援	倉敷	CP	2
	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会	大阪	検査部	1
	第30回FUKUYAMA CT MEETING	広島	放射線部	2
	第11回MICCSプログラム	岡山	放射線部	1
	倉敷NST研究会	倉敷	栄養科	3
	岡山県老人保健施設協会栄養士部会 第1回研修会	岡山	栄養科	1
	病院協会第6回医事業務研究会（DPC勉強会）	岡山	事務	2
	平成28年度MDS総会並びに第1回勉強会	東京	事務	1
	診療報酬請求事務セミナー	東京	事務	1
	岡山県老人保健施設協会栄養士部会第一回研修 健康機能性食材として的大麦～もち麦を中心として～	岡山	倉敷老健	1
	認知症介護実践者研修	岡山	倉敷老健	6
	サルバドケアセミナー 今日から始まる自立介護支援	倉敷	倉敷老健	3
	第10回岡山県在宅褥瘡セミナー	倉敷	倉敷老健	2
	感染対策エキスパート養成研修	岡山	倉敷老健	1
	第34回全国デイ・ケア研究大会	東京	予防リハ	1
	訪問看護管理者研修	岡山	訪問看護	1
	中国ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会職員研修〈初任者研修〉	広島	居宅	1
	H28年度有料老人ホーム及びサービス付き高齢者向け住宅 集団指導	岡山	ローズガーデン倉敷	1
	人事・労務管理研修	岡山	ピースガーデンショートステイ	1
	福祉職員生涯研修 指導コース	岡山	ピースガーデンショートステイ	1
	平成28年度 地域密着型施設部会 ユニットリーダー研修	岡山	特養	1
2016年度ユニットケア研修（実地）	広島	特養	1	
7月小計				80
8	看護研究 ～研究っておもしろい！？～	岡山	外来・4東	2
	看護実践に活かすケアリング～看護を哲学的に振り返ろう～	岡山	3西・4西	2
	看護管理者のためのストレスマネジメント～ストレスと上手に付き合おう～	岡山	4西	1
	看護データマイニング ～統計分析とプレゼン～	岡山	4西	1
	第44回新しい片麻痺への促通反復療法（川平法）実技講習会	岡山	PT・OT・通所リハ	6
	第22回倉敷大腿骨頸部骨折地域連携診療計画管理情報交換会	倉敷	PT・地域連携室	2
	第16回倉敷大腿骨頸部骨折研究会	倉敷	PT・地域連携室	2
	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会	香川	検査部	4
	第112回福山MRI勉強会	広島	放射線部	2
	FUJI FILM MEDICAL SEMINAR 2016 in 岡山	岡山	放射線部	2

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人 数
8	第48回デジタルマンモグラフィ技術講習会	兵庫	放射線部	1
	第35回倉敷栄養ネットワーク	倉敷	栄養科	1
	第一回倉敷かけはしの会	倉敷	医療福祉相談室	1
	第10回岡山県認知症疾患医療センター連絡会議	岡山	認知症疾患医療センター	3
	倉敷もの忘れ・認知症事例検討会	倉敷	認知症疾患医療センター	6
	第4回医事業務全国セミナー	岡山	事務	3
	第二回中国地区老人保健施設発表会	岡山	倉敷老健	11
	倉敷市介護保険事業所等連絡協議会研修会 地域生活支援を主眼においた災害時の支援のあり方～平成28年熊本地震の支援を通じて～	倉敷	倉敷老健	1
	倉敷市介護保険事業所等連絡協議会研修会 地域包括ケアの実現に向けた在宅生活継続のための支援ポイント～小規模多機能の取り組みから考える～	倉敷	倉敷老健	1
	通所リハ実践・強化セミナー	東京	予防リハ	1
	岡山県介護支援専門員実務研修 見学実習指導者研修会	岡山	ケアプラン	1
	在宅・高齢者ケア施設等で働く看護職の交流会	岡山	グランドガーデン南町	1
	院内感染 アウトブレイクの対応研修会	総社	ピースガーデンショートステイ・特養	2
	平成28年度 岡山県福祉職員生涯研修 指導コース	岡山	特養	1
	特定給食施設関係者研修会	岡山	特養	1
	魅力ある職場づくりのために	岡山	特養	1
8月小計				60
9	災害看護「実務編」	岡山	外来	1
	第3回看護師職能集会「看護現場を活性化させる人間関係術」	岡山	2F・3東	2
	第15回香川感染管理及び滅菌業務研究会	香川	中材	1
	第14回日本臨床医療福祉学会	秋田	看護部	1
	Risk Management IT講演会	倉敷	CP	3
	第26回日本医療薬学会	京都	薬剤部	1
	第113回福山MRI勉強会	広島	放射線部	1
	第9回岡山CTコロノグラフィー研究会	岡山	放射線部	3
	第44回日本磁気共鳴医学会大会	埼玉	放射線部	1
	平成28年度給食施設栄養管理研修会	岡山	栄養科	1
	日本医療秘書実務学会 第7回全国大会	倉敷	事務	8
	施設送迎運転従事者研修	玉島	事務	1
	第1回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会	倉敷	倉敷老健・通所リハ・訪問看護	18
	メリオ感染対策セミナー 介護における感染対策	岡山	倉敷老健	1
	平成28年度 第2回西Aブロック研修会 口腔ケアポイント	倉敷	倉敷老健	1
	看護協会研修会 看取り看護	岡山	倉敷老健	1
	平成28年度給食施設栄養管理研修会	倉敷	倉敷老健	1
	平成28年 岡山県認知症介護基礎研修 認知症の人の理解と対応の基本 認知症ケアの実践上の留意点	岡山	倉敷老健	1
	平成28年度第2回西Aブロック研修会	倉敷	倉敷老健	2
	岡山県認知症介護基礎研修	岡山	倉敷老健	1
	看取りの看護B日程	岡山	倉敷老健・訪問看護	2
全国介護老人保健施設大会	大阪	倉敷老健・グランドガーデン	6	
第2回メリオ感染対策セミナー	岡山	倉敷老健・ピースガーデン ショートステイ	2	
第50回日本作業療法学会	札幌	通所リハ	1	
腎疾患看護	岡山	訪問看護	1	

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人 数
9	重症心身障害児・者の看護研修会	岡山	訪問看護	1
	看護現場を活性化させる人間関係術	岡山	ピースガーデンショートステイ	1
9月小計				64
10	聴く力・伝える力を育てる～職場環境改善にむけて～	岡山	美容センター・2F・訪問看護	3
	フィジカルアセスメント「基礎編」	岡山	2F	1
	新人看護職員教育担当者研修（6日間）	岡山	2F	1
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識 日程②	岡山	2F・3西・4西	3
	糖尿病患者の看護～患者のやる気をひき出す～	岡山	3西	1
	認知症対応力向上研修	岡山	3西	1
	摂食・嚥下障害B日程	岡山	3西・4東	2
	褥瘡に強いナースになる！C日程	岡山	4東・倉敷老健	2
	岡山県認知症臨床倫理研究会第5回研修会	岡山	4東・通所リハ	3
	転倒・骨折予防とロコモティブ症候群	岡山	4西	1
	感染管理「ビギナーコース」	岡山	4西	1
	回復期リハビリテーション病棟協会 第95回全職種研修会	福岡	4西・相談室	2
	ブリーフセラピー入門/ワークショップ	愛媛	CP	3
	レミニール全国Web講演会	倉敷	CP	3
	岡山運動器疼痛セミナー（秋期）	岡山	CP	2
	平成28年度日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会	岡山	薬剤部（医療安全部）	1
	第17回日本糖尿病療養指導士受験者用講習会	大阪	薬剤部	1
	第3回中四国東芝CTユーザー会	岡山	放射線部	2
	根本ユーザーミーティング	岡山	放射線部	4
	第36回倉敷栄養ネットワーク	倉敷	栄養科	1
	第16回呼吸療法セミナー 2016	岡山	臨床工学課	1
	第7回総社市地域医療連携ネットワーク会議	総社	地域連携室	1
	平成28年度在宅難病患者一時入院事業協力病院連絡会	岡山	医療福祉相談室	1
	RUN伴（らんとも）2016	倉敷	認知症疾患医療センター	5
	第15回岡山県医師事務ケーススタディー	岡山	事務	4
	送迎（福祉）車輛安全運転講習会	岡山	事務	1
	平成28年感染症対策研修会 平常時からの感染症危機管理	倉敷	倉敷老健	2
	会議支援部会 あいサポーター研修	岡山	倉敷老健	1
	認知症介護実践者研修	岡山	倉敷老健	1
	あいサポート研修・情報交換会	岡山	倉敷老健	1
	平成28年度認知症介護実践研修	岡山	倉敷老健	1
	地域ケアシステムのつくり方	倉敷	予防リハ・居宅	1
	岡山県認知症倫理研究会 第5回研究会	岡山	通所リハ	2
	H29年度畿央大学ニューロリハビリテーションセミナー	奈良	通所リハ	1
	統合失調症や気分障害の理解と対応	岡山	訪問看護	1
	フィジカルアセスメント	岡山	訪問看護	1
第17回介護保険推進全国サミットinおかやま	岡山	地域包括	4	
H28年度秋季セミナー（公社）全国有料老人ホーム協会主催	大阪	ローズガーデン倉敷	2	
第7回オールジャパンケアコンテスト	鳥取	グランドガーデン南町	3	
介護サミットinおかやま	岡山	グランドガーデン南町	3	
平成28年度 感染対策研修会（社会福祉施設等）	倉敷	特養	1	
10月小計				76

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人 数
11	急変に気付く（C日程）	岡山	外来・3東・3西	4
	脳卒中患者の看護	岡山	外来・4東・4西	3
	第5回看護師職能集会「中堅ナースのモチベーション」	岡山	2F	1
	認知症のある高齢者の理解	岡山	2F・3西・4西	4
	家族に介護が必要になった時～仕事との両立を応援します～	岡山	3東	1
	経営管理研修会	岡山	3西・4東・看護部・事務	8
	感染管理「アドバンコース」	岡山	4西	1
	第15回日本通所ケア研究大会第12回認知症ケア研修合同大会	広島	PT・通所リハ	2
	専門職のためのKAWASAKI認知症セミナー 高齢者と運転免許	倉敷	CP	1
	第55回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会	岡山	薬剤部	2
	第26回日本乳癌検診学会学術大会	福岡	放射線部	1
	第10回岡山Gyromeeing	岡山	放射線部	1
	第14回岡山プレストミーティング	岡山	放射線部	4
	乳がん検診症例検討会	倉敷	放射線部	2
	第26回日本乳癌検診学会学術総会	福岡	放射線部	1
	第1種放射線取扱主任者講習	京都	放射線部	1
	第15回倉敷チーム医療研究会	倉敷	栄養科	5
	脳卒中連携協議会	倉敷	地域連携室	1
	第18回倉敷脳卒中チームケア研究会	倉敷	地域連携室	1
	日本医療社会福祉協会2016年度人材開発・養成講座	東京	医用福祉相談室	1
	倉敷もの忘れ・認知症事例検討会	倉敷	認知症疾患医療センター	6
	第20回全国広報研究大会	愛媛	事務	1
	認知症介護実践者研修	岡山	倉敷老健	2
	ダイキン医療・福祉経営セミナー	岡山	倉敷老健	1
	平成28年度新型インフルエンザ等対策研修会	倉敷	倉敷老健	1
	喀痰吸引実地研修	岡山	倉敷老健	3
	平成28年度第3回法務委員会研修	岡山	倉敷老健	1
	平成28年岡山県社会福祉施設等防災対策研修会	岡山	倉敷老健	1
	平成28年度認知症介護実践研修	岡山	倉敷老健	1
	平成28年度通所リハビリテーション計画立案・実践研修会	岡山	通所リハ	1
	平成28年度通所リハビリテーション研修会	大阪	通所リハ	1
	岡山県地域包括支援センター職員資質向上事業、実践力向上研修	岡山	地域包括	2
	難病ケア関係者連絡会（講話）	倉敷	居宅	1
音楽療法の活用にもけてー神経難病における音楽療法のニーズと活用について	鳥取	グランドガーデン南町	1	
平成28年度 ユニットリーダーフォローアップ研修会	倉敷	特養	1	
第13回神経難病における音楽療法を考える会	鳥取	ピースガーデンショートステイ	1	
発達障害～小児期から大人まで～	岡山	訪問看護	1	
小児の在宅看護について	岡山	訪問看護	1	
地域包括ケア推進フォーラム	岡山	訪問看護	1	
11月小計				73
12	災害看護「フォローアップ編」	岡山	外来	1
	せん妄の早期発見と対応	岡山	4東	1
	KYT（危険予知トレーニング）の実際～医療安全の基礎～	岡山	4東	1
	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会	香川	検査部	1
	第1回OLSネットワーク講演会	倉敷	放射線部	3

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人 数
12	第15回CTテクノロジーフォーラム	岡山	放射線部	5
	倉敷大腿骨頸部骨折地域連携診療計画管理情報交換会 (MSW・連携事務分科会)	倉敷	地域連携室	1
	平成28年度第3回西Aブロック研修会	倉敷	倉敷老健	3
	介護サービス事業者におけるリスクマネジメントセミナー	倉敷	倉敷老健	1
	第3回就労環境改善研修会	岡山	倉敷老健	1
	認知症介護実践者研修	岡山	倉敷老健	1
	橋本岳厚生労働副大臣による国会報告会	倉敷	倉敷老健	1
	平成28年度第3回就労環境改善研修会	岡山	倉敷老健	1
	通所リハビリテーション経営運営セミナー	福岡	予防リハ・通所リハ	2
	平成28年度中国ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会研修	広島	地域包括	2
12月小計				25
1	チームの力を育てるリーダーシップ	岡山	2F	2
	老年期におけるエンド・オブ・ライフケア	岡山	3東	1
	病棟師長等・ステーション管理者交流会	岡山	4東	1
	平成28年度岡山県実習指導者講習会継続研修	岡山	4東	1
	新卒ナースの元気力アップ～2年目に向かって踏み出そう～	岡山	4東	3
	第1回自動車運転に関する合同研究会	福岡	OT・CP・相談室	3
	第7回訪問リハビリテーション実務者研修会	岡山	ST	1
	検体採取等に関する厚生労働省指定講習会	大阪	検査部	1
	第16回CTユーザーミーティング	岡山	放射線部	1
	岡山旭東病院 画像フィルムカンファレンス	岡山	放射線部	2
	第11回おかやま足を守る会	倉敷	栄養科	3
	第20回病態栄養学会年次学術集会	京都	栄養科	1
	平成28年度倉敷市介護保険事業者等連絡協議会研修	倉敷	医療福祉相談室・認知症疾患医療センター・倉敷老健	3
	喀痰吸引等指導者研修	岡山	倉敷老健	2
	平成28年度第2回大規模研修会	岡山	倉敷老健	1
	日本認知症ケア学会2016 中国・四国地域大会	岡山	倉敷老健	1
介護職ファーストステップ研修	岡山	予防リハ	1	
岡山県高齢者虐待防止研修会	岡山	特養	1	
1月小計				29
2	新人看護職員研修責任者研修 フォローアップ研修会	岡山	2F	1
	脳卒中看護5つのポイント	岡山	2F・3西・4東	3
	第24回倉敷リハビリテーション看護研究会	倉敷	4東・4西	2
	第32回日本環境感染学会総会・学術集会	兵庫	4西・看護部	2
	感染エキスパート養成 フォローアップ研修会	岡山	ケアサポート	1
	医学統計学研究センター 平成28年度第6回セミナー	東京	PT	1
	平成28年度通所リハビリテーション重度者対応研修会	愛知	PT・訪問看護	2
	岡山リハビリテーション病院「第15回リハビリテーション講演会」	岡山	OT・倉敷老健	2
	第7回訪問リハビリテーション実務者研修会	岡山	ST	1
	岡山県臨床心理士会相互研修会 依存嗜癖関連問題をもつ人と家族への支援	岡山	CP	1
	カウンセラーのための研修会 西洋の心理療法と森田療法	兵庫	CP	1
	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	岡山	3西・PT・ST・薬剤部(NST)	6
	2017JSPEN臨床栄養セミナー岡山	倉敷	薬剤部(NST)	1
NST専門療法士資格更新セミナー	岡山	薬剤部(NST)	2	

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人 数
2	第26回日本乳癌画像研究会	神奈川	放射線部	1
	Radiology Today in Setouchi	岡山	放射線部	4
	岡山県老人保健施設協会栄養士部会 第2回研修会	岡山	栄養科	1
	第6回岡山県所属施設CE代表者会議	岡山	臨床工学課	1
	倉敷高齢者支援センター全体研修 医療と介護のキャッチボール「気軽にちょっと教えてと言える関係づくり」	倉敷	医療福祉相談室	1
	退院支援専門ソーシャルワーク研修	三重	医療福祉相談室	1
	倉敷もの忘れ・認知症事例検討会	倉敷	認知症疾患医療センター	6
	平成28年度リハビリテーション研修	東京	倉敷老健	1
	岡山県老健協第15回職員合同研修会	倉敷	倉敷老健	2
	老健協 感染エキスパートフォローアップ研修会	岡山	倉敷老健	1
	HONDA歩行アシスト導入講習会	大阪	倉敷老健	1
	岡山県老人保健施設協会栄養士部会第二回研修	岡山	倉敷老健	1
	岡山リハビリテーション病院「第15回リハビリテーション講演会」	岡山	倉敷老健	2
	平成28年度第4回西Aブロック研修会	倉敷	倉敷老健	3
	全老健平成28年度リハビリテーション研修	東京	倉敷老健	1
	平成28年度倉敷市保険事業者等連絡協議会研修会	倉敷	倉敷老健	1
	福祉・介護人材定着支援セミナー	岡山	倉敷老健・通所リハ	3
	第20回通所リハビリテーション研究会	倉敷	通所リハ	4
	平成30年度畿央大学ニューロリハビリテーションセミナー	奈良	通所リハ	1
	医療的ケア教員講習会	倉敷	特養	1
高齢者虐待防止・対応研修会	大阪	地域包括	1	
福祉サービス苦情解決研修会	岡山	ピースガーデンショートステイ・特養	2	
2月小計				66
3	岡山県臨床心理士会部会研修会 知っておきたい認知症初期集中支援チーム	倉敷	CP	1
	第14回もの忘れフォーラム 認知症と自動車運転免許	倉敷	CP	3
	第130回日本乳がん検診制度管理中央機構 撮影技術更新講習会	京都	放射線部	1
	マンモグラフィ更新技術講習会	京都	放射線部	1
	褥瘡学会地方会教育セミナー	愛媛	栄養科	1
	褥瘡学会地方会	愛媛	栄養科	2
	第2回倉敷かけはしの会	倉敷	医療福祉相談室	1
	平成28年度岡山県若年性認知症自立支援ネットワーク会議	岡山	認知症疾患医療センター	3
	第11回岡山県認知症疾患医療センター連絡会議	岡山	認知症疾患医療センター	3
	リフレケア改善セミナー	岡山	倉敷老健	2
	第17回日本褥瘡学会中国四国地方会	愛媛	倉敷老健	3
	ボランティア受入事例報告会	岡山	倉敷老健	2
	介護保険サービス事業者集団指導	倉敷	倉敷老健	1
	STEP①「触り方セミナー」	岡山	倉敷老健	1
	倉敷市老人保健施設協議会 運営会議	倉敷	倉敷老健	1
	第二回介護支援部会研修	岡山	倉敷老健	1
	平成28年度定期総会・看護介護部会第三回研修会	岡山	倉敷老健	2
	排泄ケアセミナー 2016 in 岡山	岡山	倉敷老健	1
	岡山県老健協 感染対策部会総会及び研修会	倉敷	倉敷老健	1
	平成28年度第2回介護支援部会研修	岡山	倉敷老健	1
感染対策部会及び第2回感染研修会	倉敷	倉敷老健	1	

月	学 会 ・ 研 修 会	場 所	部 署	人 数
3	訪問看護ラダー別教育プログラム・当会の研修の方向性について	岡山	訪問看護	1
	中枢神経疾患の動作分析から導くハンドリング	岡山	訪問看護	2
	「認知症カフェ」と「認とも」を考える全国セミナー	東京	地域包括	2
3月小計				38
合計				657

誌上発表 一覧 ☆は抄録のあるもの

掲載雑誌名	出版社	発行日	タイトル	執筆者・共著者
Transl Stroke Res.7 (2)	Springer	2016. 4	Thrombolysis with low-Dose Tissue Plasminogen Activator 3-4.5 h After Acute Ischemic Stroke in Five Hospital in Japan	Morihara R・Kono S・Sato K・Hishikawa N・Ohata Y・Yamashita T・Deguchi K・Manabe Y・Takao Y・Kashihara K・Inoue S・Kiryama H・Abe K
コミュニケーション障害学33 (1)	日本コミュニケーション障害学会	2016. 4	加齢またはアルツハイマー病が語彙意味機能に及ぼす影響：feature listing 課題における検証	津田 哲也・中村 光・藤本 憲正
音声言語学57 (2)	日本音声言語医学会	2016. 5.20	脳損傷者における比喩理解：右半球損傷者における障害を中心に	藤本 憲正・中村 光・福永 真哉 京林由季子
認知症ケア最前線 vol.58	株式会社QOLサービス	2016. 8. 5	そこが知りたい！認知症短期集中リハと機能訓練のトレーニング ④医療現場での認知症リハと連携システム	樋野 稔夫
これからの常識！チームで成功させる脳梗塞血管内治療	診断と治療社	2016. 9. 5	心房細動の発見	芝崎 謙作
ポケット版 神経内科 検査・処置マニュアル	新興医学出版社	2016	ポケット版 神経内科 検査・処置マニュアル	阿部 康二・赤田 歩・阿南 英典 荒 誠之・池田 佳生・石川 正恒 石川 悠加・岩田 淳・宇川 義一 氏家 良人・大澤美貴雄・神谷 達司 木村 成志・黒田 宙・桑原 聡 小林 勝弘・下畑 良・東海林幹夫 城 洋志彦・杉生 憲志・鈴木理恵子 平 孝臣・高尾 芳樹・出口健太郎 永島 隆秀・西澤 正豊・西野 一三
老年精神医学雑誌, 27 (12) : 1310-1317	日本老年精神医学会	2016	血管性認知症の治療－現状と少しの未来－	涌谷 陽介
岡山県立大学リポトリ	岡山県立大学	2016	語用論的コミュニケーション障害における評価法の開発	藤本 憲正
岡山県立大学紀要	岡山県立大学	2016	Effects of Aging and Alzheimer Disease On Lexical-semantics: A Semantic Priming Study	Tetsuya Tsuda・Hakaru Nakamura・Norimsa Fujimoto・Toshihide Harada
バイオメカニクス研究20巻3号	日本バイオメカニクス学会	2016	高齢者における歩行の加齢変化	戸田 晴貴
Journal of Physical Therapy Science, 28	The Society of Physical Therapy Science	2016	Analysis of walking variability through simultaneous evaluation of the head, lumbar, lower-extremity acceleration in healthy youth ☆	Haruki Toda・Akinori Nagano・Zhiwei Luo
図解 運動療法ガイド	文光堂	2017	クリニカルヒント 脳卒中患者の感覚障害	内山 靖・奈良 勲 編集 共著 津田陽一郎

誌上発表 抄録

Analysis of walking variability through simultaneous evaluation of the head, lumbar, and lower-extremity acceleration in healthy youth

Department of Rehabilitation, Kurashiki Heisei Hospital, Kurashiki city, Okayama, Japan¹⁾

Graduate School of System Informatics, Kobe University, Japan²⁾

Faculty of Sport and Health Science, Ritsumeikan University, Japan³⁾

Haruki Toda^{1, 2)}, Akinori Nagano³⁾, Zhiwei Luo²⁾

【Purpose】 The purpose of this study was to clarify whether walking speed affects acceleration variability of the head, lumbar, and lower extremity by simultaneously evaluating of acceleration.

【Subjects and Methods】 Twenty young individuals recruited from among the staff at Kurashiki Heisei Hospital participated in this study. Eight accelerometers were used to measure the head, lumbar and lower extremity accelerations. The participants were instructed to walk at five walking speeds prescribed by a metronome. Acceleration variability was assessed by a cross-correlation analysis normalized using z-transform in order to evaluate stride-to-stride variability.

【Results】 Vertical acceleration variability was the smallest in all body parts, and walking speed effect had laterality. Antero-posterior acceleration variability was significantly associated with walking speed at sites other than the head. Medio-lateral acceleration variability of the bilateral hip alone was smaller than the antero-posterior variability.

【Conclusion】 The findings of this study suggest that the effect of walking speed changes on the stride-to-stride acceleration variability was individual for each body parts, and differs among directions.

第25回全仁会研究発表大会 (2016年11月28日・11月29日)

賞	演 題 名	発 表 者	部 署 名
理事長賞	保育園児に対する読み聞かせが通所リハビリテーション利用者の心身機能に及ぼす影響 ◎	白神カオル	通所リハビリ
最優秀賞	充実したせん妄介入を目指して ～薬剤師からのアプローチ～ ◎	藤野 優菜	薬剤部
優 秀 賞	E-SAS導入による効果判定 ～見える化した介護予防～ ◎	小野 志保	ピースガーデン倉敷
創 造 賞	褥瘡ケアにおける超音波とサーモグラフィの有用性について ◎	濃野ありさ	臨床検査部
	退院支援における各職種の取り組みの現状と在棟日数に影響を及ぼす要因の検討 ～当院回復期リハビリテーション病棟におけるクリティカルパス作成に向けて～	妹尾 祐太	リハビリテーション部PT科
	坐位での胸部X線撮影における再撮影率の減少への取り組み	山口 知子	放射線部
協 力 賞	転倒・転落予防 ～転倒・転落アセスメントスコアシートを一新(一心)しよう～	西 悠太	リスクマネジメント委員会 (転倒転落ワーキンググループ)
	感染対策委員ICT環境ラウンドの取り組みの現状と展望 ～よりよい療養環境を整え、維持するために～	細田 尚美	感染対策部
実行委員長 特 別 賞	継続したフットケアを行う体制作りへの取り組み ～スタッフのスキルアップを目指して～	藤原 愛	外来
	意識が変われば見る目が変わる ～フットケア技術及び観察能力の習得～	須増 康王	ケアンセンターショートステイ
	周手術期における体温管理 ～術後合併症の予防を目指して～	堀野恵利子	OP・中材
	認知機能低下が血糖コントロールに及ぼす影響 ～物忘れ相談プログラムを用いた評価～	椋子 恵美	栄養科
	胸腰椎圧迫骨折患者への早期退院へ向けた支援方法について	片山 沙希	医療福祉相談室・地域連携室
	認知症が疑われるとき。早期安心に向けた当院での認知症早期対応の取り組み	長山 洋子	認知症疾患医療センター
	入居者のサービスの向上をめざして ～スムーズな介護サービスの導入～	山本 篤司	ローズガーデン倉敷
	老松・中洲学区の高齢者が元気で活躍できる地域を目指して ～地域包括ケアシステムの構築のために今できること～	岡本 寿子	老松・中洲高齢者支援センター
	ココア飲用による患者・介護者の負担軽減 ～ココアで排便コントロールを～	武井 敏弘	4階東病棟
	チームで始める業務改善 ～ひとりひとりに合った排泄ケア～	大塚 実紅	4階西病棟
	～フレイルと認知機能の関連について～	青柳 政芳	リハビリテーション部ST科
	若手もベテランも先生も グループウェアで一心に ～GWの現状と利用促進～	角井 春妃	総務部
	4事業所連携による情報の共有化 ～「認識の共有」「統一したケア」への取り組み～	井上 郁恵	グランドガーデン南町
	高齢者のリハビリ効果を高めるために ～2種類の栄養補助食品の影響について～	立部 貴公	老健 リハビリ
	予約対応の統一化を図り、初再診患者の円滑な受診につなげる	宮脇三千江	医事課・美容センター
	一人暮らしを支えるためのアプローチ ～ケアマネジャーが自信と安心感を持って 独居高齢者を支援していくために～	西園恵美子	ケアプラン室
	全身疾患と口腔内の実態調査	藤本 幸恵	歯科
	便潜血検査陽性者の精密検査受診率改善に向けての取り組み	吉田 友子	脳ドックセンター・内視鏡室
	退院を見据えた看護師の関わり ～早期退院を目指して～	山口 夏実	3階東西病棟
	サービス提供者との情報共有ツールについて検討する	難波美恵子	ケアハウス・デイサービスドリーム・ 社福ヘルプステーション
	脳卒中片麻痺患者に対する、作業療法の専門性を高めるアプローチ ～Constraint-induced movement therapy (CI療法) の理論を元に作成した当院におけるプロトコルの検証～	那須野ちなみ	リハビリテーション部OT科
	倉敷老健入所者・家族・職員の満足度の実態と向上への取り組み ～入所者も家族 も職員もみんなが満足～	本郷 洋行	老健 入所
	栄養状態の違いはスクエアステップエクササイズにおける運動機能改善効果に影響を与えるか	白神 侑祐	予防リハビリ
	情報共有ツールを使用することでケアの見える化をはかる	後藤 香	訪問看護ステーション
	せん妄の予防と早期発見、改善に向けた取り組み	糸川 彩香	2階病棟

◎ 第67回日本病院学会で発表 平成29年7月20日(木)～21日(金) 於: 神戸国際会議場
 Good!アドバイス賞: 2階病棟
 ベストプレゼン賞: 予防リハビリ

外部講演

年月日	演題	講演者	講演会名	場所	主催
2016. 4. 7	レベチラセタムの使用経験からの考察	涌谷 陽介	学術講演会 ～てんかん診療の新たな幕開け～	倉敷	大塚製薬株式会社広島支店
2016. 4.21	経過良好であったステロイド反応性辺縁系脳炎の一例	涌谷 陽介	第21回倉敷神経内科懇話会	倉敷	倉敷神経内科懇話会 イーザイ株式会社
2016. 4.24	認知症と身体合併症の考え方	涌谷 陽介	第5回岡山県神経疾患緩和ケア研究会	岡山	岡山県神経疾患緩和ケア研究会／藤本製薬グループエフピー株式会社
2016. 5.31	倉敷平成病院における、認知症・せん妄サポートチームの取り組みについて	涌谷 陽介	Sleep Symposium in 倉敷	倉敷	MSD株式会社
2016. 6.24	簡単な神経所見のとり方実践講座	涌谷 陽介	第31回日本老年精神医学会	石川	日本老年精神医学会
2016. 7. 5	当院NSTにおける薬剤師の関わり	小田 真澄	第37回倉敷NST研究会	倉敷	倉敷NST研究会
2016. 7.10	褥瘡発生の機序、分類、治療について	石田 泰久	岡山県在宅褥瘡セミナー	倉敷	日本褥瘡学会在宅褥瘡セミナー 岡山県事務局
2016. 7.19	臨床実習指導者が学生に望むこと	山下 昌彦	川崎リハビリテーション学院特別講義	倉敷	川崎リハビリテーション学院
2016. 7.20	健康バスポート 思想展開シートの使い方-事例を通して-	涌谷 陽介	第11回児島神経疾患連携の会	倉敷	大日本住友製薬株式会社
2016. 9. 4	理学療法臨床教育の現状と展望	山下 昌彦	第30回中国ブロック理学療法士学会	倉敷	中国ブロック理学療法士会
2016. 9.13	認知症について	涌谷 陽介	元気教室	倉敷	倉敷老松・中洲高齢者支援センター
2016. 9.30	認知症について	涌谷 陽介		井原	井原市包括支援センター
2016.10. 6	デング熱の1例	嶋田 八恵	第29回倉敷臨床皮膚科懇話会	倉敷	岡山県医師会
2016.10.22	嚥下障害とリハビリ	影山ユカリ	難病ピア・シンポジウムin岡山「難病と医療のこれからを考える」	総社	岡山県難病団体連絡協議会、NPO法人筋無力症患者会
2016.11.11	診療参加型臨床実習の理論と実践	山下 昌彦	笠岡POSTの会 研修会	笠岡	笠岡POSTの会
2016.11.15	認知症の最新情報 ～涌谷ドクターの介護予防講座～	涌谷 陽介	総社市愛育委員協議会ブロック研修	総社	総社市愛育委員協議会
2016.11.16	ロチゴチンの使用経験からの考察	高尾 芳樹	エキスパートミーティング	倉敷	大塚製薬株式会社
2016.11.20	認知症の原因と予防 ～恐れず、侮らず～	涌谷 陽介	第18回岡山済生会看護専門学校同窓会	岡山	岡山済生会看護専門学校同窓会
2016.11.22	認知症と身体合併症の考え方	涌谷 陽介	老人保健施設協会南Bブロック内研修	岡山	岡山県老人保健施設協会
2016.12. 3	当院におけるサルコペニック・オベシティ	小野 詠子	第15回倉敷チーム医療研究会	倉敷	倉敷チーム医療研究会
2016.12.10	臨床工学技士が関わる脊髄刺激療法	高須賀功喜	S8セミナー in 大阪	大阪	セント・ジュード・メディカル(株)
2016.12.16	言語聴覚士業務について	藤本 憲正	医療福祉学概論	倉敷	川崎医療福祉大学
2017. 1.14	デング熱の1例	嶋田 八恵	第270回日本皮膚科学会岡山地方会	岡山	日本皮膚科学会岡山地方会
2017. 1.17	倉敷平成病院における、認知症(せん妄)サポートチームの取り組みについて	涌谷 陽介	都窪医師会学術講演会	岡山	都窪医師会 MSD株式会社
2017. 1.23	当院フットケア外来の現状と課題	石田 泰久	第12回おかやま足を守る会	倉敷	おかやま足を守る会
2017. 1.28	当院の人工呼吸器紹介と関与について	高須賀功喜	第24回 呼吸療法研究会	岡山	一般社団法人岡山県臨床工学技士会
2017. 2.10	倉敷平成病院の脳卒中診療	芝崎 謙作	脳卒中ミーティング in 倉敷	倉敷	第一三共株式会社
2017. 2.20	第25回在宅ケアを支える会	竹下 稔	高齢者向け入所施設について	倉敷	倉敷中央病院

年 月 日	演 題	講 演 者	講 演 会 名	場 所	主 催
2017. 2.23	第二期顕症梅毒の一例	嶋田 八恵	第30回倉敷臨床皮膚科懇話会	倉敷	岡山県医師会
2017. 2.28	～脳の健康を守る～「認知症を知ろう！ 予防しよう！」	涌谷 陽介	平成28年度倉敷市愛育委員会 連合会・倉敷市栄養改善協議 会合同研修会	倉敷	倉敷市愛育委員会連合会 倉敷市栄養改善協議会
2017. 3.15	診療参加型臨床実習の理論と実践	山下 昌彦	福山市民病院 リハビリテー ション科勉強会	広島	福山市民病院 リハビリ テーション科
2017. 3.18	診療参加型臨床実習の理論と実践	山下 昌彦	朝日医療大学校 臨床実習指 導者会議	岡山	朝日医療大学校 理学療 法学科
2017. 3.19	「認知・言語領域」からみた転棟との関連	藤本 憲正	第1回 島根県リハビリテー ション専門職種協議会	島根	島根県リハビリテーショ ン専門職種協議会
2017. 3.30	認知症・せん妄対策における多職種連携 ～薬剤師の立場から～	市川 大介	岡山県南西部認知症講演会	倉敷	武田薬品工業株式会社

座長・挨拶

年月日	座長・挨拶者名	講演会名	場所	主催
2016. 4.21	高尾 芳樹(世話人)	第21回倉敷神経内科懇話会	倉敷	倉敷神経内科懇話会 イーザイ株式会社
2016. 4.24	高尾 芳樹	第5回岡山県神経疾患緩和ケア研究会	岡山	エフピー株式会社
2016. 5.31	高尾 芳樹	Sleep Symposium in 倉敷	倉敷	MSD株式会社
2016. 7.10	小山恵美子	第10回岡山県在宅褥瘡セミナー	倉敷	日本褥瘡学会在宅褥瘡セミナー 岡山県事務局
2016. 8. 3	青山 雅	第35回倉敷糖尿病カンファレンス	倉敷	MSD株式会社
2016. 9. 2	涌谷 陽介	糖尿病と認知症を考える会	倉敷	第一三共株式会社
2016. 9. 3	津田陽一郎	第30回中国ブロック理学療法士学会 イブニングサロン	岡山	第30回中国ブロック理学療法学会
2016. 9.22 ～25	涌谷 陽介(評価委員)	第6回日本認知症予防学会学術集会	宮城	宮城県仙台市 公益社団法人 宮城県看護協会 社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会 宮城県老人保健施設連絡協議会 一般社団法人 宮城県薬剤師会 公益社団法人 認知症の人と家族の会 宮城県支部 東北大学医師会 (後援)
2016. 9.29	青山 雅	岡山西部DM Conference	倉敷	大正富山医薬品株式会社
2016.11.26	高尾 芳樹	第18回倉敷脳卒中チームケア研究会	倉敷	倉敷脳卒中チームケア研究会 ファイザー株式会社 プリストルマイヤーズスクイブ株式会社
2016.12.14	涌谷 陽介(委員)	総社市認知症初期集中支援チームの設置について 総社市認知症施策の現状について	総社	総社市
2017. 1.23	青山 雅 小山恵美子	第12回おかやま足を守る会	倉敷	おかやま足を守る会
2017. 2. 5	高尾 芳樹 (講演質疑応答の司会)	岡山県神経疾患緩和ケア研究会	倉敷	エフピー株式会社
2017. 2.10	高尾 芳樹	脳卒中ミーティング in 倉敷	倉敷	第一三共株式会社
2017. 2.26	高須賀功喜	第6回岡山県所属施設CE代表者会議	岡山	一般社団法人岡山県臨床工学技士会
2017. 3. 5	小山恵美子	第17回日本褥瘡学会中国四国地方会	愛媛	日本褥瘡学会
2017. 3.30	涌谷 陽介	岡山県南西部認知症講演会	倉敷	武田薬品工業株式会社

講演主催

年月日	タイトル	演題名	講演者名	会場
2016. 7.31	第26回看護セミナー 「とどけたい、看護の力～認知症の方のケアを通して～」	認知症における日常ケアの倫理	箕岡 真子（東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野客員研究員・箕岡医院院長・日本臨床倫理学会総務担当理事）	倉敷平成病院1階リハビリテーションセンター
		帰宅願望をBPSDではなく患者本人のニーズとして捉えて関わった事例	菅 順子	
		暴力・拒否がある認知症患者の看護～意思表示が困難な事例を振り返って～	上化田裕美	
		一人暮らしを可能にした支援の一例～レビィ小体型認知症の方への関わり～	土師みちる（医療法人創和会しげい病院外来看護副主任）	
		倉敷老健における認知症のケア～重度認知症の入所者とご家族への支援を通じて～	渡邊 藤恵	
2016.10.22	第29回神経セミナー 「認知症予防と対策」	認知症疾患医療センターの現状と課題2016	涌谷 陽介	倉敷平成病院1階リハビリテーションセンター
		認知症への正しい理解と効果的な予防	浦上 克哉（鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座環境保健学分野教授）	
2016.11. 6	第51回のおぞみの会 「救急から在宅までの医療・介護の連携～地域の笑顔と元気を支えたい～」	知っておきたい脳梗塞の知識	芝崎 謙作	倉敷平成病院1階リハビリテーションセンター
		肺炎の予防と治療	矢木 真一	
		救急から在宅までの全仁会の取り組み	高尾聡一郎	
2017. 3.11	市民公開講座 第15回もの忘れフォーラム～認知症と自動車運転～ 涌谷 陽介（座長） 高尾 芳樹（挨拶）	道路交通法の改正について	村野 耕司（岡山県警本部交通部運転免許課高齢者講習担当課長補佐）	くらしき健康福祉プラザ（川崎医科大学附属病院認知症疾患医療センターと共同主催）
		認知症と自動車運転について	上村 直人（高知大学医学部神経精神科学教室講師）	

講演共催

年月日	タイトル	演題名	講演者名	会場	参加者	人数
2016. 4.19	わが街健康プロジェクト。 ～心かよう地域医療～ love our community～ 第4回サポーターズミー ティング	テーマ「かかりつけ医」 ミニレクチャー①「持って いますか？かかりつけ医」 ミニレクチャー②「かかり つけ医 現在とこれから」	①岡本 典子（倉敷リハビリ テーション病院 総合 相談・地域支援部 地域 連携室 課長） ②今井 博之（イマイクリ ニック 院長）	倉敷市民会館	医療福祉相談 室	1
2016. 5.20	わが街健康プロジェクト。 ～心かよう地域医療～ love our community～ 第11回講演会	食べられなくなったその日 あなたならどうする？ 口から食べて元気に	渡邊 剛正（藤田病院 副 院長） 早瀬 智子（早瀬歯科医院 副院長）	倉敷市民会館	予防リハ、医 療福祉相談 室、事務	3
2016. 8.30	わが街健康プロジェクト。 ～心かよう地域医療～ love our community～ 第12回講演会	精神を病むことと生きるこ と～「病の経験」の理解へ の手がかり～ 地域移行支援、病院から地 域へ～精神科で入院してい る人の思い、生活のしづら さから～	有本 妥美（あずま会倉敷 病院 看護部長） 赤澤 慶（真備地域生活 支援センター） 小柴 雅史（NPO法人ピア サポートセンターひとりの 実 つどいの杜まりも） 平岡 憲一（あずま会倉敷 病院 地域医療連携室）	倉敷市民会館	4 東、医療福 祉相談室、事 務	3
2016.10.21	わが街健康プロジェクト。 ～心かよう地域医療～ love our community～ 第5回サポーターズミー ティング	テーマ「転院」 ミニレクチャー①「急性期 病院・回復期病院における 地域連携医療と入退院支 援」	武内 宏憲（川崎医科大学 附属病院 患者診療支援セ ンター 医療ソーシャル ワーカー） 吉田 直樹（倉敷リハビリ テーション病院 総合相 談・地域支援部 医療ソー シャルワーカー）	倉敷市民会館	医療福祉相談 室、事務	2
2016.11.29	わが街健康プロジェクト。 ～心かよう地域医療～ love our community～ 第13回講演会	受けていますか？年に1回 カラダのメンテナンス「け んしん」 もっと知ろう、乳がんにつ いて	檜垣みちよ（倉敷市保健所 健康増進センター 所長） 野村 長久（川崎医科大学 附属病院 乳腺甲状腺外科 医長）	倉敷市民会館	医療福祉相談 室、事務	2
2017. 2.17	わが街健康プロジェクト。 ～心かよう地域医療～ love our community～ 第14回講演会	胃がん、大腸がんの予防と 早期発見！～検診で見つ かる最新事例より～ 胃がん、大腸がんの治療に ついて～内視鏡治療の実際 ～	楠本 舞（児島中央病 院 健康増進センター SOPHIA 主任） 竹馬 彰（チクバ外科・ 胃腸科・肛門科病院 理事 長）	倉敷市民会館	2階、薬剤部、 予防リハ、医 療福祉相談 室、事務	5

主 催：わが街健康プロジェクト。事務局

共催病院：あずま会倉敷病院、川崎医科大学附属病院、倉敷記念病院、倉敷市立児島市民病院、倉敷スイートホスピタル、倉敷成人病センター、倉敷第一病院、倉敷中央病院、倉敷平成病院、倉敷リハビリテーション病院、倉敷リバーサイド病院、児島中央病院、重井医学研究所附属病院、しげい病院、玉島中央病院、チクバ外科・胃腸科・肛門科病院、つばさクリニック、藤戸クリニック、松田病院、水島中央病院

後 援：倉敷市、倉敷商工会議所

勉強会（職員向け）

年月日	勉強会名	参加人数	テーマ	講演者
2016. 4.22	認知症せん妄サポートチーム インターネット講演会	35	岡山大学病院における精神科リエゾン チームの取り組み～せん妄・不眠対策を 中心に～	井上真一郎（岡山大学病院精神科神経科 助教）
2016. 4.26	糖尿病チーム インターネット講演会	15	1人じゃない、1度きりじゃない チーム で関わり続ける糖尿病患者への支援	原田 和子（医療法人絃和会平和台病院 教育師長）
2016. 5.12	院内インターネット講演会	10	てんかん治療の変革期をむかえて	渡辺 雅子（国立精神・神経医療センター 病院精神科）
2016. 5.16	院内インターネット講演会	15	高齢者の適正な薬物療法 ～薬剤師による ガイドラインの活用法～	秋下 雅弘（東京大学大学院医学研究科 加齢医学講座教授）
2016. 5.20	感染対策チーム インターネット講演会	10	抗菌薬TDMガイドライン2016 ～改訂 ポイントを中心に～	竹末 芳生（兵庫医科大学感染制御学主 任教授）
2016. 6. 8	院内インターネット講演会	10	てんかん治療のパラダイムシフト～新規 AEDによる一貫した治療法を含めて～	三國 信啓（札幌医科大学医学部脳神経 外科学講座教授）
2016. 6.16	認知症せん妄サポートチーム インターネット講演会	40	高齢者のうつ病と認知症～鑑別と関連性 ～	馬場 元（順天堂大学大学院医学研究 科精神・行動科学准教授）
2016. 6.22	院内インターネット講演会	25	高齢者の皮膚の特徴を考慮したスキンケア と貼付剤を継続投与するコツ	青山 裕美（川崎医科大学附属川崎病院 皮膚科教授）
2016. 6.27	感染対策チーム インターネット講演会	10	Voriconazole製剤を用いた抗真菌治療 におけるTDMの重要性	増田 智先（九州大学病院薬剤部教授）
2016. 7. 8	糖尿病チーム インターネット講演会	20	2型糖尿病におけるデグルデクの有用性 ～配合溶解インスリンアナログによる新 たな可能性～	宮川 高一（医療法人社団ユスタヴィア 理事長）
2016. 7.15	感染対策チーム インターネット講演会	35	抗菌薬の適性使用について考える～感染 症を適切に治療し、かつ耐性菌の出現を 阻止するには～	照屋 勝治（国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター）
2016. 7.20	糖尿病チーム インターネット講演会	15	当院におけるフットケアに対する取り組 み	片桐美奈子（愛知医科大学医学部内科学 講座糖尿病内科）
2016. 9. 5	認知症せん妄サポートチーム インターネット講演会	35	身体疾患に伴う不眠やせん妄の評価と対 応について	上村 恵一（市立札幌病院精神医療セン ター副院長）
2016. 9. 6	認知症せん妄サポートチーム インターネット講演会	10	認知症診療の基本と対応の考え方、在宅 医療分野における診療報酬改定	数井 裕光（大阪大学大学院医学系研究 科精神医学教室）
2016.10.17	骨粗鬆症チーム インターネット講演会	35	骨折の一次予防を目的とした骨粗鬆症治 療戦略	萩野 浩（鳥取大学医学部保健学科教 授）
2016.11. 9	骨粗鬆症チーム インターネット講演会	10	実臨床における慢性腰痛に対するデュロ キセチンの効果	大村 文敏（医療法人社団三友会高円寺 整形外科）
2016.11.22	認知症せん妄サポートチーム インターネット講演会	35	神戸市立医療センター中央市民病院にお けるせん妄・不眠対策～チーム医療を通 じて～	大谷 恭平（神戸市立医療センター中央 市民病院）
2016.11.30	院内インターネット講演会	20	高齢者心不全の再入院を防ぐ～適切な うっ血解除とチーム医療～	松川 龍一（福岡赤十字病院循環器内科）
2016.12.14	感染対策チーム インターネット講演会	35	抗インフルエンザ薬の使用適応について 再考する	三嶋 廣繁（愛知医科大学大学院医学研 究科臨床感染症学）
2016.12.20	糖尿病チーム インターネット講演会	20	肥満糖尿病患者に対する食事指導成功の 秘訣とSGLT2阻害薬の魅力	吉田 俊秀（医療法人親友会島原病院肥 満・糖尿病センター長）
2017. 1.19	新人看護師研修	19	放射線検査・機器概論	嶋津 浩二
2017.1.23・27	医療機器安全研修	50	人工呼吸器概論	高須賀功喜
2017. 1.30	骨粗鬆症チーム 院内勉強会	40	「リクラスト点滴静注液5mg」について	國弘 亮一（旭化成ファーマ株式会社医 薬営業本部）
2017. 3.27	骨粗鬆症チーム インターネット講演会	35	骨粗鬆症診療における最近の進展と知見 ～2020年に向けての動向～	太田 博明（国際医療福祉大学臨床医学 研究センター教授）

勉強会・公開講座・健康教室（一般向け）

年月日	勉強会名	会場	参加人数	テーマ	講演者
2016. 4.12	家族介護教室	倉敷西公民館	36	高齢者支援センターの紹介、教室・集まりの場について	青木 菊江・渡辺あけみ 三室 美希・寺崎 裕美
2016. 4.14	認知症疾患医療センター 公開講座	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール		排泄行動と認知機能	涌谷 陽介
2016. 4.14	転倒骨折予防教室	中洲憩いの家	27	高齢者支援センターの紹介、教室・集まりの場について	青木 菊江・渡辺あけみ 三室 美希・寺崎 裕美
2016. 4.19	家族介護教室	労働会館	7	高齢者支援センターの紹介、教室・集まりの場について	青木 菊江・渡辺あけみ 三室 美希・寺崎 裕美
2016. 4.21	転倒骨折予防教室	中洲憩いの家	25	体力測定	服部 宏香
2016. 4.28	認知症疾患医療センター 第1回（1クール④） 家族 教室	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール	15	認知症領域のリハビリ	山田美弥子・最相 伸彦
2016. 4.28	家族介護教室	並木2丁目公民館	16	高齢者支援センターの紹介、教室・集まりの場について	青木 菊江・渡辺あけみ 三室 美希・寺崎 裕美
2016. 4.28	転倒骨折予防教室	中洲憩いの家	31	みんなで100歳体操をしよう	三室 美希・青木 菊江
2016. 5.17	家族介護教室	倉敷労働会館	14	お薬について	市川 大介
2016. 5.21	認知症疾患医療センター 第5回もの忘れ予防カフェ	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール	50	脳の健康 最新情報	涌谷 陽介
2016. 5.26	認知症疾患医療センター 第1回（1クール⑤） 家族 教室	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール	15	認知症領域の心理	阿部 弘明
2016. 5.26	転倒骨折予防教室	並木2丁目公民館	16	体力測定をしよう	黒川 恵子
2016. 5.13	転倒骨折予防教室	水江公会堂	38	みんなで筋力を維持しよう	渡辺あけみ・三室 美希 寺崎 裕美
2016. 5.26	第1回認知症疾患医療セン ター家族教室	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール		家族交流	中川 沙耶・阿部 弘明
2016. 5.28	認知症疾患医療センター コミュニケーション会	ピースガーデン 3F地域交流センター	10	家族交流	
2016. 6. 2	転倒骨折予防教室	並木2丁目公民館	10	みんなで100歳体操をしよう	三室 美希
2016. 6. 9	転倒骨折予防教室	並木2丁目公民館	20	みんなで100歳体操をしよう	三室 美希・寺崎 裕美
2016. 6.10	転倒骨折予防教室	水江公会堂	30	体力測定をしよう	白神 侑祐
2016. 6.14	転倒骨折予防教室	倉敷西公民館	51	年に一度の身体・体力測定	青木 菊江・渡辺あけみ 三室 美希・寺崎 裕美
2016. 6.21	転倒骨折予防教室	労働会館	20	年に一度の身体・体力測定	青木 菊江・渡辺あけみ 三室 美希・寺崎 裕美
2016. 6.23	家族介護教室	並木2丁目公民館	20	お薬について	市川 大介
2016. 6.25	認知症疾患医療センター コミュニケーション会	ピースガーデン 3F地域交流センター	10	家族交流	
2016. 6.30	認知症疾患医療センター 公開講座	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール		認知症サポーター養成講座	涌谷 陽介
2016. 7. 1	転倒骨折予防教室	東酒津公民館	22	高齢者支援センターの紹介、教室・集まりの場について	渡辺あけみ・三室 美希 寺崎 裕美
2016. 7. 4	シルバー人材センター高齢 者活躍人材育成事業 介護・ 福祉・家事援助講習	伊部公民館		高齢者のための適切な栄養と食事 介助	小野 詠子
2016. 7. 8	転倒骨折予防教室	東酒津公民館	16	体力測定をしよう	黒川 恵子
2016. 7. 8	転倒骨折予防教室	西酒津公民館	12	集まりの場で、100歳体操をしよう	渡辺あけみ・三室 美希 う
2016. 7. 8	転倒骨折予防教室	水江公会堂	30	100歳体操を継続しよう	青木 菊江

年月日	勉強会名	会場	参加人数	テーマ	講演者
2016. 7.12	転倒骨折予防教室	倉敷西公民館	42	姿勢について	寺中 雅智
2016. 7.15	転倒骨折予防教室	東酒津公民館	20	100歳体操を継続しよう	三室 美希・寺崎 裕美
2016. 7.15	転倒骨折予防教室	西酒津公民館	12	体力測定をしよう	白神 侑祐
2016. 7.19	転倒骨折予防教室	労働会館	19	姿勢について	寺中 雅智
2016. 7.20	シルバー人材センター高齢者活躍人材育成事業 介護・福祉・家事援助講習	井原公民館		高齢者のための適切な栄養と食事介助	小野 詠子
2016. 7.22	転倒骨折予防教室	西酒津公民館	16	集まりの場で100歳体操を継続しよう	寺崎 裕美
2016. 7.23	認知症疾患医療センターコミュニケーション会	ピースガーデン3F地域交流センター	10	家族交流	
2016. 7.28	認知症疾患医療センター公開講座	倉敷在宅総合ケアセンター4F多目的ホール		認知症サポーター養成講座	涌谷 陽介
2016. 7.28	家族介護教室	中洲憩いの家	26	糖尿病予防について	岩崎紀代美
2016. 7.29	社外講師勉強会(バイエル薬品株式会社)	倉敷市民会館第二会議室		心原性脳梗塞について	高尾 芳樹
2016. 8. 1	平成28年度キャラバン・メイト養成研修	ピュアリティまきび孔雀の間		認知症を理解する	涌谷 陽介
2016. 8. 9	転倒骨折予防教室	倉敷西公民館	38	骨粗鬆症について	小野 詠子
2016. 8. 9	転倒骨折予防教室	老松ふれあい会館	19	転ばない身体づくりをしよう	青木 菊江・三室 美希 寺崎 裕美
2016. 8.16	転倒骨折予防教室	労働会館	18	骨粗鬆症について	小野 詠子
2016. 8.16	転倒骨折予防教室	老松ふれあい会館	11	体力測定をしよう	白神 侑祐
2016. 8.23	転倒骨折予防教室	老松ふれあい会館	12	集まりの場で100歳体操を継続しよう	青木 菊江・寺崎 裕美
2016. 8.25	認知症疾患医療センター第2回(2クール①) 家族教室	倉敷在宅総合ケアセンター4F多目的ホール	15	認知症領域の医学	涌谷 陽介
2016. 8.25	認知症疾患医療センター公開講座	倉敷在宅総合ケアセンター4F多目的ホール	76	せん妄の基礎と臨床	涌谷 陽介
2016. 8.25	家族介護教室	並木2丁目公民館	12	糖尿病予防について	岩崎紀代美
2016. 8.26	博愛会病院講演会	岡山博愛会病院1階集会室		認知症と身体合併症の考え方	涌谷 陽介
2016. 9.13	家族介護教室	倉敷西公民館	48	老松・中州学区における家族介護者の介護知識に関する普及・啓発「認知症について」	涌谷 陽介
2016. 9.24	認知症疾患医療センターコミュニケーション会	ピースガーデン3F地域交流センター	10	家族交流	
2016. 9.25	転倒骨折予防教室	八王寺公民館	30	集まりの場で、100歳体操をしよう	三室 美希・寺崎 裕美
2016. 9.29	認知症疾患医療センター第2回(2クール②) 家族教室	倉敷在宅総合ケアセンター4F多目的ホール	15	認知症領域の介護福祉	長山 洋子
2016.10. 4	シルバー人材センター高齢者活躍人材育成事業 介護・福祉・家事援助講習	岡山国際交流センター		高齢者のための適切な栄養と食事介助	小野 詠子
2016.10. 4	転倒骨折予防教室	八王寺公民館	28	体力測定をしよう	黒川 恵子
2016.10.12	シルバー人材センター高齢者活躍人材育成事業 介護・福祉・家事援助講習	和気町保健センター		高齢者のための適切な栄養と食事介助	小野 詠子
2016.10.13	家族介護教室	中洲憩いの家	20	体力測定をしよう	服部 宏香
2016.10.22	認知症疾患医療センターコミュニケーション会	ピースガーデン倉敷3F地域交流センター	10	家族交流	

年月日	勉強会名	会場	参加人数	テーマ	講演者
2016.10.22	認知症疾患医療センター 第2回(2クール③) 家族 教室	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール	15	認知症領域のリハビリ	山田美弥子・最相 伸彦
2016.10.23	第11回岡山理科大学応用 物理学科 臨床工学専攻 BLS-AED講習会	岡山理科大学医用科学 教育センター臨床工学 実習室	1		高須賀功喜(インストラ クター)
2016.10.27	家族介護教室	並木2丁目公民館	11	姿勢と健康	寺中 雅智
2016.10.25	転倒骨折予防教室	八王寺公民館	32	集まりの場で100歳体操を継続し よう	渡辺あけみ
2016.10.18	栄養改善教室	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール	64	楽しく、元気に、栄養改善教室	小野 詠子・寺中 雅智
2016.11. 7	転倒骨折予防教室	日吉会館	35	集まりの場で、100歳体操をしよ う	三室 美希・寺崎 裕美 う
2016.11. 8	介護予防教室	労働会館	20	糖尿病予防について	岩崎紀代美
2016.11.14	シルバー人材センター高齢 者活躍人材育成事業 介護・ 福祉・家事援助講習	赤磐市立笹岡公民館		高齢者のための適切な栄養と食事 介助	小野 詠子
2016.11.14	転倒骨折予防教室	日吉会館	25	体力測定をしよう	黒川 恵子
2016.11.15	介護予防教室	倉敷西公民館	38	糖尿病予防について	岩崎紀代美
2016.11.21	転倒骨折予防教室	日吉会館	25	集まりの場で100歳体操を継続し よう	三室 美希
2016.11.24	家族介護教室	並木2丁目公民館	15	体力を維持しよう	白神 侑祐
2016.11.24	認知症疾患医療センター 第2回(2クール④) 家族 教室	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール	15	認知症領域の看護・栄養	高尾 聖子・小野 詠子
2016.11.26	認知症疾患医療センター コミュニケーション会	ピースガーデン倉敷 3F地域交流センター	10	家族交流	
2016.12. 5	転倒骨折予防教室	川東公民館	21	集まりの場で、100歳体操をしよ う	三室 美希・寺崎 裕美 う
2016.12. 8	転倒骨折予防教室	東八王寺公民館	35	集まりの場で、100歳体操をしよ う	三室 美希・寺崎 裕美 う
2016.12. 9	家族介護教室	水江公会堂	21	元気な体を保つために	三室 美希・寺崎 裕美
2016.12.17	認知症疾患医療センター コミュニケーション会	ピースガーデン倉敷 3F地域交流センター	10	家族交流	
2016.12.21	第2回認知症疾患医療セン ター家族教室	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール		家族交流	中川 沙耶・阿部 弘明
2016.12.22	認知症疾患医療センター 第2回(2クール⑤) 家族 教室	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール	15	認知症領域の心理	阿部 弘明
2016.12.22	転倒骨折予防教室	東八王寺公民館	23	体力測定をしよう	黒川 恵子
2017. 1.12	転倒骨折予防教室	東八王寺公民館	15	集まりの場で100歳体操を継続し よう	寺崎 裕美
2017. 1.13	家族介護教室	東八王寺公民館	20	体力を維持して、元気に過ごそう	黒川 恵子
2017. 1.16	転倒骨折予防教室	川東公民館	13	体力測定をしよう	黒川 恵子
2017. 1.17	転倒骨折予防教室	古水江公民館	16	集まりの場で、100歳体操をしよ う	三室 美希・寺崎 裕美 う
2017. 1.20	家族介護教室	西酒津公民館	18	体力を維持して、元気に過ごそう	白神 侑祐
2017. 1.24	転倒骨折予防教室	古水江公民館	15	体力測定をしよう	黒川 恵子
2017. 1.26	認知症疾患医療センター 公開講座	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール	43	BPSDの基礎と対応	涌谷 陽介
2017. 1.28	認知症疾患医療センター コミュニケーション会	ピースガーデン倉敷 3F地域交流センター	10	家族交流	

年月日	勉強会名	会場	参加人数	テーマ	講演者
2017. 1.31	転倒骨折予防教室	古水江公民館	13	集まりの場で100歳体操を継続しよう	渡辺あけみ
2017. 2. 4	倉敷「足」勉強会	倉敷		歩ける下肢、見た目に美しい下肢を目指して ~当院フットケア外来での取り組み~	石田 泰久
2017. 2. 6	家族介護教室	日吉会館	23	体力を維持して、元気に過ごそう	黒川 恵子
2017. 2.14	家族介護教室	倉敷西公民館	42	お薬について	市川 大介
2017. 2.14	家族介護教室	老松ふれあい会館	13	元気な体を保つために	本郷 浩子・寺崎 裕美
2017. 2.14	老松・中洲高齢者支援センター元気教室	倉敷西公民館		お薬について	市川 大介
2017. 2.21	家族介護教室	労働会館	17	楽しく運動して認知症を予防しよう	黒川 恵子
2017. 2.25	認知症疾患医療センターコミュニケーション会	ピースガーデン倉敷3F地域交流センター	10	家族交流	
2017. 3.14	栄養改善教室	倉敷西公民館	34	調理実習	小野 詠子
2017. 3.21	家族介護教室	八王寺公民館	17	体力を維持して、元気に過ごそう	服部 宏香

委員会・会議概要

医局会

委員長・議長名	森 幸威（職種：医師）		
委員会設置年月	昭和63年1月		
開催頻度	2回／月		
構成メンバー（委員長も含む）	計36名		
医師：	36名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	名
その他：	名		

活動目的

全仁会の各種会議、委員会での決定事項を医局員へ通知徹底を図り、経営方針に沿った患者本位の医療を迅速に行い、医局員相互並びに他部署との連携親睦を図る。

活動内容

各種会議・委員会より伝達、各部署との連携、症例検討会、学会報告などの勉強会。

医療安全週間ミーティング

委員長・議長名	高尾 芳樹（職種：医師）		
委員会設置年月	平成27年6月1日		
開催頻度	1回／週		
構成メンバー（委員長も含む）	計11名		
医師：	1名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	2名
その他：	1名		

活動目的

医療安全に関して、事例の周知、検討、対策などリスク管理を行う。

活動内容

①院内で1週間以内に発生した事故についての情報収集、原因分析・再発防止策に関する事項を検討する

②事故防止のための教育・研修に関する事項を検討する

医療事故防止対策委員会

委員長・議長名	高尾 芳樹（職種：医師）		
委員会設置年月	平成27年6月1日		
開催頻度	1回／月		
構成メンバー（委員長も含む）	計17名		
医師：	2名	看護師：	3名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	名	事務員：	5名
ME	1名		

活動目的

医療安全管理体制についての検討及び方針決定。

活動内容

- ①医療事故防止対策の検討及び対策と決定
- ②医療事故の分析及び再発防止の検討と決定及び周知
- ③医療事故防止に関する研修、教育の事項
- ④患者のクレームや相談に関する検討

衛生委員会

委員長・議長名	平川 訓己（職種：医師）		
委員会設置年月	平成19年7月1日		
開催頻度	1回／月（第3月曜日）		
構成メンバー（委員長も含む）	計20名		
医師：	2名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	2名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	1名
介護福祉士：	1名	事務員：	9名
ケアマネ：	1名		
※構成メンバーは年度による。（20名程度）			

活動目的

労働安全衛生法に基づき衛生委員会を設置している。職員の健康管理の適正および労働災害事故防止、並びに職場環境に関する調査、改善を図ることを目的としている。

活動内容

- ①職員健康診断結果への対応
 - ・健康診断の管理とプライバシーの保護
 - ・放射線障害の調査と対応
- ②職場環境の調査・改善
 - ・職場巡視の実施
 - ・職場の危険要因の調査と対策整備
- ③労働災害事故の把握・対策
- ④施設・設備の安全管理

栄養管理委員会

委員長・議長名 重松 秀明（職種：医師）

委員会設置年月

開催頻度 1回/月（第4金曜日 16：30）

構成メンバー（委員長も含む）計28名

医師：	1名	看護師：	10名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	9名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	1名
その他：	7名		

※全仁会職員とアイサービス、ペネミール、SGクリエイト

活動目的

倉敷平成病院、倉敷老健、倉敷在宅総合ケアセンターにおける栄養管理の充実と向上により、患者、入所者、通所者への食事サービスの向上とその適正な運営を図ることを目的とする。

活動内容

栄養管理の充実と質的サービスの向上に関する事項の検討。

NST（栄養サポートチーム）

委員長・議長名 芝崎 謙作（職種：医師）

委員会設置年月

開催頻度 1回/週（毎週金曜日 14：30～）

構成メンバー（委員長も含む）計18名

医師：	1名	看護師：	3名
リハビリスタッフ：	3名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	名	薬剤師：	2名
管理栄養士：	6名	MSW：	名
介護福祉士：	2名	事務員：	名
その他：	名		

活動目的

本チームは院長直属の組織である。入院患者の栄養状態を評価して、その患者に最適な栄養管理法を指導・提言し、患者の治療効果をあげ、早期の退院・社会復帰を図ることを目的とする。

活動内容

医師、管理栄養士と各部署のメンバーとでミーティング、回診を行う。栄養評価と適切な栄養管理、栄養管理に伴う合併症の予防、早期発見、治療。栄養管理上の疑問に答え、病院スタッフへの知識の啓発を行う。

介護系実績検討会議

委員長・議長名 高尾 聡一郎（職種：医師）

委員会設置年月 平成14年4月1日（規則制定日）

開催頻度 1回/月

構成メンバー（委員長も含む）計41名

医師：	5名	看護師：	6名
リハビリスタッフ：	4名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	3名
介護福祉士：	7名	事務員：	16名
その他：	名		

活動目的

介護系の事業計画を達成することを目的とする。

活動内容

月1回の定例会議を行い、以下の内容を報告・検討する。

- ①介護系全体の計画達成状況の報告
- ②事業所別の計画達成状況の報告
- ③課題・対策の報告および検討

外来会議

委員長・議長名 青山 雅（職種：医師）

委員会設置年月

開催頻度 1回/月（第2月曜日）

構成メンバー（委員長も含む）計18名

医師：	3名	看護師：	3名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	1名
介護福祉士：	名	事務員：	7名
その他：	名		

※議案によってメンバーは随時増員される。

活動目的

社会医療法人全仁会倉敷平成病院において患者本位の質の高い医療実現のため、健全な外来運営と外来機能の充実を図ることを目的とする。

活動内容

- ①外来業務体制に関する事項
- ②救急外来の受入れ体制に関する事項
- ③自家用救急車受入れ体制に関する事項
- ④他の医療機関との連携に関する事項

看護セミナー実行委員会

委員長・議長名 武森 三枝子（職種：看護師）

委員会設置年月 平成3年8月

開催頻度 不定期

構成メンバー（委員長も含む）複数名

医師：	名	看護師：	複数名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	名
その他：	名		

※構成メンバーは年度による。当日の運営は、拡大実行委員会として各部署に協力を依頼している。

活動目的

看護セミナーの円滑な運営・開催を行う。

活動内容

次のことについて話合う。

- ①看護セミナーの企画、準備に関する事項

②看護セミナーの参加者の募集

③その他看護セミナーに関する事項

全仁会グループの中だけにとどまらず、地域の医療関係者や看護・介護を学ぶ学生などと共に、看護・介護の質の向上及び有効な連携構築を目指す。

看護部）看護基準・手順委員会

委員長・議長名 田辺 美紀子（職種：看護師）

委員会設置年月

開催頻度 1回/月

構成メンバー（委員長も含む）計10名

医師：	名	看護師：	10名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	名
その他：	名		

活動目的

統一した質の高い看護ケアが安全で効率的に実践できるように看護基準・手順の整備を行うことを目的とする。

活動内容

- ・看護基準手順を定期的に見直しを行う。また病院内で提供する医療、看護の内容が変更や追加された場合には、タイムリーに対応し改訂する
- ・新規に看護基準・手順を作成する

看護記録委員会

委員長・議長名 猪木 初枝（職種：看護師）

委員会設置年月 平成25年2月

開催頻度 1回/月

構成メンバー（委員長も含む）計12名

医師：	名	看護師：	12名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	名
その他：	名		

活動目的

看護の質の向上を目指し、看護記録に関する検討を行い、その体制の整備を図る。

看護記録監査を導入し、看護記録の向上を図る。

活動内容

- ①看護記録記載基準の整備
看護の質の向上のため、記録に関する内容や方法を検討する。
- ②看護記録監査（形式監査・質的監査）の実施 2回/年（8月・2月）
看護記録監査を導入し、記録の向上を図る。
・監査結果の報告（明確になった現状と課題を、病棟へフィードバックする）

看護部医療安全推進委員会

委員長・議長名	立尾 且子（職種：看護師）		
委員会設置年月	平成28年4月1日		
開催頻度	1回/月		
構成メンバー（委員長も含む）	計17名		
医師：	名	看護師：	16名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	1名	事務員：	名
その他：	名		

活動目的

部署スタッフのリスク感性を高め、患者に安全・安心なケアが提供できる。

活動内容

- ・看護部スタッフ対象のKYT研修の開催（新人対象・看護部全体対象各1回）
- ・チームステップスの部署別勉強会（新人・中途入職者対象）
- ・5Sラウンドの実施
- ・インシデント・アクシデント報告書（転倒転落）各部署調査報告

教育委員会

委員長・議長名	池元 洋子（職種：看護師）		
委員会設置年月	平成4年4月		
開催頻度	1回/月（第3金曜日）		
構成メンバー（委員長も含む）	計14名		
医師：	名	看護師：	11名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	3名	事務員：	名
その他：	名		

活動目的

院内の看護師・介護福祉士の専門性を高め、質の高い知識・技術を兼ね備えたスタッフ育成を目的とする。

活動内容

看護師、介護福祉士に対しての年間教育計画の立案・実施。

病院師長会

委員長・議長名	武森 三枝子（職種：看護師）		
委員会設置年月	昭和63年1月		
開催頻度	2回/月（第2・第4火曜日 12:30～13:15）		
構成メンバー（委員長も含む）	計11名		
医師：	名	看護師：	11名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	名
その他：	名		

活動目的

情報の共有化のもとチーム医療を強化し、質の高いサービスを患者に提供することを目的とする。

併せて、スタッフの能力が十分発揮できるような働きやすい職場環境作りを推進する。

活動内容

- 次のことについて話し合う。
- ①看護業務の改善に関する事項
- ②安全・安楽な看護サービス提供の具体的方策
- ③職場環境の整備に関する事項
- ④目標達成の進捗状況に関する事項

病院看護部主任・副主任会議

委員長・議長名	担当主任（職種：看護師・介護福祉士）		
委員会設置年月	平成20年1月		
開催頻度	1回/月（第1金曜日 15:00～15:45）		
構成メンバー（委員長も含む）	計19名		
医師：	名	看護師：	14名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	5名	事務員：	名
その他：	名		

活動目的

看護部の方針を受けて、看護師長を補佐し、各看護単位の管理・運営を円滑かつ能率的に行うために、必要な問題解決やスタッフ教育について討議し取り組む。

活動内容

- ①看護・介護業務の改善に向けて、必要な情報を共有する
- ②看護・介護業務の改善に向けて、具体的方策を検討し組織横断的に取り組む
- ③各委員会活動の進捗状況を把握し、目標達成上の問題を共有し審議する

全仁会師長会議

委員長・議長名 武森 三枝子（職種：看護師）

委員会設置年月 平成19年4月

開催頻度 1回/月（第1水曜日 16:00～16:45）

構成メンバー（委員長も含む）計26名

医師：	名	看護師：	21名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	5名	事務員：	名
その他：	名		

活動目的

全仁会グループの理念・経営方針に基づき、看護部門の参画を意義あるものにするために、円滑な業務運営と看護教育の充実による看護の質向上を図る。

活動内容

- 次のことについて話し合う。
- ①安全・安楽な看護サービス提供に関する事項
 - ②職場環境整備に関する事項
 - ③各部署からの情報伝達。および情報共有
 - ④看護セミナー企画運営に関する事項

院内感染対策委員会

委員長・議長名 森 幸威（職種：医師）

委員会設置年月 平成3年12月

開催頻度 1回/月

構成メンバー（委員長も含む）計30名

医師：	2名	看護師：	17名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	2名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	2名
その他：	2名	リスクマネージャー：	1名

※社会医療法人内だけに止まらず、社会福祉法人等の施設代表者も参加している。

活動目的

- ・院内感染対策の推進
- ・全仁会グループの感染にかかわる情報共有と対策決議

活動内容

- ・院内感染対策指針およびマニュアルの作成および見直し
- ・全仁会グループ内で発生した感染事故の原因究明と対策実施
- ・感染防止のための医療廃棄物管理
- ・感染制御チームの活動のサポート
- ・感染防止に関する職員教育

感染制御チーム（ICT）

委員長・議長名 森 幸威（職種：医師）

委員会設置年月 平成25年4月

開催頻度 1回/月

構成メンバー（委員長も含む）計37名

医師：	2名	看護師：	17名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	3名
放射線技師：	1名	薬剤師：	2名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	3名	事務員：	3名
その他：	3名		

※感染制御チームは、感染対策委員会の下部組織として設けている。

活動目的

- ・院内感染対策の推進

活動内容

- ・感染対策に関する研修会の開催（2回／年・随時）
- ・マニュアルの定期的見直し・改訂
- ・施設内における抗菌薬の適正使用のチェック（ICDラウンド・1回／週）
- ・院内環境ラウンド（ICTラウンド・1回／週）

鬼手回春・全仁会ニュース編集委員会

委員長・議長名 三宅 裕代（職種：事務）

委員会設置年月 平成4年5月

開催頻度 1回／月（第4金曜日）

構成メンバー（委員長も含む）計13名

医師：	名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	1名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	3名	事務員：	7名
その他：	名		

活動目的

院内報「鬼手回春」は全仁会グループ内の行事・院外講演・新人職員などを紹介、するとともに、職員の生の声を掲載し、職員間の情報交流の場となることを目的とし、毎月発行している。広報誌「全仁会ニュース」は患者、患者ご家族や外部の方に、全仁会グループを知って頂くため、行事を中心に、医師の紹介等を載せてご紹介している。「鬼手回春」「全仁会ニュース」の編集・発行を円滑に進める。

活動内容

広報室が中心となり、毎月1回編集会議を開き、次号の内容や原稿担当を決定。編集委員は担当記事の原稿依頼・回収などをし、広報室に提出。広報室で紙面のレイアウトを行い、印刷・配布する。

機能評価委員会

委員長・議長名 平川 訓己（職種：医師）

委員会設置年月 平成26年12月1日

開催頻度 1回／月

構成メンバー（委員長も含む）計33名

医師：	5名	看護師：	9名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	2名
管理栄養士：	1名	MSW：	2名
介護福祉士：	名	事務員：	10名
その他：	1名		

活動目的

病院機能評価の受審ならびに取得を目的とする。また取得後の病院機能の向上を目指す。

活動内容

- ・機能評価受審時の指摘事項に対する改善策の検討、また改善項目の進捗管理
- ・次回更新や、中間報告に向けての院内環境管理

救急委員会

委員長・議長名 篠山 英道（職種：医師）

委員会設置年月 平成14年12月1日

開催頻度 1回／月

構成メンバー（委員長も含む）計12名

医師：	2名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	4名
その他：	1名		

活動目的

「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という理念の下、積極的な救急医療を実践し、地域医療の発展に寄与する。そのためにチーム医療をすべく、情報交換、対策検討、勉強会等を行う。

活動内容

今までの救急医療への取り組み等が評価され、平成22年12月に全仁会は「社会医療法人」としての認可を受けた。地域における役割・責務を果たす為、信頼される全仁会グループになる為、一致団結して更に邁進する。

教育研修管理委員会

委員長・議長名 家村 益生（職種：事務）

委員会設置年月 平成28年2月9日

開催頻度 不定期

構成メンバー（委員長も含む）計7名

医師：	名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	4名
その他：	名		

活動目的

勉強会・研修・実習に関して一元管理できる体制を構築する為に本委員会を開催するものとする。

活動内容

- ・病院の実習のとりまとめ、把握、管理
- ・研修のとりまとめ、研修の年間計画作成及び管理

業務役割分担推進委員会

委員長・議長名 重松 秀明（職種：医師）
委員会設置年月 平成27年5月
開催頻度 1回／3ヶ月（開催月：5月、8月、11月、2月）
構成メンバー（委員長も含む）計13名
医師： 1名 看護師： 1名
リハビリスタッフ： 1名 臨床検査技師： 1名
放射線技師： 1名 薬剤師： 1名
管理栄養士： 1名 MSW： 1名
介護福祉士： 名 事務員： 5名
その他： 名
※構成メンバーは部署長もしくは管理職者。

活動目的

医師の処遇改善のみに限らず、業務改善・業務効率化を目指した計画（勤務医負担軽減計画書）を策定し、この策定をとおして、院内の業務役割分担の見直し改善を目的とする。

活動内容

- ・「勤務医負担軽減計画書」の策定
- ・「勤務医負担軽減計画書」の進行状況を報告（課題を確認）
- ・「勤務医負担軽減計画書」の更新（追加すべき新規事案の確認）

クリティカルパス委員会

委員長・議長名 平川 宏之（職種：医師）
委員会設置年月 平成13年4月1日
開催頻度 1回／3ヶ月（開催月：5月、8月、11月、2月）
構成メンバー（委員長も含む）計24名
医師： 1名 看護師： 12名
リハビリスタッフ： 1名 臨床検査技師： 1名
放射線技師： 1名 薬剤師： 1名
管理栄養士： 1名 MSW： 名
介護福祉士： 名 事務員： 6名
その他： 名 H29.3.31現在

活動目的

看護のレベル・経験に関係なく均質化した看護を提供し、患者様・家族の納得・安心して入院生活が送れるように、より質の高い患者サービスを提供すること及び医療の効率化を図ることを目的とする。

活動内容

クリティカルパスの作成・評価・修正を行っている。
クリティカルパス利用率の向上のため、パス使用の啓蒙を行っている。

個人情報管理委員会

委員長・議長名 高尾 芳樹（職種：医師）
委員会設置年月 平成12年4月1日
開催頻度 1回／2ヶ月（第2木曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計21名
医師： 1名 看護師： 3名
リハビリスタッフ： 1名 臨床検査技師： 1名
放射線技師： 1名 薬剤師： 1名
管理栄養士： 1名 MSW： 2名
介護福祉士： 2名 事務員： 8名
その他： 名
※20名程度。（構成メンバーは年度による）

活動目的

全仁会グループにおいて、個人情報保護法に基づき、患者、利用者、その家族および職員の個人情報漏洩防止や個人情報を安全かつ適正に管理・使用するために個人情報の具体的な運用に関する事項を定めることを目的とする。

活動内容

- ①個人情報の対象に関する事項
- ②個人情報の収集・管理・利用・公開または非公開に関する事項
- ③個人情報の開示または訂正に関する事項
- ④個人情報の保護に関する規定および改正に関する事項
- ⑤個人情報保護管理者に対する指導または助言に関する事項
- ⑥個人情報に関する不服申し立てについて審議・決定に関する事項

実績検討会議

委員長・議長名 高尾 聡一郎、平川 訓己（職種：医師）

委員会設置年月

開催頻度 1回/月

構成メンバー（委員長も含む）計67名

医師：	33名	看護師：	10名
リハビリスタッフ：	3名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	名	事務員：	16名
その他：	名		

※構成メンバーは年度による。（50名程度）

活動目的

社会医療法人の事業計画を達成することを目的とする。

活動内容

- ①前月実績の報告
- ②当月予測の報告
- ③当月の計画達成上の課題と対策を検討

手術室運営会議

委員長・議長名 和田 聡（職種：医師）

委員会設置年月 平成19年4月

開催頻度 不定期

構成メンバー（委員長も含む）計14名

医師：	10名	看護師：	3名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	1名
その他：	名		

活動目的

手術室の円滑な運営及び安全な管理を図ることを目的とする。

活動内容

- (1) 適正な運営のため調整（日程、時間等）に関する事項
- (2) 手術室に関連する医療機器、備品に関する事項
- (3) 運営状況の評価及び検討に関する事項
- (4) 手術に伴う安全管理の評価および検討に関する事項
- (5) その他

職員全体集会

委員長・議長名

委員会設置年月

開催頻度 1回/月（第2水曜日）

構成メンバー（委員長も含む）全職員

医師：	名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	名
その他：	名		

活動目的

全仁会グループの全体の理念・経営方針の周知徹底を目的とする。

活動内容

- (1) 経営方針に関する事項
- (2) 各種事業、計画の進捗状況に関する事項
- (3) 各種委員会・会議・部署からの重要報告に関する事項
- (4) その他

褥瘡対策委員会

委員長・議長名 石田 泰久（職種：医師）

委員会設置年月 平成14年8月

開催頻度 1回/月

構成メンバー（委員長も含む）計30名

医師：	1名	看護師：	19名
リハビリスタッフ：	3名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	名
介護福祉士：	3名	事務員：	1名
その他：	名		

活動目的

褥瘡の発症ゼロを目標とし、専門的立場から院内の褥瘡予防、及び適切な治療が実施できるよう検討する。

活動内容

- ・ 1回/週の褥瘡回診を行い、ケアや処置の方法など検討する
- ・ 1回/月の委員会開催
- ・ 2回/年の勉強会開催

神経セミナー実行委員会

委員長・議長名 高尾 芳樹（職種：医師）

委員会設置年月 平成元年4月

開催頻度 不定期

構成メンバー（委員長も含む）計6名

医師：	3名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	3名
その他：	名		

※構成メンバーは年度による。

※当日の運営は拡大実行委員会を開催し、各部署に依頼。

活動目的

地域の医療関係者とのコミュニケーションを図るため、これらの方々と共に全仁会の職員と一緒に勉強し、神経疾患への理解を深める。また、地域社会へ全仁会の浸透を図る。

活動内容

年1回、医療関係者を主な対象として、神経疾患に関わる講演会を開催する。内容は時期に応じて講師を選定する。外部講師が基本であるが、院内講師も併せて選定する。職員および地域の医療関係者の参加を促し、会場の設営、会の運営と進行を行う。

診療録管理委員会

委員長・議長名 池田 健二（職種：医師）

委員会設置年月 平成4年5月

開催頻度 1回/月

構成メンバー（委員長も含む）計23名

医師：	2名	看護師：	9名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	7名
その他：	名		

活動目的

診療録管理・診療情報に関する問題を協議し、円滑な運用を図ることを目的として活動している。

活動内容

- ①診療記録の様式、記入方法に関する事項
- ②診療記録の運用に関する事項
- ③その他診療記録に関する事項

全仁会研究発表大会実行委員会

委員長・議長名 涌谷 陽介（職種：医師）

委員会設置年月 平成4年

開催頻度 1回/月（第2金曜日）

構成メンバー（委員長も含む）計48名

医師：	1名	看護師：	14名
リハビリスタッフ：	7名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	2名
管理栄養士：	1名	MSW・ケアマネ・相談員：	3名
介護福祉士：	6名	事務員：	11名
歯科衛生士：	1名		

※全仁会グループの各部署から1～2名選出される。（45～50名程度）

活動目的

全仁会研究発表大会の企画および運営を行うことにより、全仁会職員の質的向上、チーム機能の強化を図り、全仁会の発展に貢献する。

活動内容

テーマに対して各部署や部署を越えたチームから演題が出され、アドバイザーにアドバイスを受けながら、研究を進めている。研究発表大会実行委員は研究デザイン発表、中間報告会、研究発表大会の運営・進行を行い、各部署の研究チームのサポートを行う。研究発表大会審査委員会にて審査を行い賞を決定。優秀な演題に表彰状と賞金を贈る。日本病院学会へ出題する演題決定を行う。

治験審査委員会

委員長・議長名 高尾 芳樹（職種：医師）

委員会設置年月 平成22年12月1日

開催頻度 1回/2ヶ月（原則偶数月の第2木曜日）

構成メンバー（委員長も含む）計10名

医師：	3名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	2名
外部有識者：	2名		

活動目的

治験および製造販売後臨床試験がヘルシンキ宣言の主旨およびGCP省令等に基づいて、倫理的・科学的・医学的・薬学的観点から、その実施および継続等がされているかを審議・評価する。

医薬品の開発に携わる医師、製薬会社等から独立した第三者的な立場で被験者の人権保護と安全確保のために公正な審議を行う。院長の諮問機関として重要な役割を担っている。

※GCP (Good Clinical Practice)：医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令

活動内容

治験に参加する被験者の人権と安全を守るために委員が一堂に会し、治験責任医師、治験依頼者より提出された資料に基づき新規治験の実施および実施中の治験の継続の適否について審議している。

DPC委員会

委員長・議長名 平川 訓己（職種：医師）

委員会設置年月 平成19年6月

開催頻度 1回/2ヶ月（偶数月）

構成メンバー（委員長も含む）計12名

医師：	2名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	6名
その他：	名		

活動目的

社会医療法人全仁会のDPCに関する業務の円滑で効率的な運用を図ることを目的とする。

活動内容

- ①適切なDPCコーディングに関する検討
- ②診断および治療方法の適正化・標準化に関する検討
- ③省庁からの通知等に関する連絡
- ④その他DPC業務に関する事項

図書委員会

委員長・議長名 平川 訓己（職種：医師）

委員会設置年月 平成4年4月

開催頻度 1回/2ヶ月（奇数月の第2水曜日）

構成メンバー（委員長も含む）計5名

医師：	1名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	4名
その他：	名		

活動目的

全仁会グループ職員の知識および技術向上を図るために図書資料の管理を行うことを目的とする。

活動内容

- ①図書の購入計画の策定および予算化に関する事項
- ②図書購入希望への対応に関する事項
- ③図書の登録、保管、破棄に関する事項
- ④文献検索機能の整備に関する事項

ドック診療部会議

委員長・議長名 篠山 英道（職種：医師）

委員会設置年月

開催頻度 1回/2ヶ月（第3月曜日）

構成メンバー（委員長も含む）計11名

医師：	5名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	1名	薬剤師：	名
管理栄養士：	1名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	2名
その他：	名		

活動目的

外来診療等の病院部門とドックセンターとの密接な連携を構築して受診者や患者の満足度を向上させ、質の高いドックおよび診療を実施することを目的とする。

活動内容

- ①ドックの胃内視鏡や胃透視、X線、CT、MRなどは外来部門で実施しているが円滑に行うために調整を図る
- ②季節による予約の変動に伴い上限枠の調整を行う
- ③ドック後の消化器外来受診に関する意見交換

入退院調整会議

委員長・議長名 篠山 英道（職種：医師）

委員会設置年月 平成19年4月

開催頻度 1回/週

構成メンバー（委員長も含む）計16名

医師：	1名	看護師：	6名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	8名
介護福祉士：	名	事務員：	名
その他：	名		

活動目的

効率的な病床運営について協議及び入院患者の退院支援カンファレンスの実施。

活動内容

- ①入院病床の状況把握（在患状況、看護必要度、在院日数など）
- ②転棟・転院についての把握
- ③入院患者の状況把握
- ④1週間以内の入院患者の退院支援カンファレンス実施
- ⑤関係施設の状況共有

ニューロモデュレーション会議

委員長・議長名 平川 訓己（仮）（職種：医師）

委員会設置年月 平成29年2月

開催頻度 1回/月（現在不定期、定例日程調整中）

構成メンバー（委員長も含む）計24名

医師：	6名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	3名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	1名
介護福祉士：	名	事務員：	11名
ケアマネ：	名		

活動目的

倉敷ニューロモデュレーションセンター設立に際して発足。事業立上げ時の患者受入体制の構築および各職種における役割分担を協議し、センター事業立上げを円滑に進めるために活動。今後はよりよい活動を継続する為に運用改善等について検討していく。

活動内容

- ①事業立上げ計画の共有
- ②治療に関する勉強会の開催
- ③病棟カンファレンス、症例検討会の開催

認知症およびせん妄サポート委員会

委員長・議長名 涌谷 陽介（職種：医師）

委員会設置年月 平成26年6月5日

開催頻度 1回/月（第2木曜日）

構成メンバー（委員長も含む）計26名

医師：	1名	看護師：	15名
リハビリスタッフ：	3名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	2名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	2名	事務員：	1名
その他：	名		

※構成メンバーは年度による。

活動目的

高齢化に伴い当院に入院する認知症患者は増加の一途を辿っている。入院中に認知症患者の行動心理症状（BPSD）が顕在化したり悪化する事も頻繁にみられる。また、身体疾患や外傷などの急性期にせん妄をきたす場合も多い。BPSDの悪化やせん妄の発症は、患者の認知機能・精神活動や身体機能の悪化につながり合併症の発症（転倒・転落、誤嚥性肺炎など）のリスクが増加するだけでなく、家族や病院スタッフのストレスや疲弊感も強くなる場合がある。このような状況において、認知症およびせん妄サポートチーム（以下DST）は、以下の様な目的を持って活動する。

活動内容

1. 各科医師と連携し、急性疾患で入院時の認知症・せん妄患者に適切に対応する。
2. BPSD悪化やせん妄のリスクとなりうる薬剤の調整・減薬・見直し
3. 認知症やせん妄の病態に基づく非薬物的対応
4. リハビリテーションとの連携
5. 認知症およびせん妄患者の転倒/転落対策や行動抑制/身体抑制の工夫
6. 家族支援・教育（説明文書等の活用、BPSDやせん妄を説明するスキルアップ）
7. 病院スタッフ支援・教育、疲弊感軽減、認知症およびせん妄に関するマニュアル整備
8. 退院支援、在宅復帰率の改善

認知症疾患医療センター会議

委員長・議長名 涌谷 陽介（職種：医師）

委員会設置年月 平成24年3月28日

開催頻度 2回／月

構成メンバー（委員長も含む）計9名

医師：	2名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	2名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	1名
介護福祉士：	名	事務員：	名
その他：	3名（PSW2名・医療秘書1名）		

活動目的

定期的に会議を行うことで多職種で連携し、業務を行うため。尚、早期対応が必要な場合は随時開催している。

活動内容

認知症に関わる相談受付や鑑別診断、医療連携、身体合併症・BPSDへの対応、情報発信・研修等の実施など認知症疾患医療センター業務の報告、検討、承認を図り円滑なセンター業務に繋げる。

年報編集委員会

委員長・議長名 大浜 栄作（職種：医師）

委員会設置年月 平成23年6月1日（規則制定日）

開催頻度 1回／2ヶ月（偶数月第2水曜日・年報発行に合わせて適宜）

構成メンバー（委員長も含む）計17名

医師：	5名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	1名
介護福祉士：	名	事務職：	8名
その他：	名		

活動目的

その年一年の全仁会の基本情報、また、抄録集や研究業績として職員の参加学会・講演の概要などを記載することで、学術的なアピールの手段とする。

また職員に対し、業務への取り組み方の相互理解を深め、病院の基本方針を見つめなおす手段とする。一年の様々な動向を数値で見ること、改善できるところは改善し、さらに今後の傾向を知り、対策をとる。

活動内容

①全職員の学会発表やメディア出演、部署別の各種月平均データなどの全仁会グループ1年間の業績を、秘書・広報課が中心となり調査

②毎年の年報発行

③全部署および関連の外部施設に配布・発送

のぞみの会実行委員会

委員長・議長名 篠山 英道（職種：医師）

委員会設置年月 昭和62年4月

開催頻度 不定期（会が近づけば週1回・5月～11月の全13回程度）

構成メンバー（委員長も含む）計76名

医師：	1名	看護師：	17名
リハビリスタッフ：	3名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	3名	MSW：	5名
介護福祉士：	28名	事務員：	11名
その他 （鍼灸師・歯科衛生士等）：	5名		

※構成メンバーはその年によって異なる。（80名程度）

活動目的

限らないQOLを求めて…

これはのぞみの会のメインテーマであり、全仁会の最も重要な精神である。

QOLとは「Quality of Life」人生の充実。患者本人も家族も、そして医療機関従事者も、また更にはそれらを取り巻く地域、行政までを含めて、「健康で生きがいのある街作り」を目指し前進し続けようというのが目標。

脳卒中を発症した後遺症を持ったとしても、たとえ病気や障害があっても、我々はQOLを大切に生きていくことができる。「寂しさ・孤独」は人々を蝕む。現代に生きる人々の寂しさを癒す会であることを目的とし、のぞみの会を開催する。

活動内容

「のぞみの会」は高尾武男代表が、倉敷中央病院内科医長時代、神経内科、特に脳卒中を中心に担当し、患者の退院後のフォローアップと在宅医療の在り方を学ぼうとした時、自然発生的に結成され、第1回が昭和57年10月に開かれた。その後、倉敷平成病院のぞみの会へと発展し、歴史を経て、今では倉敷平成病院を利用される全ての方々、地域住民と私たち医療従事者との交流の場、意見交換の場にもなっている。

第11回のぞみの会は昭和63年1月に開催された以降年2回開催の年も経て、平成27年11月に第50回を開催した。

全仁会職員が取り組む「のぞみの会」において、毎年のテ

ーマ決定、リラックスタイム・ふれあい広場の内容など、実行委員が中心となり、企画運営を行う。

病院管理会議

委員長・議長名	平川 訓己（職種：医師）		
委員会設置年月	平成27年10月		
開催頻度	2回／月（第2・4月曜日）		
構成メンバー（委員長も含む）	計7名		
医師：	3名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	3名
その他：	名		

活動目的

倉敷平成病院の病院運営の効率化を推進し健全経営を図り、地域に根ざした高度でかつ良質な医療の提供を推進することを目的とする。

活動内容

病院の管理運営に関する重要事項を審議する。

病院増築委員会

委員長・議長名	平川 訓己（職種：医師）		
委員会設置年月	平成29年1月26日		
開催頻度	1回／月（第4木曜日）		
構成メンバー（委員長も含む）	計33名		
医師：	4名	看護師：	11名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	名	事務員：	12名
ケアマネ：	名		

活動目的

病院増築に際し、患者だけでなく職員がより働きやすい環境整備を目的として活動。

活動内容

- ①病院増築に関する情報共有
- ②増築、レイアウト案に対する検討、改善活動

病診連携会議

委員長・議長名	森 智（職種：MSW）		
委員会設置年月	平成27年4月1日		
開催頻度	1回／月		
構成メンバー（委員長も含む）	計12名		
医師：	名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	2名
介護福祉士：	名	事務員：	10名
その他：	名		

活動目的

地域からの紹介件数、転院件数など連携業務の現状を報告し課題解決を図り、紹介件数のアップに繋げる。

活動内容

- ①地域連携業務の状況報告
- ②紹介先の報告
- ③転院患者数の報告
- ④地域の連携に関する協議会、活動の報告
- ⑤地域の状況を把握した上での解決方法や営業内容の検討

フットケア委員会

委員長・議長名	石田 泰久（職種：医師）		
委員会設置年月	平成23年4月		
開催頻度	1回／月		
構成メンバー（委員長も含む）	計18名		
医師：	2名	看護師：	11名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	2名
その他：	名		

活動目的

足病変を早期発見し介入できることを目標とし、フットケア委員が中心となり入退院患者の足チェックを行う。足病変があれば医師に相談し創傷外来、フットケア外来、皮膚科、血管外科等連携をはかる。勉強会を実施し院内のフットケアの知識・技術の向上を目指す。

活動内容

年に2回の院内勉強会を開催する。フットケアの知識と爪

切り・足浴等の技術の向上を目指し、毎月委員会でのミニ勉強会を実施する、また各病棟での爪切り勉強会を実施する。毎月の足チェック実施状況結果報告ではアセスメントを交えて報告し、今後の看護問題や課題について検討する。

薬事委員会

委員長・議長名 森 幸威（職種：医師）

委員会設置年月 平成19年4月1日

開催頻度 1回/2ヶ月

構成メンバー（委員長も含む）計34名

医師：	30名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	2名
その他：	名		

※審議内容により、委員長の指名でメンバー以外の職員の出席を求めることがある。

緊急審議の必要がある場合は、委員長が緊急委員会を招集する。

活動目的

倉敷平成病院の薬事について、その適正かつ合理的な運用を図ることを目的とする。

活動内容

- ①新規採用医薬品の検討
- ②医薬品の採用中止・規格整理等についての検討
- ③ジェネリック医薬品の導入（先発医薬品からの切り替え）に関する検討
- ④医薬品適正使用に関する検討（緊急安全性情報、医薬品使用ガイドライン等に基づいた情報提供と対策の検討）
- ⑤使用期限切迫医薬品の在庫状況等に関する連絡
- ⑥採用中止が決定している医薬品の在庫状況等の進捗
- ⑦医薬品による副作用報告
- ⑧その他、連絡事項（処方上限解除、電子カルテ処方入力に関する情報提供等）

輸血療法委員会

委員長・議長名 青山 雅（職種：医師）

委員会設置年月 平成15年7月1日

開催頻度 1回/2ヶ月（6回/年）

構成メンバー（委員長も含む）計19名

医師：	4名	看護師：	9名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	3名
放射線技師：	名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	2名
その他：	名		

活動目的

輸血療法を安全に行うと共に、治療後の安全管理を徹底することを目的とする。

活動内容

輸血療法の適用、輸血製剤の選択、輸血検査項目・術式の選択、輸血実施時の手続き、輸血製剤の使用状況、輸血療法に伴う事故や副作用・合併症等に関する事項について審議・決定する。

理事会議

委員長・議長名 高尾 聡一郎（職種：医師）

委員会設置年月

開催頻度 1回/月

構成メンバー（委員長も含む）計27名

医師：	名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	名
その他：	名		

※理事長・理事18名、監事2名（決算報告時）、役職者7名

活動目的

社会医療法人全仁会の運営と財産の管理。

活動内容

- ①法人の業務執行の決定
- ②理事の職務の執行の監督
- ③理事長の選出
- ④重要な資産の処分及び譲受けの決定

- ⑤重要な役割を担う職員の選出及び解任の決定
- ⑥重要な組織の設置、変更、廃止の決定

リスクマネジメント委員会

委員長・議長名 高尾 芳樹（職種：医師（副院長））
 委員会設置年月 平成11年4月1日
 開催頻度 1回／月（第4月曜日）
 構成メンバー（委員長も含む）35名以上

医師：	1名	看護師：	複数名
リハビリスタッフ：	3名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	複数名	事務員：	複数名
その他：	各施設1名ずつ		

※病棟においても各部署においても2～3名配置しているので最低でも35名です。×2～3倍の人数です。メンバーにMEを追加。

活動目的

発生した事についての情報収集・原因解明・分析を通じて事故防止の具体的な対策をはじめとする、事故防止体制の確立と、職員への教育・指導の徹底を図ることを目的とする。

活動内容

- ①全仁会グループ内で発生した事故についての情報収集
原因解明・再発防止策に関する事項
- ②事故防止のための研修・教育に関する事項
- ③医療訴訟等の対応・及び患者のクレームの対応・相談に関する事項

リハビリテーション推進委員会

委員長・議長名 大根 祐子（職種：医師）
 委員会設置年月
 開催頻度 1回／月（第3木曜日）
 構成メンバー（委員長も含む）計27名

医師：	2名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	25名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	名
その他：	名		

※リハビリテーション科医師およびリハビリテーションセンターの管理職
 ※全仁会グループの各部署のリハビリテーション部門の管理職

活動目的

社会医療法人全仁会におけるリハビリテーション医学・医療の充実をはかり、質の高いリハビリテーションサービスを患者に提供する。

活動内容

- 1) 年間計画（勉強会、学会発表、人事、学生実習）の作成および進捗状況確認
 - 2) 全仁会グループのリハビリテーション部門の実績検討と目標設定
 - 3) 全仁会グループのリハビリテーション部門の各部署での量的・質的改善と部署間の連携・情報共有
 - 4) 法人内の他部門、法人外との連携
- 上記につき審議を行う。

臨床検査適正化委員会

委員長・議長名 高尾 公子（職種：医師）
 委員会設置年月 平成13年4月1日
 開催頻度 不定期（3回～／年）
 構成メンバー（委員長も含む）計10名

医師：	5名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	2名
その他：	名		

活動目的

臨床検査部と他部門との交流を図り、検査部門の運営および診療業務の円滑化、患者に提供する医療サービスの向上を図ることを目的とする。

活動内容

臨床検査の精度向上、検査項目新規採用および統廃合、臨床検査業務に関する連絡・調整に関する事項等について審議・決定する。

倫理委員会

委員長・議長名 大浜 栄作（職種：医師）

委員会設置年月 平成21年1月15日

開催頻度 適時開催

構成メンバー（委員長も含む）計9名

医師：	2名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務員：	1名
外部有識者：	1名		

活動目的

倫理問題や医療行為及び医学の研究において、臨床倫理の適正な保持の為、以下の事項について調査検討をする。

- ①医療にかかる法律の遵守に関する事
 - ②患者の権利（医療を受ける権利、身体的安全が確保される権利、選択の自由を有する権利、苦情を申し立てる権利）に関する事
 - ③臓器移植及び新治療法の採用に関する事
 - ④臨床研究に関する事
 - ⑤治験に関する事
 - ⑥職業倫理に関する事
 - ⑦その他医療倫理の適正な保持に関し必要な事項
- 但し、⑤治験に関する事は別途、治験委員会を設け、調査検討することとする。

活動内容

職員が患者、利用者の検体、情報を利用し論文、ポスター展示などの学会発表、院外発表や院内の研究発表などでの臨床研究を行う場合の倫理的審査を行う。
倫理事例検討会の開催。

わかりやすいやさしい医療推進委員会

委員長・議長名 森 幸威（職種：医師）

委員会設置年月 平成13年4月1日

開催頻度 1回/月（第1水曜日）

構成メンバー（委員長も含む）計38名

医師：	1名	看護師：	9名
リハビリスタッフ：	2名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	14名	事務員：	7名
その他：	名		

※30名程度。（構成メンバーは年度による）

活動目的

全仁会グループの各部署において、患者の安全に配置し、患者の尊厳を尊重し、患者本位四原則に沿った医療・介護サービスを提供することにより、患者に選ばれる医療機関・施設となることを目的とする。

活動内容

- ①患者本位四原則の実践に関する事項
- ②職員の接遇教育に関する事項
- ③病院機能評価の更新に関する事項
- ④インフォームドコンセントに関する事項

防災委員会

委員長・議長名 華山 博美（職種：医師）

委員会設置年月 平成15年4月1日

開催頻度 1回/週（秋期時）

構成メンバー（委員長も含む）計25名

医師：	1名	看護師：	6名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	2名
介護福祉士：	5名	事務員：	5名
歯科衛生士：	1名		

※構成メンバーは年度による。（25名程度）

活動目的

政令別表第1（防火管理六法）に掲げる防火対象物の区分として、収容人員数30人以上の病院（第6項イ）、介護老人保健施設（第6項ロ）に定められており、年2回以上の防災訓練を行い職員一人一人の防災意識の向上を図ることを目的とする。

活動内容

毎年秋期時に防災委員会を開催し、マニュアル訓練実施にあたってのミーティングを3～4回開く。内容は、「出火→初期消火→通報→避難」における各部署の各個人の役割を把握し、火災の被害を最小限に抑える活動を行う。また、年1回（10月）倉敷市防火協会の開催する消火技術訓練大会に出場し、日頃の訓練の成果を発揮する。

医療ガス安全管理委員会

委員長・議長名 平川 訓己（職種：医師）

委員会設置年月 平成14年4月

開催頻度 1回／年

構成メンバー（委員長も含む）計10名

医師：	3名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	臨床工学技士：	1名
その他：	名	事務員：	1名

活動目的

医療ガスの取り扱いにあたり、間違いなく患者に供給する為に、常に高度の安全性を保持しかつ、所定の機能を正常に維持、管理することを目的とする。

活動内容

医療ガス設備点検2回／年（委託業者）の報告をもとに、安全の確認をおこなう。

・通常点検

各病棟の中央配管における圧縮空気、酸素、吸引の供給設備および酸素ボンベ（500ℓ・1,500ℓ）の目視点検。

・定期点検

各病棟の中央配管における圧縮空気、酸素、吸引の供給設備および各供給ガスの機械設備全般の点検。

JA岡山西広報誌「なごみ」

ヘルシートーク

掲載月	タイトル	執筆者	
2016	4	糖尿病治療後の肥満	青山 雅
	5	やけど・傷の手当て～知っておきたい湿潤療法～	玉田 二郎
	6	歯周病について～定期検診が重要です～	大野麻里奈
	7	色々な頭痛～しっかりした鑑別が大切です～	本倉 恵美
	8	脳血管障害と高血圧 ～まずは生活習慣の改善を～	重松 秀明
	9	顔面神経麻痺～ある日突然顔が動かなくなったら～	森 幸威
	10	3T MRIについて	三好 秀直
	11	骨粗鬆症について	松尾 真二
2017	12	パーキンソン症状について～早期診断、早期治療のために～	角田慶一郎
	1	肺炎患と健康寿命	矢木 真一
	2	ご存知ですか？かくれ脳梗塞「無症候性脳梗塞について」	鈴木 健二
	3	「オーラル・フレイル」にご注意を！	大野麻里奈

家庭でできる運動のすすめ

掲載月	タイトル	執筆者	
2016	4	ストレートネックの体操について	花田江利子
	5	介護予防～あなたのためのトレーニングをみつけましょう～	隠明寺悠介・大島 葉奈
	6	介護予防～ファイブ・コグとは～	西口 和希
	7	介護予防～身体の機能チェックしてみませんか？～	服部 宏香
	8	栄養について	行本 結衣
	9	口腔	田村 梨帆
	10	運動前に「しておく」「知っておく」こと	白神 侑祐
	11	ストレッチについて	黒川 恵子
2017	12	家庭でできる！筋力トレーニングのポイント	服部 宏香
	1	はじめようお口の健康トレーニング	田村 梨帆
	2	二重課題で転倒予防を！！	白神 侑祐
	3	日々の食事で知っておきたい栄養知識	阿部紗千恵

ヘルシーレシピ

掲載月	料理名	執筆者	
2016	4	大根のロールサラダ	平田 沙織
	5	さやえんどうの棒棒鶏風	時光美由紀
	6	おからでヘルシー～夏野菜キッシュ～	松平 香里
	7	トマトの冷製カップリーニ	鋤野 倫子
	8	ゴーヤと香味野菜のゴマ酢和え	中野 聖子
	9	海老しんじょうの椎茸詰め	平田 沙織
	10	餃子の皮 de かぼちゃグラタン	梶子 恵美
	11	揚げずにサクサク！ 鮭のフライ風	松平 香里
2017	12	りっちゃんサラダ	津田 晶生
	1	水菜と鶏つくねの炒め煮	時光美由紀
	2	呉汁（ごじる）	中野 聖子
	3	オープンいなり寿司	平田 沙織

旬の素材辞典（管理栄養士 小野 詠子）

掲載月	素材	料理名	
2016	4	うぐいす豆（青えんどう）	ねりきりでうぐいす
	5	セロリ	Ants on a log
	6	青しそ	青しそチーズ巻き
	7	タピオカ	タピオカ入り七夕ソーダゼリー
	8	パイナップル	台湾風パイナップルケーキ
	9	カボチャ	お月見白玉だんご
	10	レモン	おばけマシュマロ
	11	栗	栗まんじゅう
2017	12	サツマイモ	サツマイモの切株風ビスケットケーキ
	1	ごぼう	花びら餅 西年版
	2	ゆず	生チョコ柚子風味
	3	菜の花	菜の花バウム

※JA岡山西広報誌「なごみ」は、JA岡山西より毎月15日に発行されている広報誌です。

外部受け入れ実習

実習場所	学校名	実習期間	人数(名)
眼科	川崎医科大学	1年間、月1回	2～3
	川崎医療福祉大学	2016. 8.22～ 8.26	1
	川崎医療福祉大学	2016. 8.29～ 9. 2	1
	川崎医療福祉大学	2016. 9. 5～ 9. 9	2
	川崎医療福祉大学	2016. 9.12～ 9.16	2
PT科	川崎医療福祉大学	2016. 7. 4～ 8.27	1
	川崎医療福祉大学	2017. 2.27～ 3.18	1
	川崎医療福祉大学	2017. 2.27～ 3.18	1
	川崎リハビリテーション学院	2016. 4. 4～ 5.28	1
	吉備国際大学	2016. 4. 4～ 5.28	1
	吉備国際大学	2016. 8.22～ 9.17	1
	吉備国際大学	2017. 2.27～ 3. 2	4
	広島国際大学	2016. 5. 9～ 7. 2	1
	朝日医療大学校	2016. 5. 9～ 7. 2	1
	倉敷リハビリテーション学院	2016. 5.30～ 7. 9	1
	宝塚医療大学	2016. 6. 6～ 7.31	1
	玉野総合医療専門学校	2016. 6.27～ 9. 3	1
	高知リハビリテーション学院	2016. 7.18～ 9.18	1
	岡山医療技術専門学校	2016.11. 7～ 11.26	1
	広島都市学園大学	2017. 1.16～ 3.11	1
	姫路獨協大学	2017. 2. 9～ 2.18	1
	畿央大学	2017. 2.20～ 3.11	1
OT科	川崎医療福祉大学	2016. 5. 7～ 6.27	1
	川崎医療福祉大学	2016. 7. 6～ 8.29	1
	川崎医療福祉大学	2017. 2.27～ 3.18	2
	川崎リハビリテーション学院	2016. 6. 6～ 7.30	1
	吉備国際大学	2016. 8.29～ 9.17	1
	岡山医療技術専門学校	2016.11. 7～ 11.26	1
	玉野総合医療専門学校	2017. 1.10～ 1.30	1
	YMCA米子医療福祉専門学校	2017. 3. 6～ 3.17	1
ST科	川崎医療福祉大学	2016. 5. 9～ 7.24	1
	川崎医療福祉大学	2016. 8.22～ 10.15	1
	県立広島大学	2016. 9. 5～ 10.28	1
	朝日医療大学校	2016.10.24～ 12. 2	1
	姫路獨協大学	2016.10.24～ 12.10	1
ST科 CP	吉備国際大学大学院	2016. 7.29	2
	吉備国際大学大学院	2016. 8. 5	2
	吉備国際大学大学院	2016. 8.26	2
	吉備国際大学大学院	2016. 9.30	3
	愛知学院大学	2016. 8.22～ 9. 2	1
薬剤部	就実大学	2016. 9. 5～ 11.18	1

実習場所	学校名	実習期間	人数(名)
倉敷老健	ノートルダム清心女子大学	2016. 6. 6 ~ 6.10 2016. 6.13 ~ 6.17	6
	ベトナム175軍事病院	2016. 7.12 ~ 7.13	1
	岡山県立倉敷琴浦高等支援学校	2016. 9. 5 ~ 9.23 2016.11. 7 ~ 11.25 2017. 1.30 ~ 2.10	1
	岡山県立倉敷中央高等学校	2016.10. 3 ~ 12.8	35
	倉敷翠松高等学校	2017. 1.16 ~ 3.10	32
通所リハ	岡山医療福祉専門学校	2016. 5.23 ~ 5.26	3
	倉敷翠松高等学校	2016. 6.27 ~ 9.30	40
ピースガーデン倉敷	ノートルダム清心女子大学	2016. 6. 6 ~ 6.10 2016. 6.13 ~ 6.17	3
訪問看護	山陽学園大学	2016. 4.11 ~ 6.29	20
	倉敷翠松高等学校	2016. 8.21 ~ 9.15	32
	倉敷中央高等学校	2016.10. 3 ~ 12. 6	19
	川崎医療福祉大学	2016.12. 5 ~ 2017. 3. 3	15

購入図書

申請購入図書

タイトル(号数)	発行年月日	著者	出版社
レセプト事務のための薬効・薬価リスト	2016. 4.15	医薬情報研究所	社会保険研究所
錠剤カプセル剤粉砕ハンドブック 第7版	2016. 3.20	武田正一郎	株式会社じほう
内服薬経管投与ハンドブック第3版 簡易懸濁法可能医薬品一覧	2015. 6.30	武田正一郎	株式会社じほう
ストレスチェック制度対策まるわかり	2015.11.15	武神 健之 他	株式会社中外医学社
診療点数早見表【医科】 2016年4月版	2016. 4.22	清水 尊	医学通信社
DPC点数早見表 2016年4月	2016. 4.15	清水 尊	医学通信社
術前術後のハイリスク薬ー常用薬・持参薬・術前休止薬・術前術後使用薬ーはや調べノート	2016. 2. 5	小林 求	株式会社メディカ出版
七訂 食品成分表2016 資料編	2016. 4. 1	香川 芳子	女子栄養大学出版部
認知症ケアガイドブック	2016. 6. 8	公益社団法人日本看護協会	株式会社照林社
ICUビジュアルナーシング 見てできる臨床ケア図鑑	2015. 8.26	道又 元裕	株式会社学研メディカル秀潤社
整形外科疾患ビジュアルブック	2015. 2. 4	落合 慈之	株式会社学研メディカル秀潤社
糖尿病・代謝栄養疾患ビジュアルブック	2011. 2.10	落合 慈之	株式会社学研メディカル秀潤社
医科点数表の解釈	2016. 6.22	川上 雪彦	社会保険研究所
DPC電子点数表診断群分類点数表のてびき	2016. 6.28	川上 雪彦	社会保険研究所
診療報酬算定のための施設基準等の事務手引き H28年4月版	2016. 6.30	川上 雪彦	社会保険研究所
日本語版サンフォード感染症治療ガイド2016	2016. 7.27	菊池 賢・橋本 正良	ライフサイエンス出版株式会社
看護関連施設基準食事療養等の実際 平成28年10月版	2016. 9.30	川上 雪彦	社会保険研究所
相談援助職の記録の書き方	2016. 7.25	八木亜紀子	中央法規出版株式会社
新版 認知症よい対応わるい対応	2014. 5.20	浦上 克哉	株式会社日本評論社
これでわかる認知症診療 かかりつけ医と研修医のために 改訂第2版	2012. 7. 1	浦上 克哉	株式会社南江堂
コツさえわかればあなたも読める リハに役立つ脳画像	2016. 7.10	大村 優慈	株式会社メジカルビュー社
臨床医とコメディカルのための最新リハビリテーション	2016. 9.30	寺田 弘司	先端医療技術研究所
臨床看護スキル大全	2016. 7. 1	吉田 初音	株式会社ガイアブックス
足の創傷をいかに治すか	2009. 3. 1	市岡 滋、寺師 浩人	克誠堂出版株式会社
ペパーズ 糖尿病性足潰瘍の局所治療の実践	2014. 1.10	寺師 浩人	全日本病院出版会
今日の治療薬2017 解説と便覧	2017. 1.25	浦部 晶夫、島田 和幸、 川合 眞一	株式会社南江堂

寄贈図書

タイトル(号数)	発行年月日	著者	出版社
門田界隈の道 もうひとつの岡山文化	2012. 3.20	濱田 栄夫	吉備人出版
ごっつお 2017年版 岡山のおいしい店600軒	2016. 9.25		株式会社ビザビ
岡山の医学・学問と文化を訪ねて	2016. 3.26	槇野 博史	中野コロタイプ

定期購読雑誌

和 雑 誌	洋 雑 誌	寄 贈 雑 誌
医事業務	Archives of Neurology	岡山県医師会報
医薬ジャーナル	Clinical Neuroscience	倉敷医師会だより
医療と安全管理 総集版	JAPAN MEDICAL SOCIETY	全日病ニュース
インナービジョン	Journal of Bone & Joint Surgery	日本リハビリテーション病院・施設協会誌
エキスパートナース	Journal of Neurosurgery	日本医師会雑誌
NHK きょうの健康	Journal Of Orthopaedic Science	日本東洋医学雑誌
エントーニ	Neurology	日本内科学会雑誌
おはよう21	Neuropathology	日本認知症ケア学会誌
介護人材Q&A	Stroke	日本認知症学会誌
看護		日本病院会ニュース
看護管理		日本病院会雑誌
看護実践の科学		日本臨床内科医会
クリニカルリハビリテーション 臨床リハ		日本老年医学会雑誌
月刊 薬事		人間ドック
検査と技術		脳卒中
高次脳機能研究		老年精神医学雑誌
作業療法ジャーナル		
整形外科		
整形災害外科		
総合リハビリテーション		
糖尿病ケア		
ナーシング		
日経ヘルスケア		
日本医事新報		
病院		
プリプリ		
ブレインナーシング		
ヘルスケアレストラン		
メディカル朝日		
理学療法		
理学療法ジャーナル		
リハビリテーション医学		
臨床栄養		
臨床老年看護		
レシピプラス		
老健		

職員旅行

日程	コース	方面	概要	参加人数
6月19日(日)	ラフティングツアー	徳島	吉野川ラフティング、温泉、一鶴	56
7月10日(日)	グリコピア・神戸牛焼肉ツアー	神戸	グリコピア、神戸牛焼肉、北野異人館マグカップ作り体験	57
8月21日(日)	ビール工場・神戸牛ステーキツアー	関西	アサヒビール工場、但馬牛鉄板焼き、観光	35
9月 3日(土)	ステーキ都ツアー	福山	鉄板焼きステーキ、とらや	42
10月 8日(土) ～ 9日(日)	博多一泊夜遊びツアー	福岡	アサヒビール工場、太宰府天満宮、ニューハーフショー(任意)、めんたいこ作り体験、鳥栖アウトレットまたは久留米温泉	33
11月12日(土)	豪華フレンチディナー	神戸	IKEAまたはコーヒー博物館、迎賓館ディナー	37
12月11日(日)	三朝温泉 カニツアー	鳥取	三朝温泉かにつくし会席、観光	26
				286

所属

社医	社福	有限
259	19	8

参加職員249名、職員家族37名

性別

男	女	平均年齢(歳)
91	195	35

職員家族(37名)含む

(0～73歳)

年報11巻（平成27年度）にST科実績の掲載漏れがありました。以下の通り追加訂正させていただきます。

2015年度実績（ST科）

学会・研修会等参加

月	学会・研修会	場所	部署	人数
4	第16回学術シンポジウム アルツハイマー病研究会	東京	ST	1
5	認知症事例検討会	倉敷	ST	1
6	認知症とてんかんへのアプローチ	倉敷	ST	5
	倉敷市もの忘れ事例検討会	倉敷	ST	2
7	呼吸ケアセミナー	岡山	ST	1
	VSRAD勉強会	倉敷	ST	6
9	倉敷市もの忘れ事例検討会	倉敷	ST	2
10	岡山県認知症臨床倫理研究会	岡山	ST	3
	高齢入院患者における不眠対策の実践・せん妄対策も含めて	倉敷	ST	3
12	高次脳障害の診断とリハビリテーションの手法	倉敷	ST	1
	認知症ケア研修会 認知症ケアの理念とポイント	倉敷	ST	3
1	睡眠薬に関する勉強会	倉敷	ST	4
	倉敷市もの忘れ事例検討会	倉敷	ST	2
2	オレキシン受容体拮抗薬を用いた不眠治療の実践	倉敷	ST	3
	第16回岡山県言語聴覚士会 学術集会	倉敷	ST	2
合計				39

誌上発表

掲載雑誌名	出版社	発行日	タイトル	執筆者・共著者
コミュニケーション障害学32(1)	日本コミュニケーション障害学会	2015. 4	語用論的コミュニケーション評価尺度の開発：日本語版Pragmatic Rating Scaleの信頼性	藤本 憲正・中村 光・伊澤 幸洋 津田 哲也・栗林 一樹
岡山県立大学 紀要	岡山県立大学	2015	日本語版Pragmatic Rating Scaleの妥当性と検査精度	藤本 憲正・中村 光・清水 洋子 後藤 良美・福永 真哉

外部講演

年月日	演題	講演者	講演会名	場所	主催
2016. 1.27	事例検討会	阿部 弘明 長山 洋子	倉敷地区認知症疾患医療センター・倉敷市もの忘れ事例検討会	倉敷	倉敷地区認知症疾患医療センター

座長・挨拶

年月日	座長・挨拶者名	講演会名	場所	主催
2016. 2.13	藤本 憲正	第16回岡山県言語聴覚士会 学術集会	倉敷	岡山県言語聴覚士会

勉強会（職員向け）

年月日	勉強会名	テーマ	講演者
2015.12.17	自己決定の心理～なぜあなたはそれを選んだのか～	自己決定の心理～なぜあなたはそれを選んだのか～	阿部 弘明
2015.12.18	自己効力感とやる気～好きこそものの上 手なれ～	自己効力感とやる気～好きこそものの上 手なれ～	阿部 弘明
2015.12.25	しごととところ～医療人として永く働く ために～	しごととところ～医療人として永く働く ために～	阿部 弘明
2016. 3.27	老松・中州高齢者支援センター ケアマ ネ交流会	認知機能検査から見る、認知症者の生活 状況	阿部 弘明

勉強会・公開講座・健康教室（一般向け）

年月日	勉強会名	会場	テーマ	講演者
2015. 8.29	認知症疾患医療センター第4回もの 忘れ予防カフェ	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール	—	涌谷 陽介
2015.11.25	認知症疾患医療センター家族教室	糖尿病療養指導室	認知症を理解する	涌谷 陽介
2016. 1.26	認知症疾患医療センター家族教室	倉敷在宅総合ケアセンター 4F多目的ホール	認知症における介護福祉	長山 洋子

外部受け入れ実習

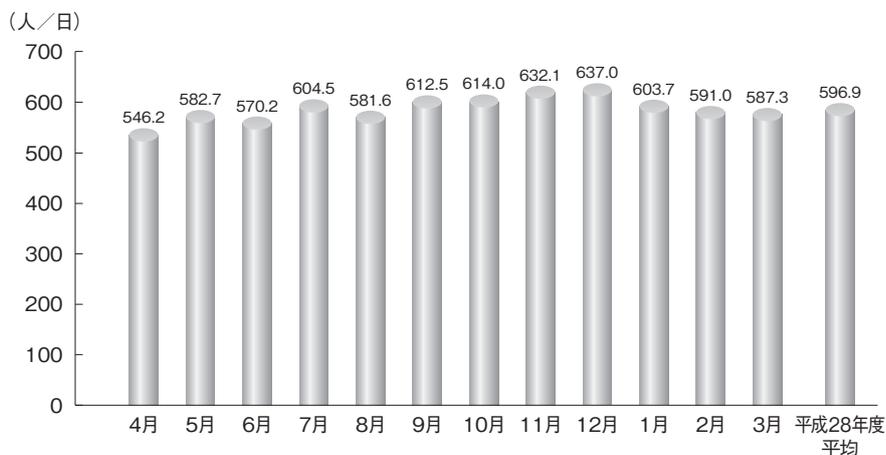
実習場所	学校名	実習期間	人数(名)
ST科	川崎医療福祉大学	2015. 6. 8～ 8. 1 2015. 8.17～ 10.10	2
	愛知学院大学	2015. 8. 3～ 9.11	2
	県立広島大学	2015. 9. 7～ 10.30	1
	姫路獨協大学	2015. 5.11～ 6.27	1
	朝日医療専門学校	2016. 1.12～ 2. 1	1
ST科 CP	岡山大学	2015. 7.22	2
	岡山大学	2015. 8. 5	3
	川崎医療福祉大学	2015. 7.29	3
	吉備国際大学	2015. 9. 8	2
	吉備国際大学	2015. 9.11	2
	吉備国際大学	2015. 9.25	2

平成28(2016)年度

数字で見る全仁会(全仁会実績)



□外来患者数

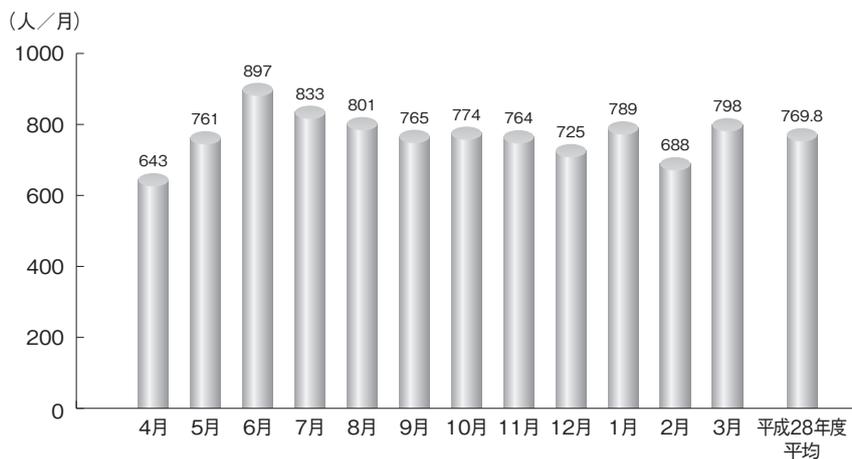


□外来診療科別内訳

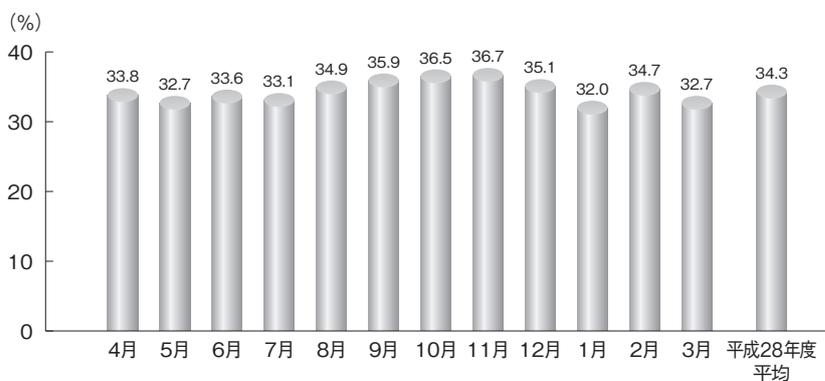
(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平成28年度平均
神経内科・内科・総診・和漢診療科・放射線科・麻酔科	74.0	79.6	78.3	77.6	78.3	78.1	84.4	92.8	84.7	82.1	82.7	81.0	81.1
脳卒中内科	4.0	5.7	4.5	5.2	4.6	4.7	5.9	7.8	5.7	6.8	7.0	6.5	5.7
整形外科	123.9	135.2	136.5	147.1	138.0	148.3	140.5	141.5	142.1	138.6	127.4	133.6	137.7
脳外科	37.1	33.9	32.0	33.3	30.6	33.9	35.5	36.2	37.8	40.0	39.1	33.9	35.3
リハビリテーション科	8.9	7.9	6.9	7.9	8.1	8.3	9.0	9.6	9.6	11.6	9.8	7.5	8.8
消化器科	14.4	13.6	14.6	17.6	14.9	19.7	17.0	17.4	17.0	16.2	16.6	16.8	16.3
循環器科	28.9	29.8	27.4	29.2	28.4	30.4	30.5	34.3	36.2	30.7	29.9	28.9	30.4
呼吸器科	17.9	20.3	18.7	20.4	17.0	16.3	19.6	20.8	19.6	16.1	13.5	14.2	17.9
耳鼻咽喉科	40.7	38.0	33.1	36.2	30.4	34.0	38.1	38.4	38.8	41.1	36.4	37.8	36.9
眼科	20.0	23.0	22.5	22.5	23.5	24.8	22.7	22.8	25.7	24.4	23.4	25.4	23.4
皮膚科	25.5	29.6	28.1	25.4	30.0	27.7	26.8	28.3	25.9	24.3	25.8	28.5	27.2
生活習慣病センター	23.8	24.5	24.5	24.0	22.4	26.6	24.8	25.4	25.9	25.0	23.3	26.1	24.7
総合美容センター（形成）	40.7	45.4	40.5	43.7	42.5	48.6	44.5	43.5	48.6	40.9	41.0	40.6	43.4
総合美容センター（婦人）	43.2	45.5	48.2	55.8	58.0	55.6	58.9	59.9	67.2	54.0	62.4	57.4	55.5
総合美容センター（乳腺）	5.6	5.6	10.4	13.6	9.1	12.6	12.2	10.8	12.3	10.2	10.5	8.8	10.1
歯科	37.5	45.2	44.0	45.0	45.7	43.0	43.5	42.7	39.8	41.6	42.3	40.3	42.5
合計	546.2	582.7	570.2	604.5	581.6	612.5	614.0	632.1	637.0	603.7	591.0	587.3	596.9

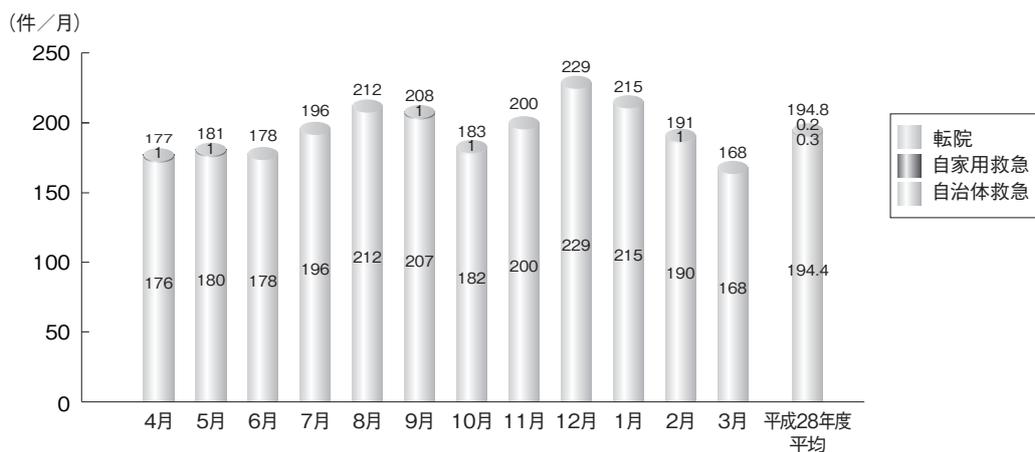
□新患者数



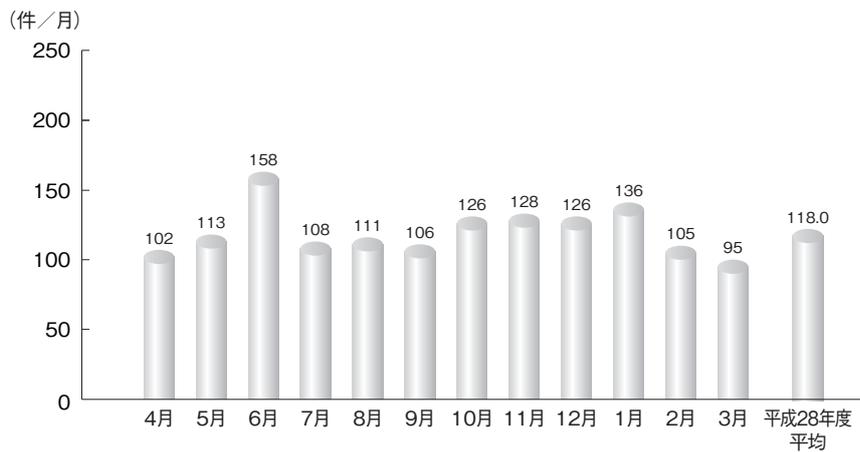
□紹介率



□救急搬入件数



□救急搬入件数（夜間・休日）



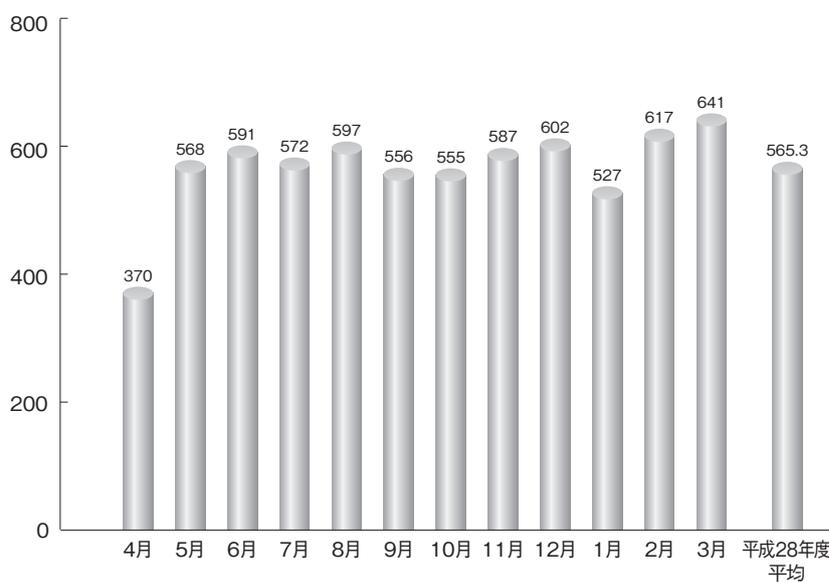
□基本健診件数

(件/月)

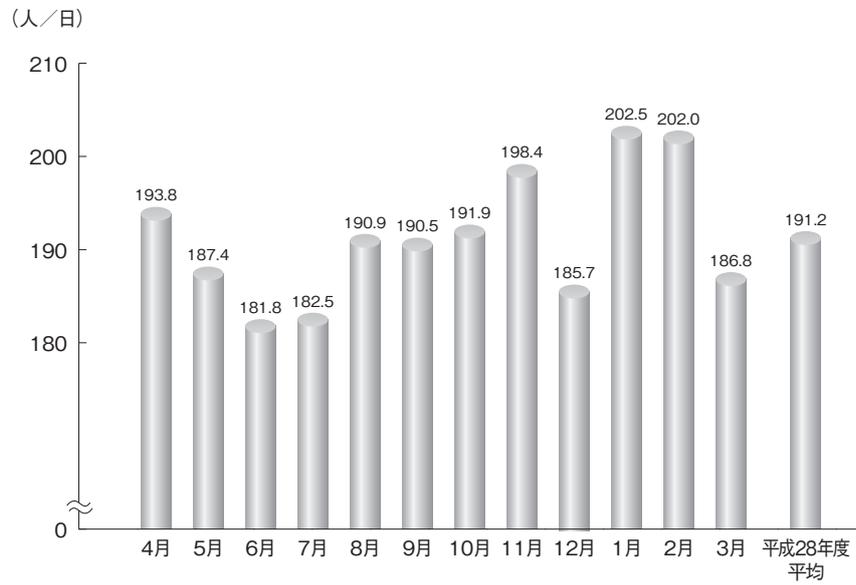
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
子宮がん	0	0	108	137	142	119	140	148	144	66	93	57	1,154
乳癌	0	0	86	107	86	94	95	66	76	43	60	7	720
特定健診	0	0	26	24	42	36	36	5	34	7	5	0	215
大腸がん	0	0	29	48	34	48	41	25	41	15	0	0	281
胃癌	0	0	18	22	18	24	19	9	14	6	0	0	130
婦人健診	0	0	11	15	8	9	7	13	6	4	0	0	73
前立腺がん	0	0	5	11	9	8	8	5	8	2	0	0	56
肺がん	0	0	27	33	21	19	20	6	14	5	0	0	145
肝炎ウイルス	0	0	2	9	6	7	8	7	4	1	0	0	44
合計	0	0	312	406	366	364	374	284	341	149	158	64	2,818

□脳ドックセンター受診者数

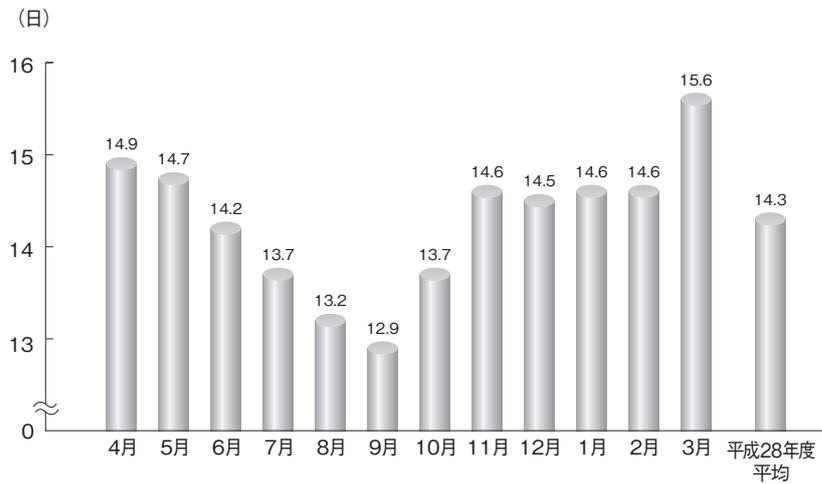
(人/月)



□入院患者数



□平均在院日数



□平成28年度病床編成

	2 F	3 西	3 東	4 西	4 東	ドック		
H26.10～	一般：50	一般：36	一般：41	回復期 リハビリ：45	回復期 リハビリ：46	一般：2	一般：129 回復期リハ：91	計：220

□疾患別退院患者数 (DPC分類による)

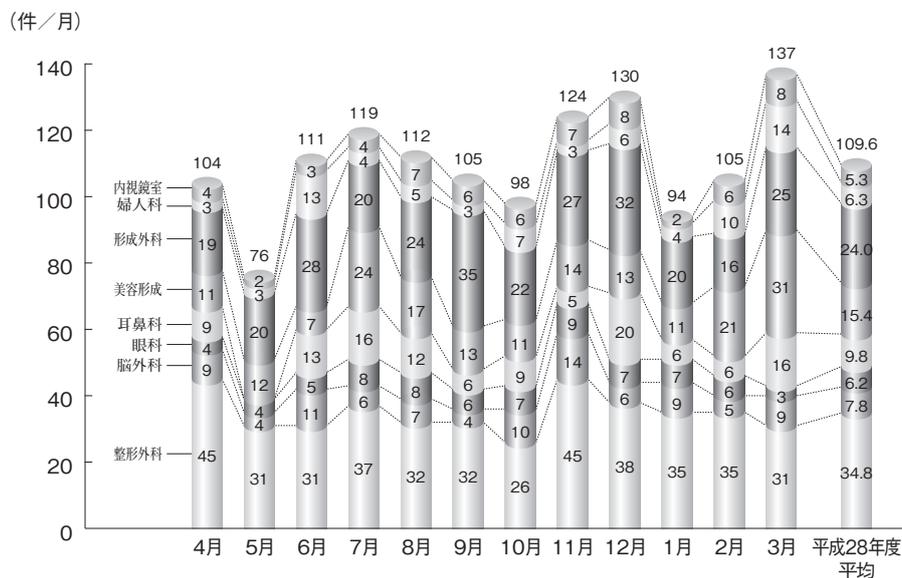
●主要診断群別統計 (MDC)

MDC2 コード	名 称	件数	平均 在院日数	入院期間率				DPC1日 当り平均
				期間Ⅰ	期間Ⅱ	期間Ⅲ	期間Ⅲ超	
01	神経系疾患	573	17.3	20.2%	42.2%	36.1%	0.9%	47,921
02	眼科系疾患	126	2.5	32.5%	4.0%	4.8%	0.0%	93,360
03	耳鼻咽喉科系疾患	202	5.8	14.4%	37.1%	30.2%	0.0%	52,100
04	呼吸器系疾患	328	21.5	16.5%	37.8%	43.9%	1.8%	38,546
05	循環器系疾患	119	22.7	22.7%	29.4%	43.7%	4.2%	37,024
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	109	8.7	36.7%	22.0%	22.9%	0.0%	41,760
07	筋骨格系疾患	163	16.4	30.1%	26.4%	43.6%	0.0%	38,950
08	皮膚・皮下組織の疾患	45	17.6	20.0%	31.1%	46.7%	2.2%	33,794
09	乳房の疾患							
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	99	16.3	14.1%	38.4%	38.4%	9.1%	34,370
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	86	12.5	24.4%	30.2%	43.0%	2.3%	39,575
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	28	1.1	46.4%	3.6%	0.0%	0.0%	117,557
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	23	17.1	43.5%	30.4%	17.4%	8.7%	42,079
14	新生児疾患、先天性奇形	4	13.0	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	42,736
15	小児疾患	12	3.8	41.7%	50.0%	8.3%	0.0%	45,041
16	外傷・熱傷・中毒	676	14.9	29.0%	38.8%	30.0%	1.9%	52,615
17	精神疾患	27	1.6	55.6%	0.0%	29.6%	0.0%	57,908
18	その他	46	22.4	32.6%	26.1%	41.3%	0.0%	45,251
	計	2,666	15.0	24.6%	34.4%	33.6%	1.7%	45,309

●診断群分類 (DPC上位6桁) 件数TOP20

	MDC6 コード	名 称	件数	平均 在院日数	入院期間率				DPC1日 当り平均
					期間Ⅰ	期間Ⅱ	期間Ⅲ	期間Ⅲ超	
1	010060	脳梗塞	207	17.4	18.4%	50.7%	30.9%	0.0%	50,306
2	040080	肺炎等	137	15.4	23.4%	43.8%	30.7%	2.2%	40,333
3	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	136	12.6	25.0%	30.9%	44.1%	0.0%	50,118
4	160800	股関節大腿近位骨折	134	17.5	27.6%	60.4%	11.9%	0.0%	71,992
5	040081	誤嚥性肺炎	127	31.1	7.1%	34.6%	56.7%	1.6%	37,226
6	030400	前庭機能障害	76	6.3	17.1%	40.8%	42.1%	0.0%	38,132
7	020110	白内障、水晶体の疾患	74	2.0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	109,087
8	160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷 (胸・腰椎損傷を含む。)	67	17.0	29.9%	38.8%	31.3%	0.0%	34,385
9	070370	脊椎骨粗鬆症	66	19.2	40.9%	22.7%	36.4%	0.0%	33,953
10	110310	腎臓または尿路の感染症	63	12.6	11.1%	38.1%	50.8%	0.0%	40,490
11	160620	肘、膝の外傷 (スポーツ障害等を含む。)	60	8.9	30.0%	53.3%	13.3%	3.3%	84,695
12	010040	非外傷性頭蓋内血腫 (非外傷性硬膜下血腫以外)	56	23.8	14.3%	62.5%	19.6%	1.8%	54,851
13	010061	一過性脳虚血発作	56	5.2	46.4%	16.1%	37.5%	0.0%	47,294
14	010230	てんかん	49	10.6	16.3%	32.7%	51.0%	0.0%	43,735
15	020230	眼瞼下垂	48	2.6	85.4%	6.3%	8.3%	0.0%	87,916
16	010160	パーキンソン病	39	33.2	7.7%	23.1%	66.7%	2.6%	38,683
17	030250	睡眠時無呼吸	37	2.0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	47,188
18	050130	心不全	35	36.7	8.6%	28.6%	54.3%	8.6%	36,613
19	050140	高血圧性疾患	35	21.3	22.9%	28.6%	45.7%	2.9%	36,112
20	180010	敗血症	33	23.8	27.3%	27.3%	45.5%	0.0%	41,380
		全 体	2,666	15.0	24.6%	34.4%	33.6%	1.7%	45,309

□診療科別手術件数

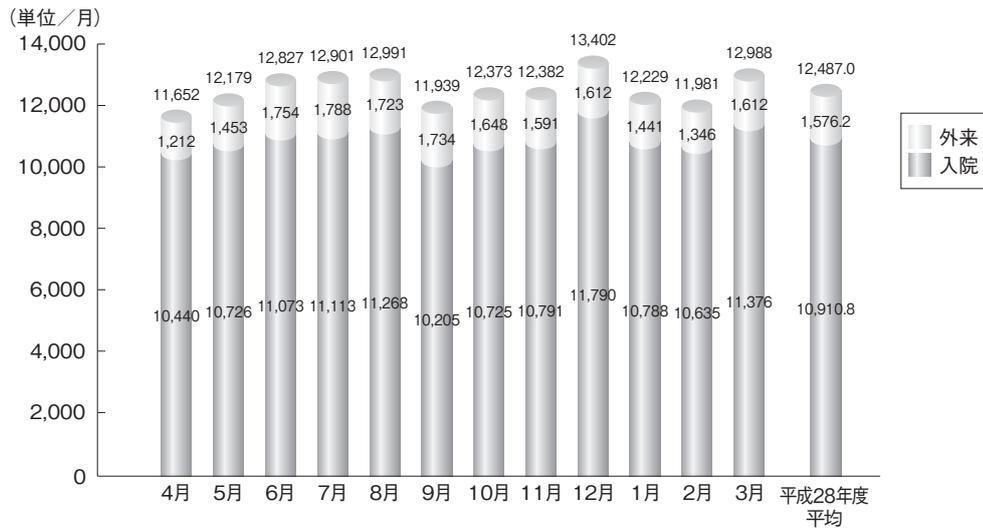


□リハビリテーション部実績

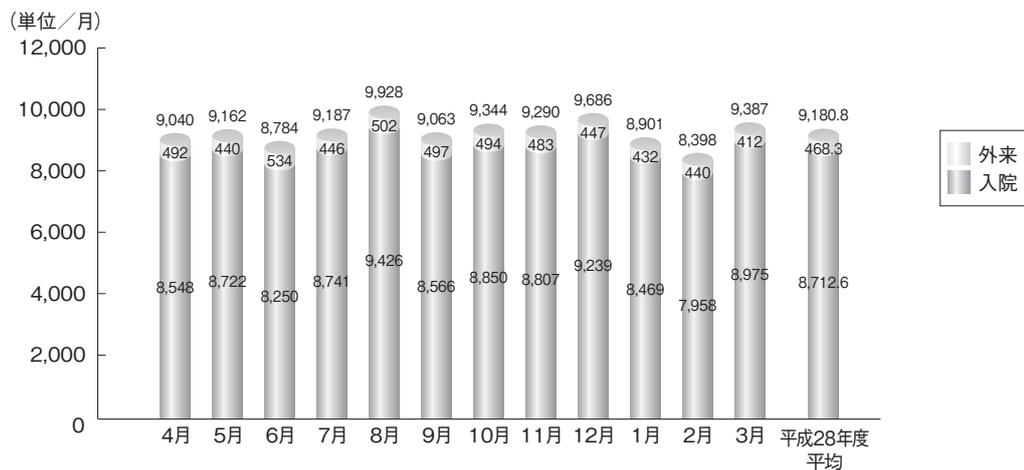
●回復期リハビリテーション病棟 入院料1に係る報告

① 1年間の総退院患者数（27年7月1日～28年6月30日）	497名
② ①のうち、入院時に日常生活機能評価が10点以上の重症患者の数	196名
③ ②のうち退院時（転院時を含む。）に日常生活機能評価が4点以上改善した人数	102名
④ 重症患者回復率（③／②）	52.0%
⑤ ①のうち、入院時に一般病棟用の重症度、医療・看護必要度に係る評価票におけるA項目の得点が1点以上の患者の数	169名
⑥ 在宅復帰率	75.9%

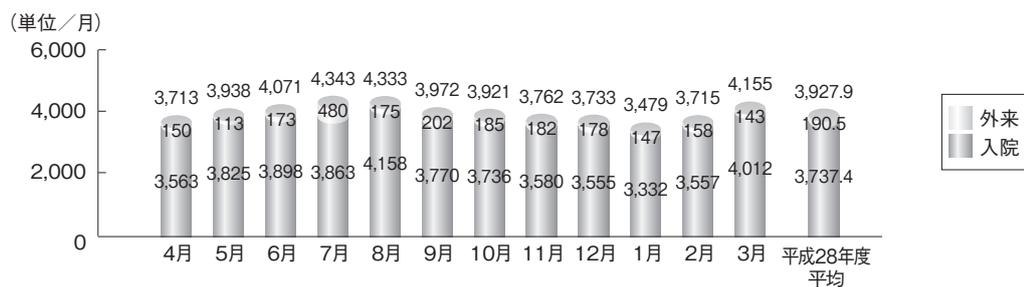
●理学療法実施単位数



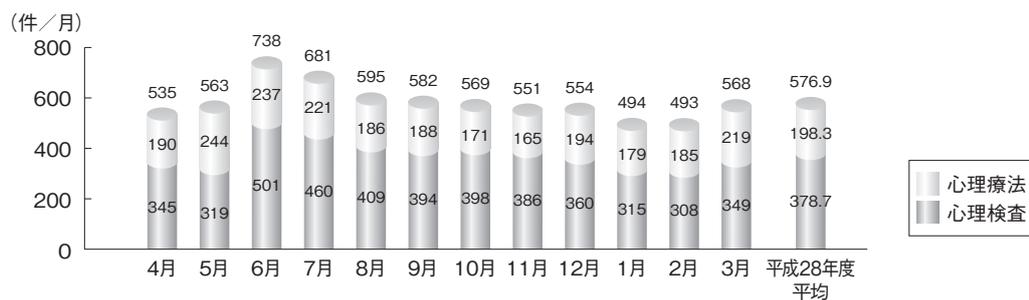
●作業療法実施単位数



●言語聴覚療法実施単位数

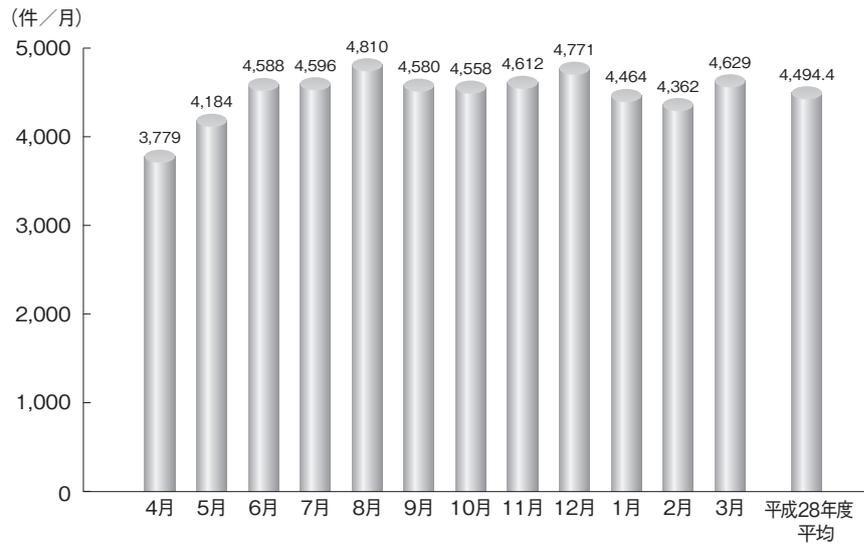


●心理療法実績

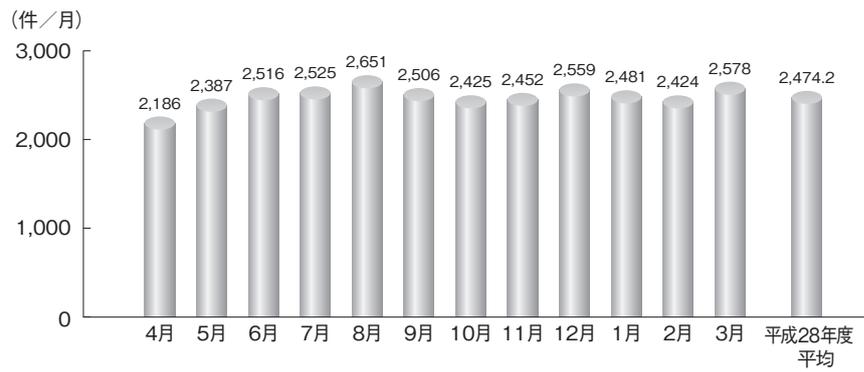


□放射線部実績

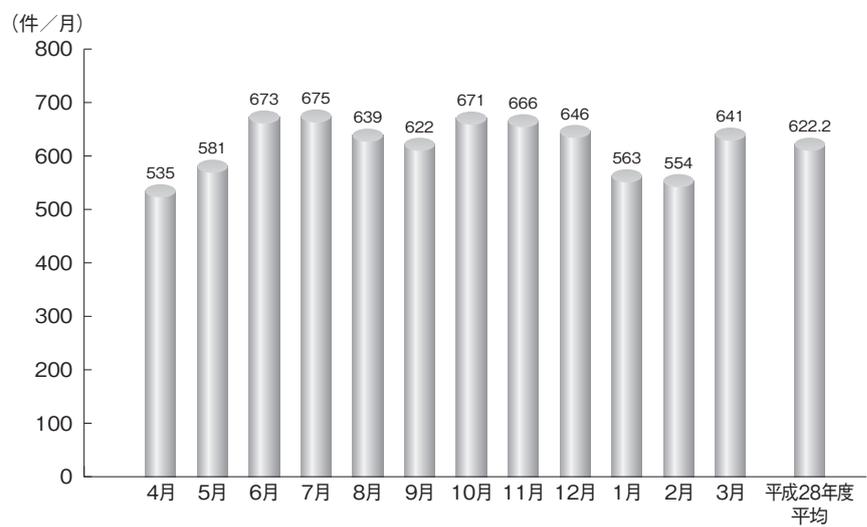
●全件数



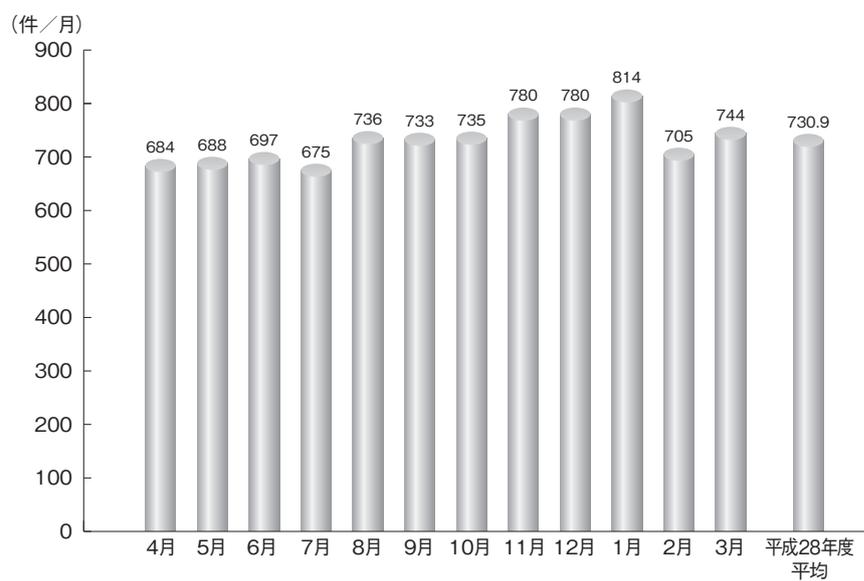
●一般撮影件数



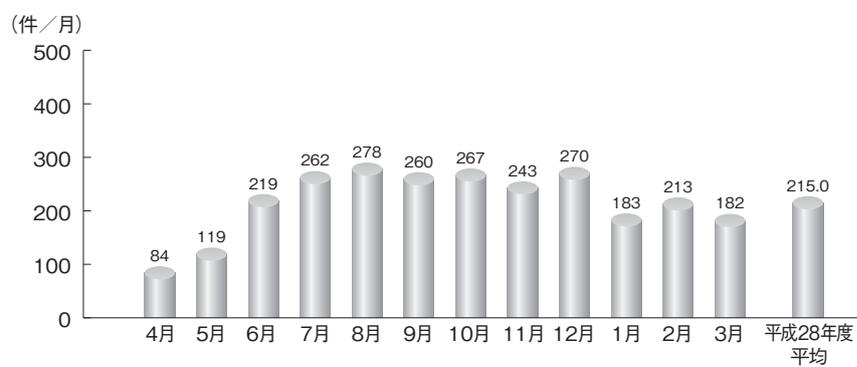
●MR件数



●CT件数

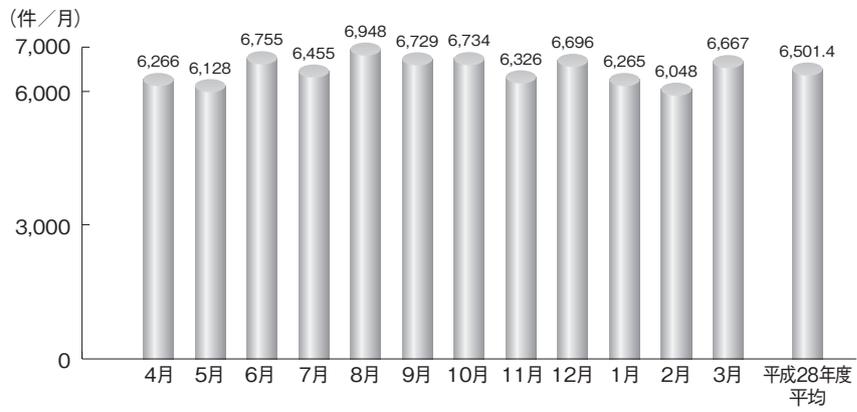


●マンモグラフィ件数

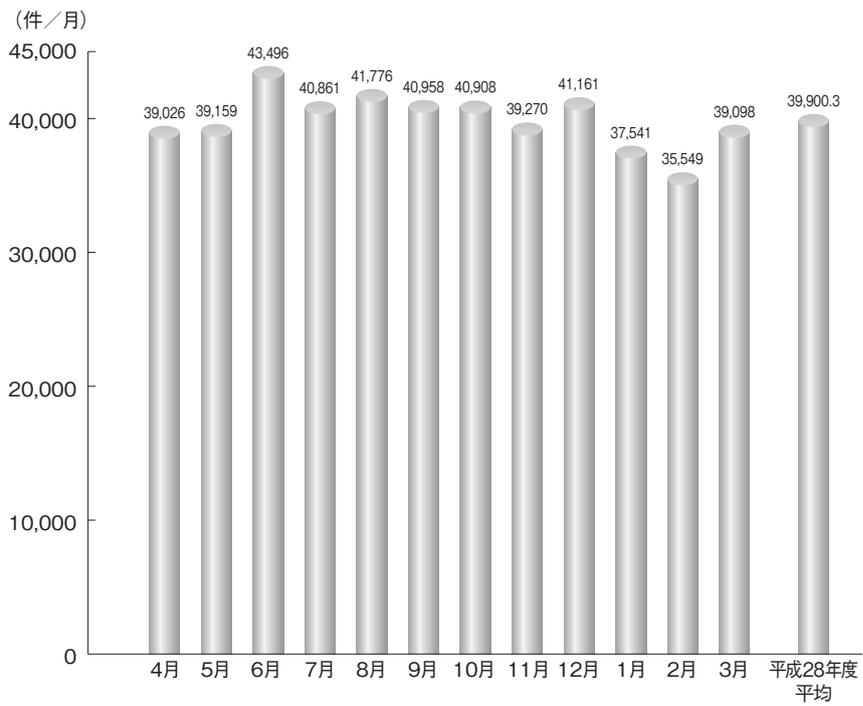


□ 臨床検査部実績

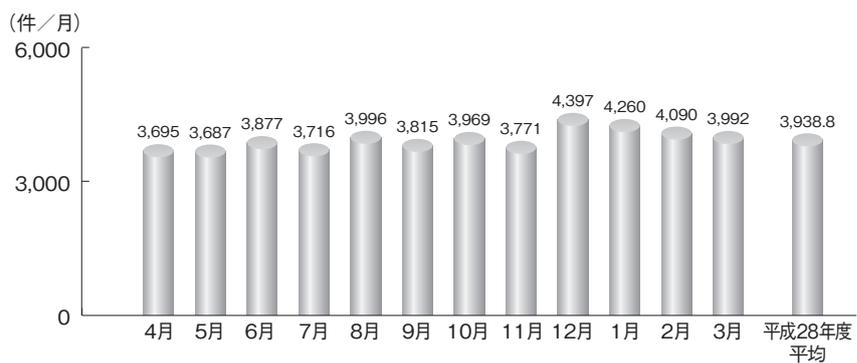
● 血液学的検査件数



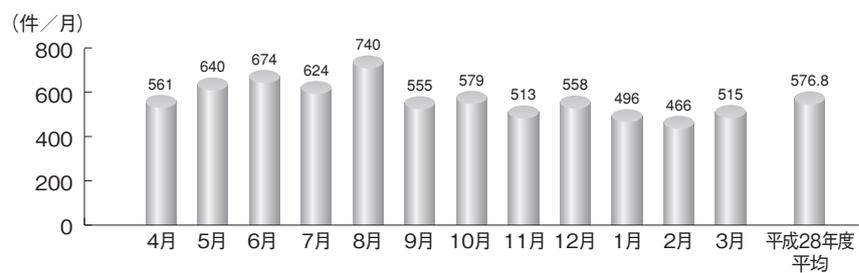
● 生化学検査件数



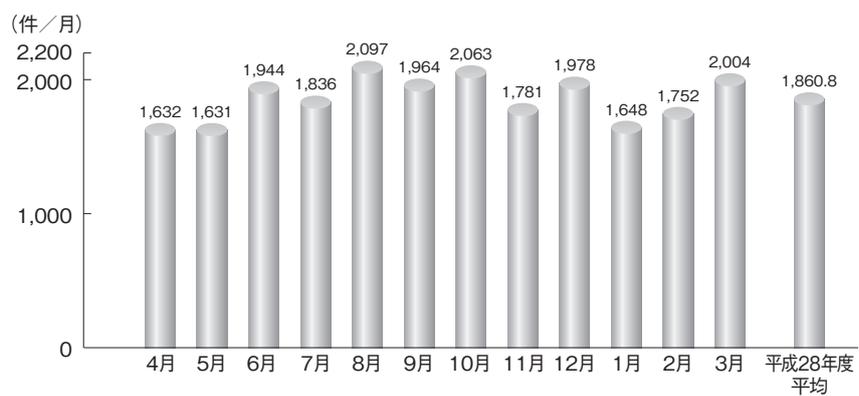
● 免疫学的検査件数



●一般検査件数（尿、便、髄液など）

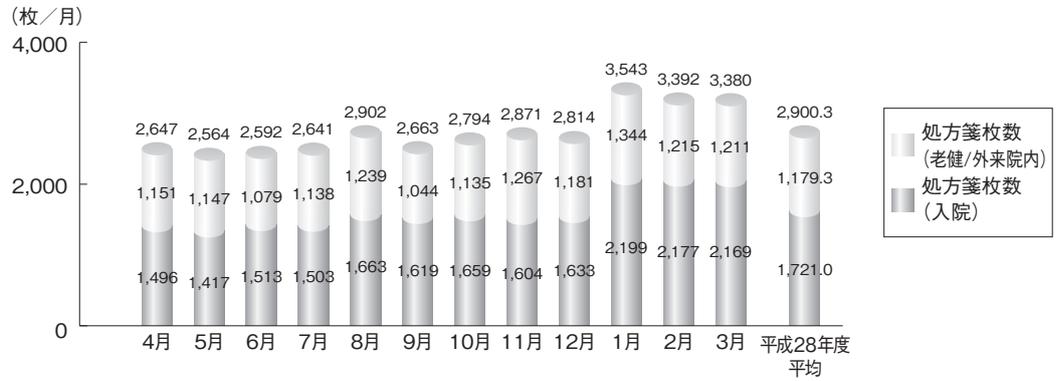


●生理検査件数（心電図、肺機能、脳波、超音波、動脈硬化関連検査、聴力関連など）

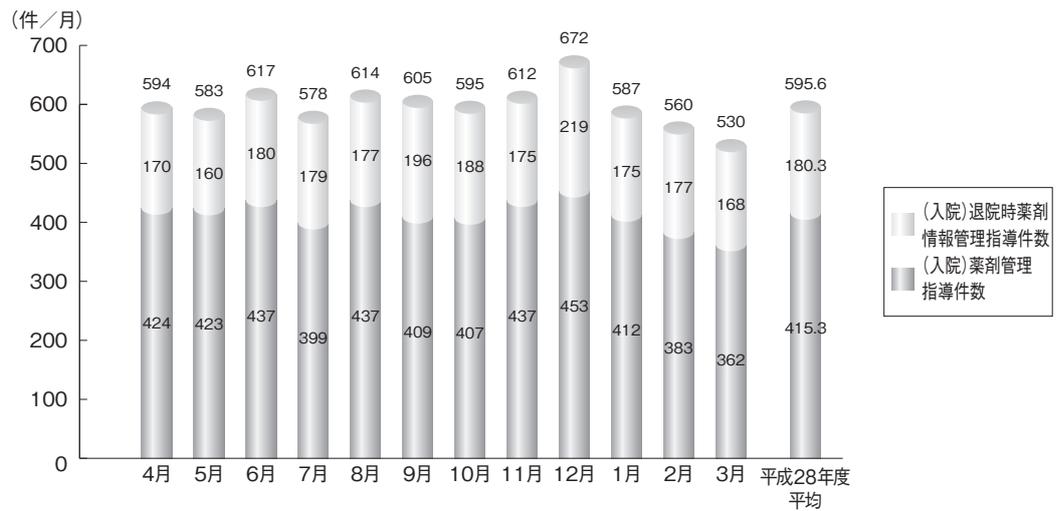


□薬剤部実績

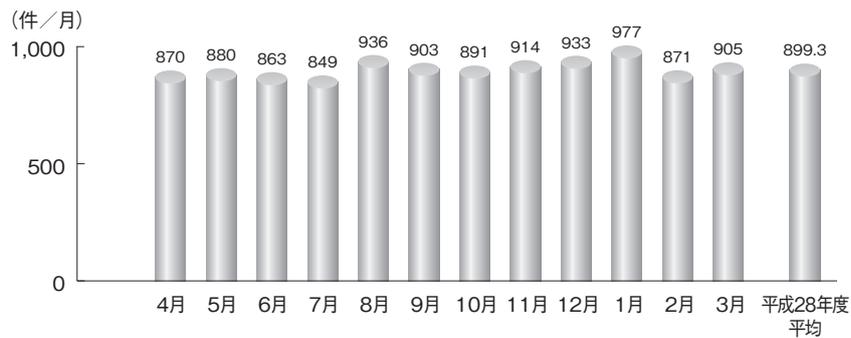
●処方箋枚数



●服薬指導件数

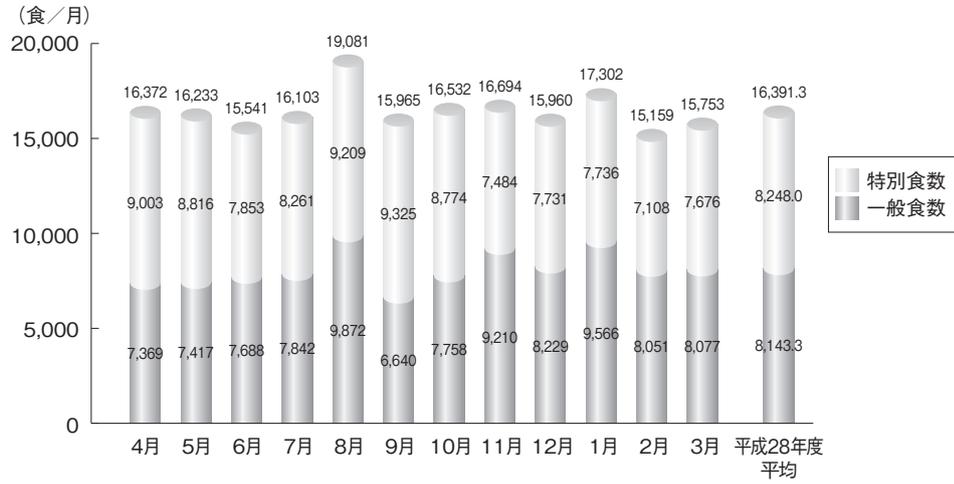


●病棟薬剤業務実施加算

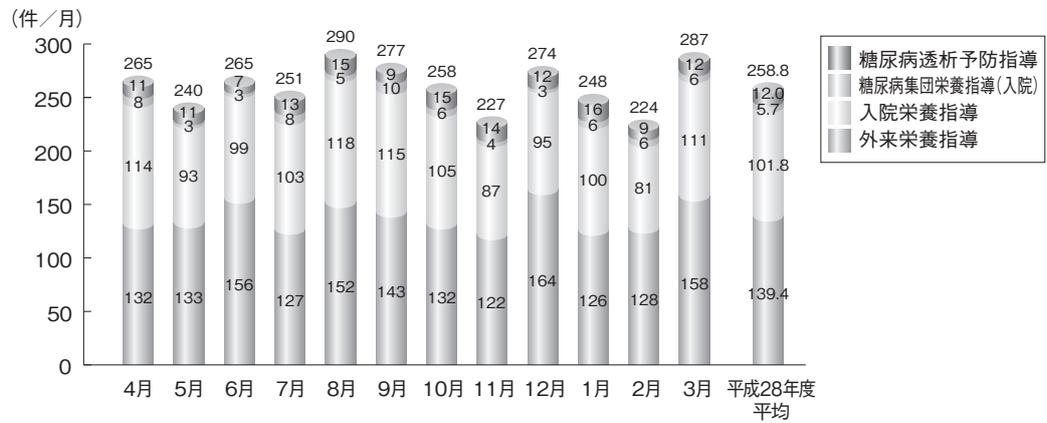


□ 栄養科実績

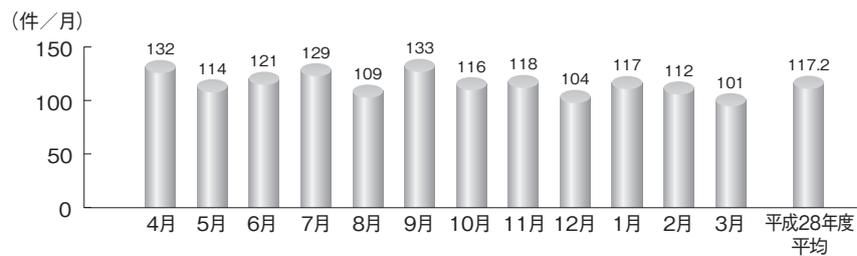
● 特別食と一般食の食数



● 栄養指導件数



● NST加算

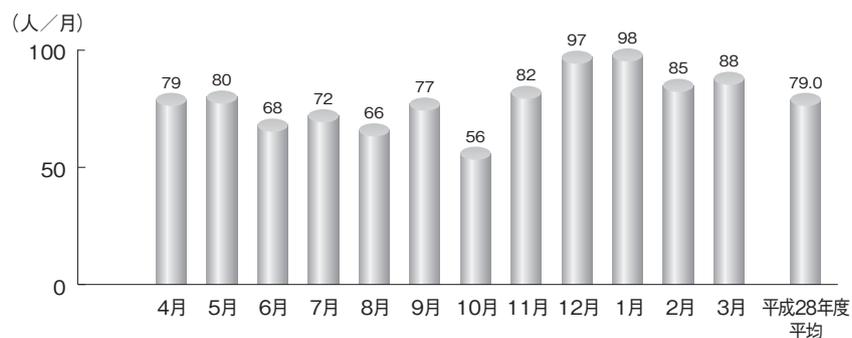


□地域連携室業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
①受診予約依頼・予約FAX対応（物忘れ外来以外）	34	25	26	16	26	38	28	31	19	32	39	33	347	28.9
②他院への受診予約対応	3	1	1	1	2	5	0	0	2		1	3	19	1.6
③他院からの緊急受診依頼	18	16	21	15	17	15	27	14	12	17	19	12	203	16.9
④他院からの情報提供依頼	15	11	5	10	12	8	5	10	3	10	13	13	115	9.6
⑤他院への情報提供依頼	1	1	3	2	2	1	0	2	0	0	3	1	16	1.3
⑥その他	6	3	5	5	5	5	3	1	1	1	2	2	39	3.3
⑦晴れやかネット	10	5	0	3	4	6	4	4	5	7	5	8	61	5.1
合計	87	62	61	52	68	78	67	62	42	67	82	72	800	66.7

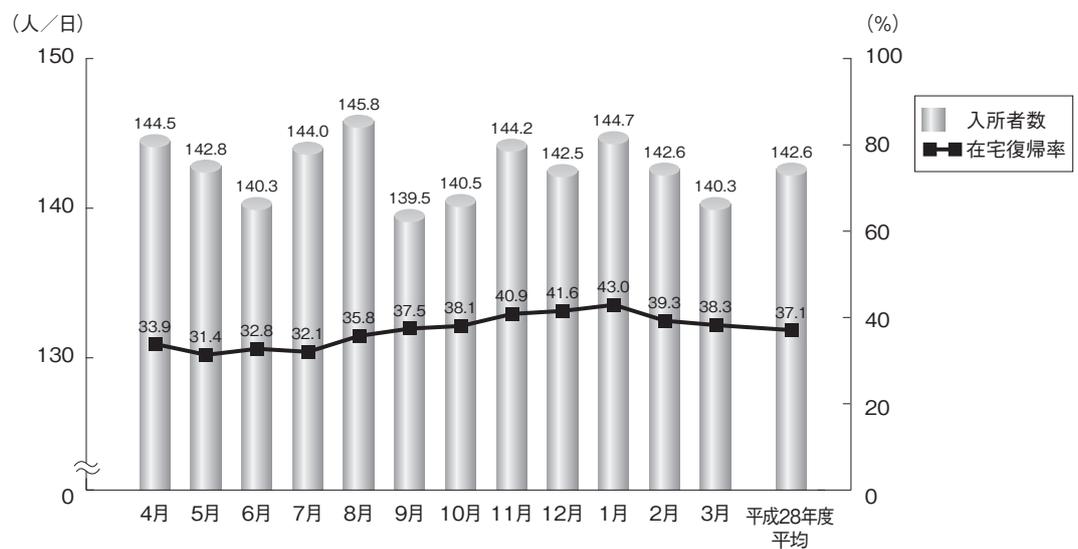
□医療福祉相談室実績

- 退院支援患者数



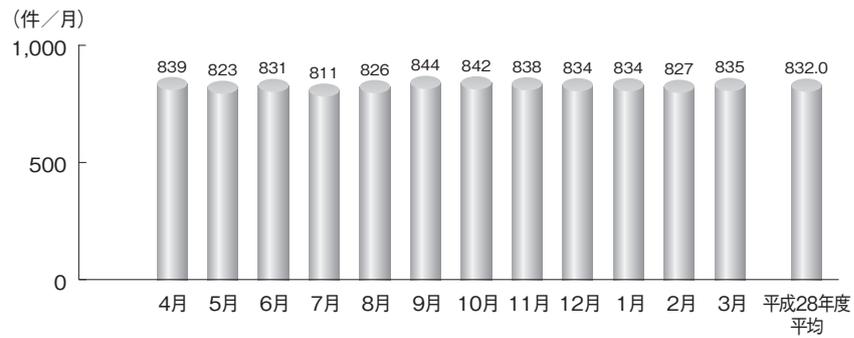
倉敷老健

□老健入所者数（定員150人）と在宅復帰率

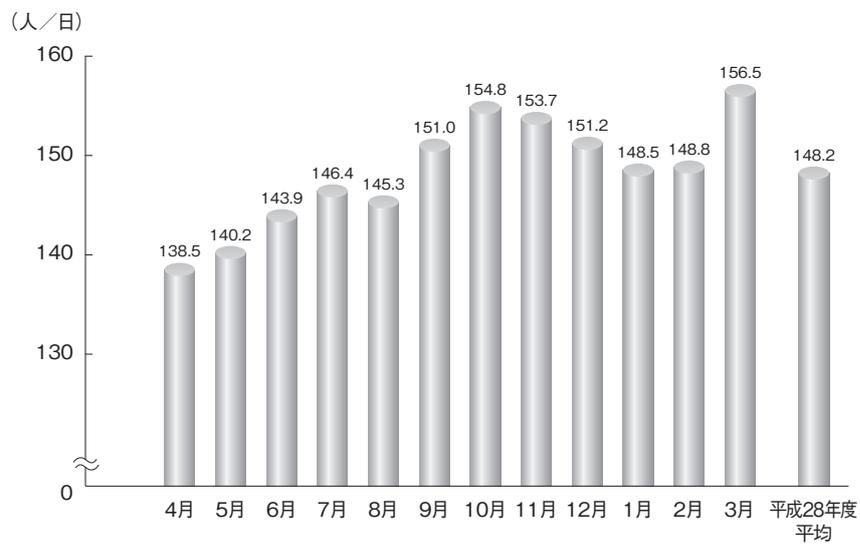


倉敷在宅総合ケアセンター

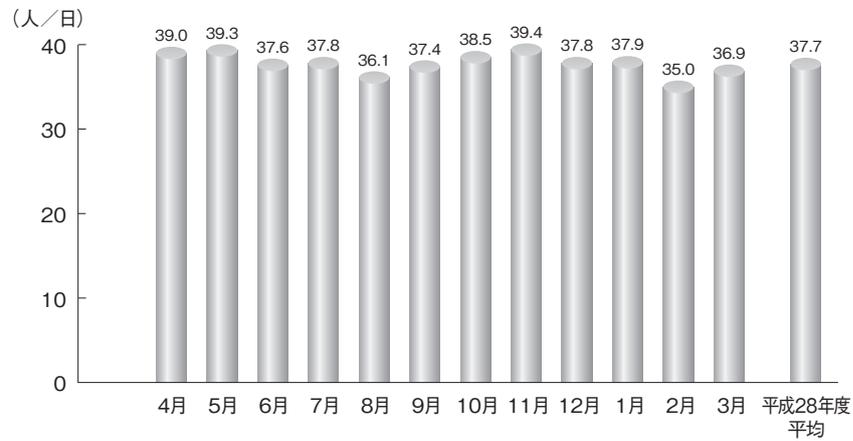
□ケアプラン件数



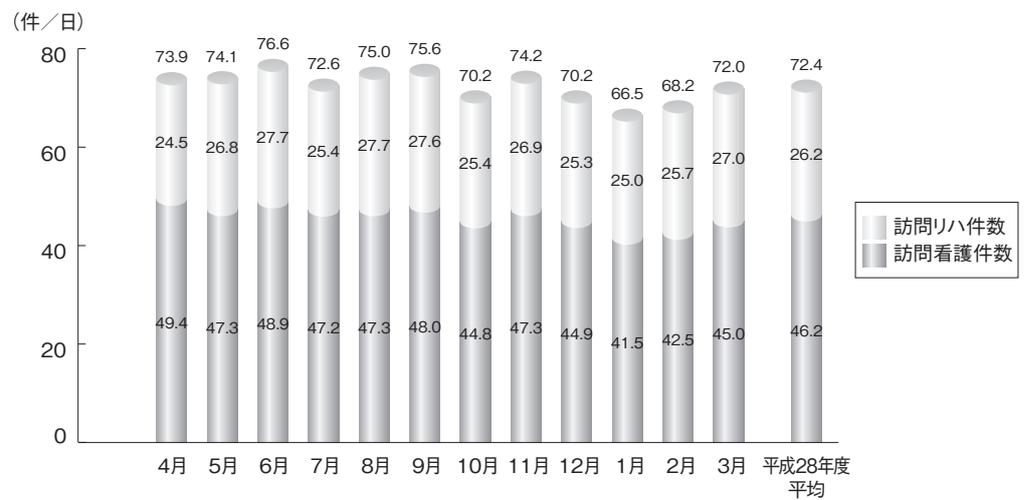
□通所リハ利用者数 (定員180人)



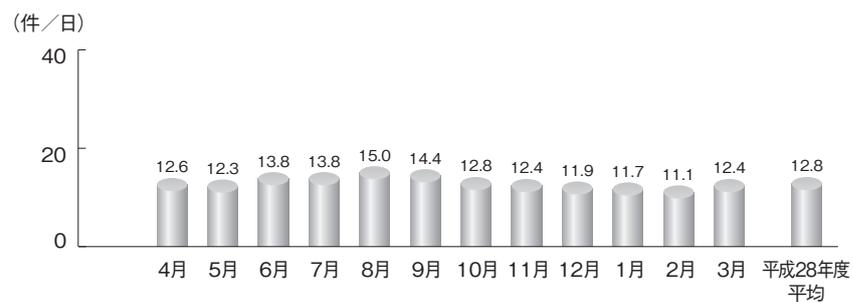
□ 予防リハ利用者数 (定員40人)



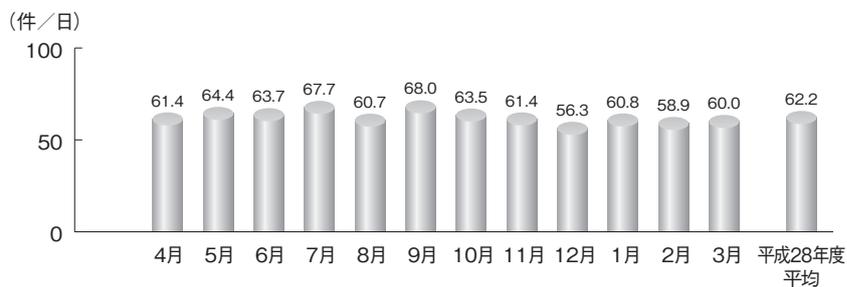
□ 訪問看護ステーション件数



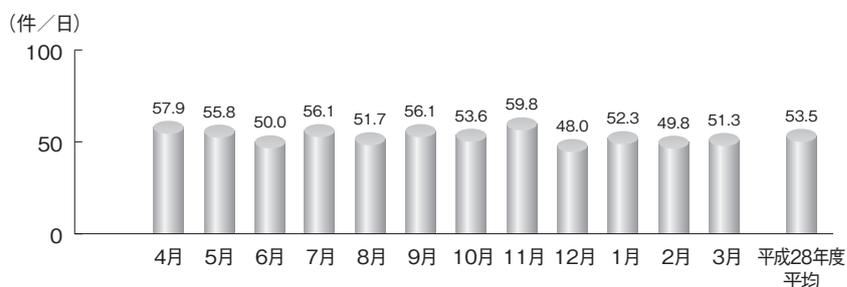
□ 訪問リハ (病院) 件数



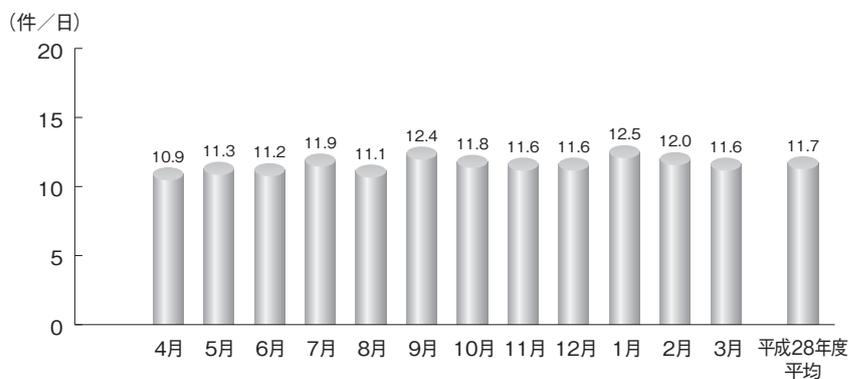
□訪問介護件数（老松）



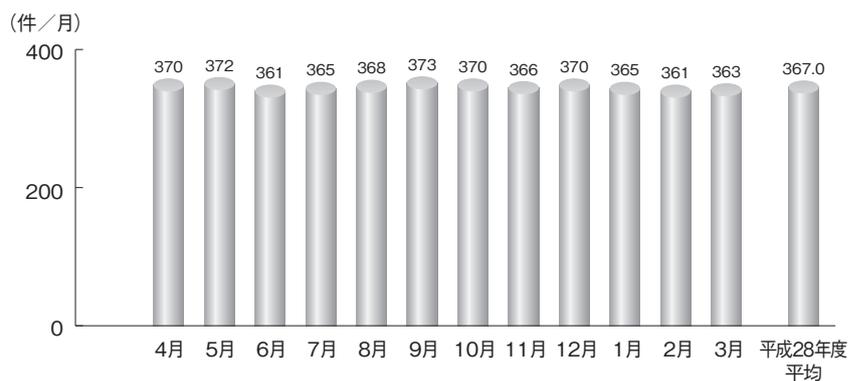
□訪問介護件数（社福）



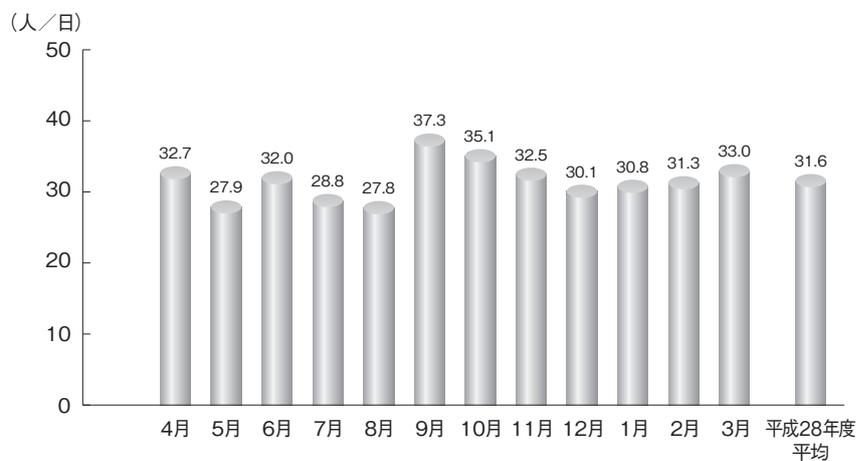
□訪問入浴件数



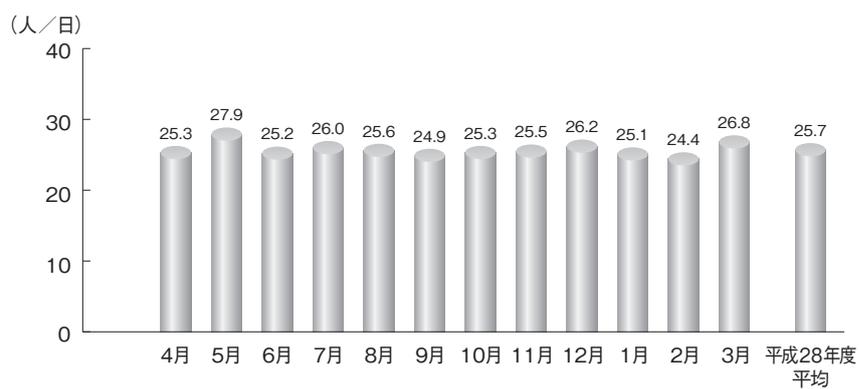
□福祉用具貸与件数



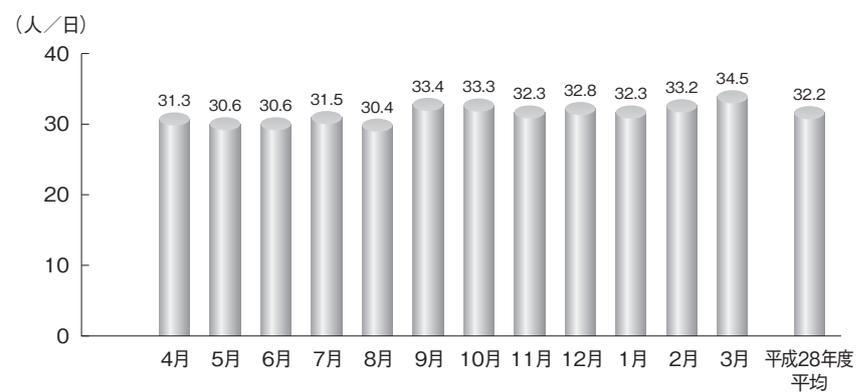
□介護タクシー利用者数



□鍼灸治療院患者数

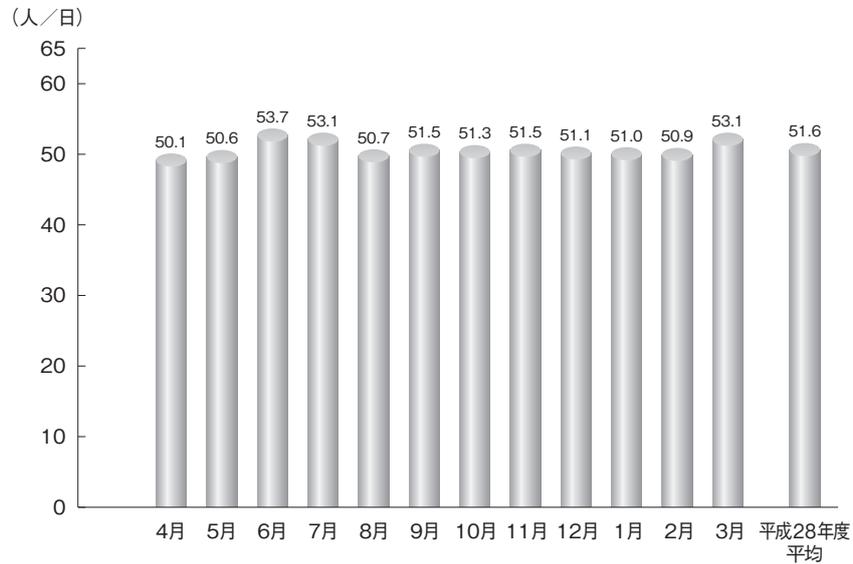


□ショートステイ利用者数 (定員40人)

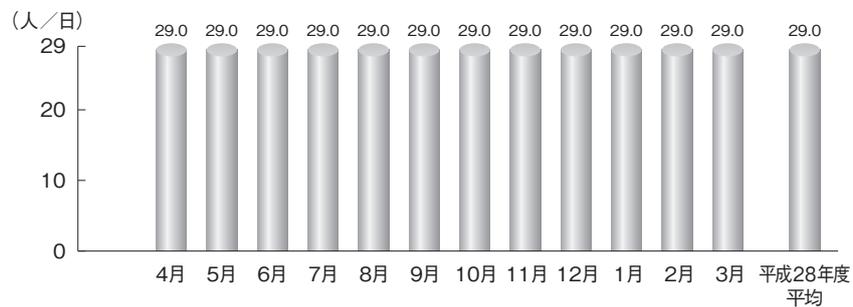


ピースガーデン倉敷

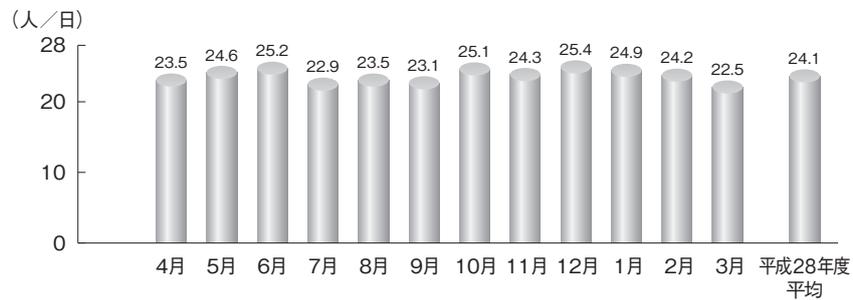
□デイサービス リハビリステーション ピース (定員65人)



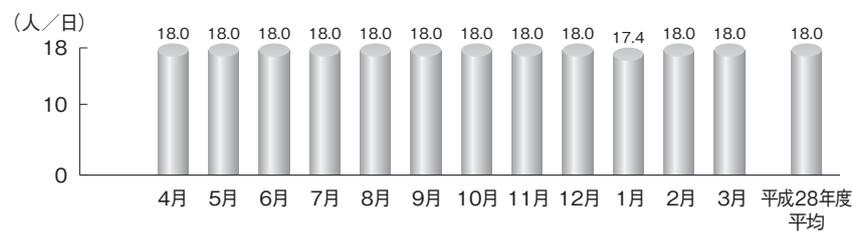
□地域密着型特養 ピースガーデン (定員29人)



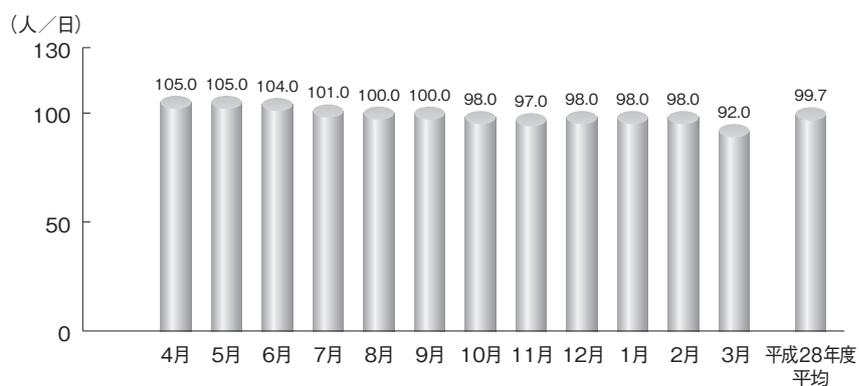
□ショートステイ (定員28人)



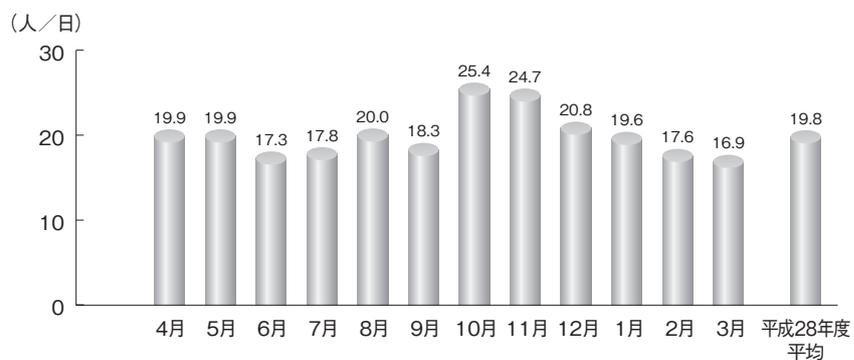
□グループホーム のぞみ (定員18人)



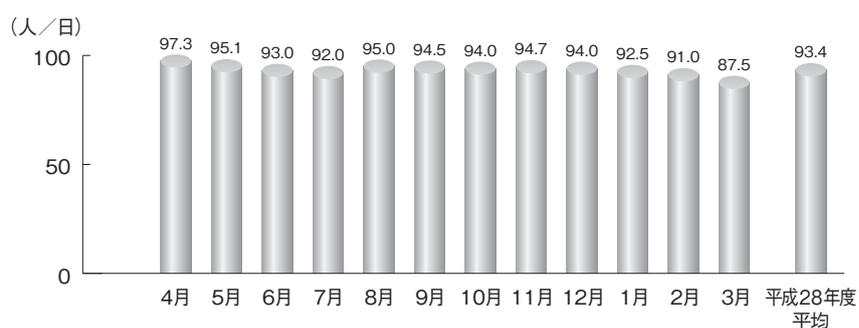
□ローズガーデン倉敷入居者数（定員126戸）



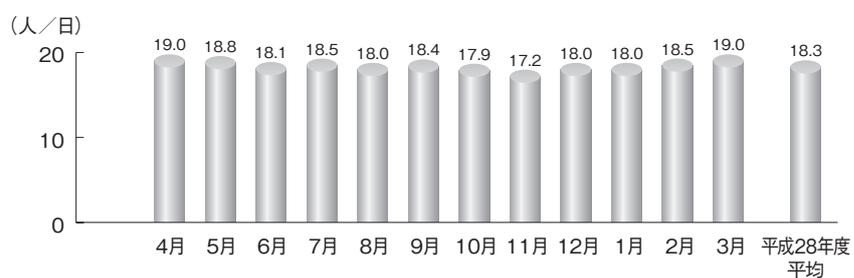
□南町クリニック外来患者数



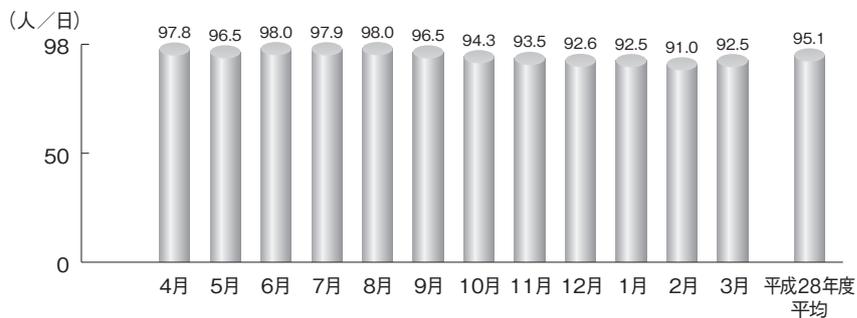
□ドリームガーデン倉敷入居者数（定員100人）



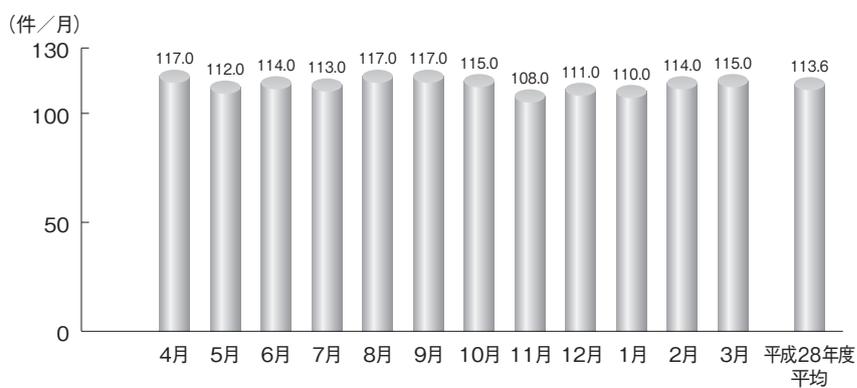
□デイサービスドリーム利用者数（定員20人）



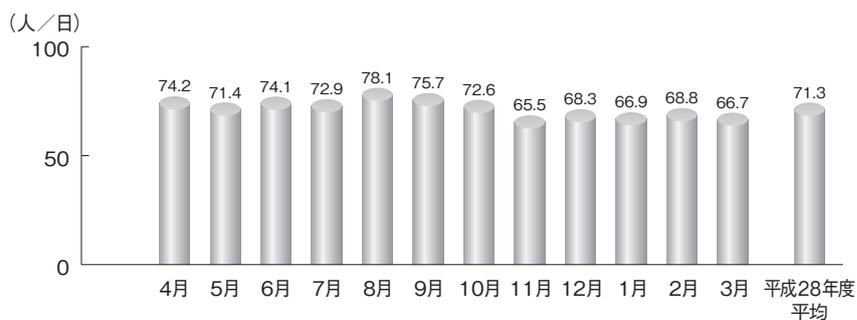
□グランドガーデン南町入居者数（定員98人）



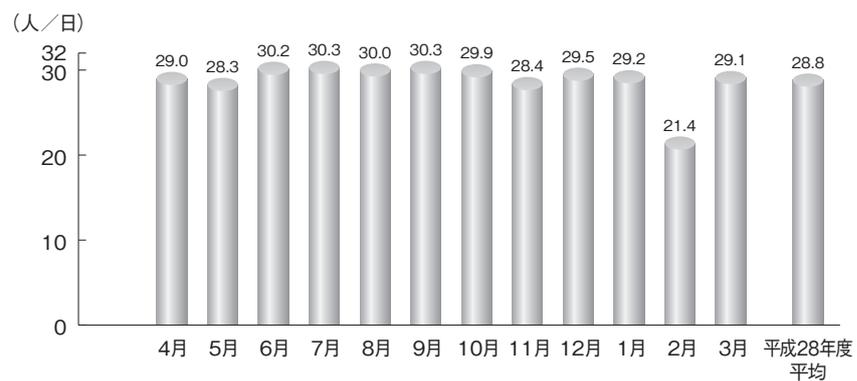
□南町ケアプラン室ケアプラン件数



□ヘルプステーション南町利用者数



□よくなるデイ南町利用者数（定員32人）



	高尾聡一郎 (たかお そういちろう) 脳神経外科
	【役職】 社会医療法人全仁会 理事長 脳神経外科部長 【資格・専門医・所属学会】 日本脳神経外科学会専門医

	高尾 武男 (たかお たけお) 神経内科
	【役職】 全仁会グループ代表 社会医療法人全仁会 名誉理事長 社会福祉法人全仁会 理事長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本神経学会専門医

	平川 訓己 (ひらかわ くにづく) 整形外科
	【役職】 社会医療法人全仁会 倉敷平成病院院長 【資格・専門医・所属学会】 日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会リウマチ医 運動器リハビリテーション医 補装具適合判定医 日本整形外科学会

	高尾 芳樹 (たかお よしき) 神経内科
	【役職】 社会医療法人全仁会 倉敷平成病院副院長 神経内科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本神経学会指導医・専門医 日本認知症学会指導医・専門医 日本頭痛学会専門医 日本内科学会認定医 日本人間ドック学会認定医 日本脳卒中学会 日本脳ドック学会

(50音順)

	篠山 英道 (ささやま ひでみち) 脳神経外科
	【役職】 社会医療法人全仁会 倉敷平成病院副院長 救急部長 【資格・専門医・所属学会】 日本脳神経外科学会専門医 日本リハビリテーション医学会 日本脳卒中の外科学会

	青山 雅 (あおやま まさこ) 糖尿病・代謝内科
	【役職】 倉敷生活習慣病センター診療部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本血液学会指導医・専門医 日本糖尿病学会専門医 日本老年病学会専門医 日本内科学会認定医

	池田 健二 (いけだ けんじ) リハビリテーション科
	【役職】 リハビリテーション科部長 【資格・専門医・所属学会】 日本リハビリテーション医学会専門医 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士 日本義肢装具学会適合判定医

	石口奈世理 (いしがuchi なより) 眼科
	【役職】 眼科医長 【資格・専門医・所属学会】 日本眼科学会専門医 日本白内障屈折矯正手術学会 日本眼科手術学会

	石田 泰久 (いしだ やすひさ) 形成外科 (2017.3 退職)
	【役職】 形成外科医長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本形成外科学会専門医 日本マイクロサージャリー学会 日本頭蓋顎顔面外科学会 日本再生医療学会 日本褥瘡学会 日本下肢救済・足病学会 日本フットケア学会 日本創傷外科学会 日本顔面神経研究会

	伊東 政敏 (いとう まさとし) 循環器科
	【役職】 循環器センター長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本循環器学会認定循環器専門医 日本麻酔科学会標榜医 ケアマネジャー

	江原 英樹 (えはら ひでき) 脳ドックセンター (2016.11 着任)
	【資格・専門医・所属学会】 日本内科学会総合内科専門医・認定医 日本医師会認定産業医・認定健康スポーツ医

	太田 郁子 (おおた いくこ) 婦人科
	【役職】 婦人科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本産科婦人科学会専門医 日本生殖免疫学会 日本女性医学会 日本エンドメトリオーシス学会

	大根 祐子 (おおね ゆうこ) リハビリテーション科
	【役職】 リハビリテーションセンター長 リハビリテーション科医長 【資格・専門医・所属学会】 日本リハビリテーション医学会専門医・指導責任者 日本義肢装具学会適合判定医 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 日本臨床神経生理学会

	大野麻里奈 (おおの まりな) 歯科 (2016.4 着任)
	【資格・専門医・所属学会】 歯学博士 日本歯科放射線学会認定医

	大橋 勝彦 (おおはし かつひこ) 脳ドックセンター
	【役職】 平成脳ドックセンター長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本人間ドック学会専門医・研修施設指導医 日本超音波医学会指導医・専門医・功労会員 日本消化器病学会専門医 日本抗加齢医学会専門医・認定医 日本内科学会認定医 日本医師会認定産業医 人間ドック健診情報管理指導士 川崎医科大学名誉教授

	大浜 栄作 (おおはま えいさく) 内科
	【役職】 倉敷老健施設長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 病理解剖資格認定医 日本神経病理学会名誉会員 臨床神経病理懇話会名誉会員 日本脳腫瘍病理学会功労会員 日本末梢神経学会評議員 日本病理学会 日本神経学会 日本小児神経学会 日本自律神経学会 日本高次脳機能障害学会 日本認知症学会 鳥取大学名誉教授

	甄 立学 (けん りつがく) 和漢診療科
	【役職】 ヘイセイ鍼灸治療院院長 【資格・専門医・所属学会】 中醫師 (中国) 医学博士 鍼灸師 日本東洋医学会 日本鍼灸師学会

	澤田ちづ子 (さわだ ちづこ) 脳ドックセンター
	【資格・専門医・所属学会】 日本医師会認定産業医

	重松 秀明 (しげまつ ひであき) 脳神経外科 (2016.4 着任)
	【役職】 脳神経外科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本脳神経外科学会専門医 日本プライマリ・ケア連合学会指導医 日本脳ドック学会

	芝崎 謙作 (しばざき けんさく) 脳卒中内科
	【役職】 脳卒中内科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本神経学会指導医・専門医 日本脳卒中学会専門医 日本内科学会認定医 日本神経治療学会 日本脳神経超音波学会 日本栓子検出と治療学会

	嶋田 八恵 (しまだ やえ) 皮膚科
	【役職】 皮膚科医長 【資格・専門医・所属学会】 日本皮膚科学会専門医 日本医師会認定産業医

	鈴木 健二 (すすき けんじ) 脳神経外科
	【役職】 社会医療法人全仁会 倉敷平成病院名誉院長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本脳神経外科学会専門医 日本脳ドック学会

	高尾 公子 (たかお きみこ) 和漢診療科
	【役職】 社会医療法人全仁会 副理事長 社会福祉法人全仁会 副理事長 ローズガーデン倉敷顧問 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本小児科学会専門医

	玉田 二郎 (たまだ じろう) 呼吸器科
	【役職】 平成南町クリニック院長 【資格・専門医・所属学会】 日本外科学会専門医 日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本肺癌学会 日本癌学会 日本呼吸器内視鏡学会 日本気胸・嚢胞性肺疾患学会

	角田慶一郎 (つのだ けいいちろう) 神経内科 (2016.10着任~2017.3退職)
	【資格・専門医・所属学会】 日本内科学会認定医

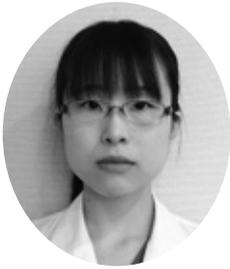
	華山 博美 (はなやま ひろみ) 美容外科・形成外科
	【役職】 美容外科・形成外科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本形成外科学会専門医 日本形成外科学科皮膚腫瘍外科専門医 日本美容外科学会教育専門医(JSAPS) 日本レーザー医学会専門医 日本美容医療協会 日本乳房オンコプラスチックサー ジャリー学会 日本乳癌学会 日本頭蓋顎顔面外科学会

	平川 宏之 (ひらかわ ひろゆき) 整形外科
	【役職】 スポーツ整形外科部長 【資格・専門医・所属学会】 日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定スポーツ医 日本体育協会公認スポーツドクター

	松尾 真二 (まつお しんじ) 整形外科 (2016.4 着任)
	【役職】 整形外科部長 【資格・専門医・所属学会】 日本整形外科学会専門医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

	光井 行輝 (みつい ゆきてる) 脳ドックセンター
	【役職】 平成脳ドックセンター検診部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本産科婦人科学会専門医

	三好 秀直 (みよし ひでなお) 放射線科 (2016.4 着任)
	【役職】 放射線科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本医学放射線科学会診断専門医 日本核医学会専門医 日本核医学会PET核医学認定医

	本倉 恵美 (もとくら えみ) 神経内科 (2016.4着任~2016.9退職)

	森 幸威 (もり ゆきたけ) 耳鼻咽喉科
	【役職】 耳鼻咽喉科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本耳鼻咽喉科専門医 日本耳鼻咽喉科学会 日本鼻科学会 日本耳鼻咽喉科感染症エアゾル学会 日本頭頸部癌学会 耳鼻咽喉科臨床学会

	矢木 真一 (やぎ しんいち) 呼吸器科
	【役職】 呼吸器科部長 【資格・専門医・所属学会】 総合内科専門医 日本内科学会 日本呼吸器学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会専門医

	吉岡 保 (よしおか たもつ) 婦人科
	【役職】 (倉敷平成病院) 総合美容センター長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 倉敷成人病センター名誉院長 日本産科婦人科学会専門医 日本周産期新生児医学会 日本臨床栄養学会 日本中毒学会 日本更年期学会 日本母性衛生学会 日本フリーラジカル学会 日本産科婦人科栄養・代謝研究会 日本臨床抗老化医学会 日本医師会

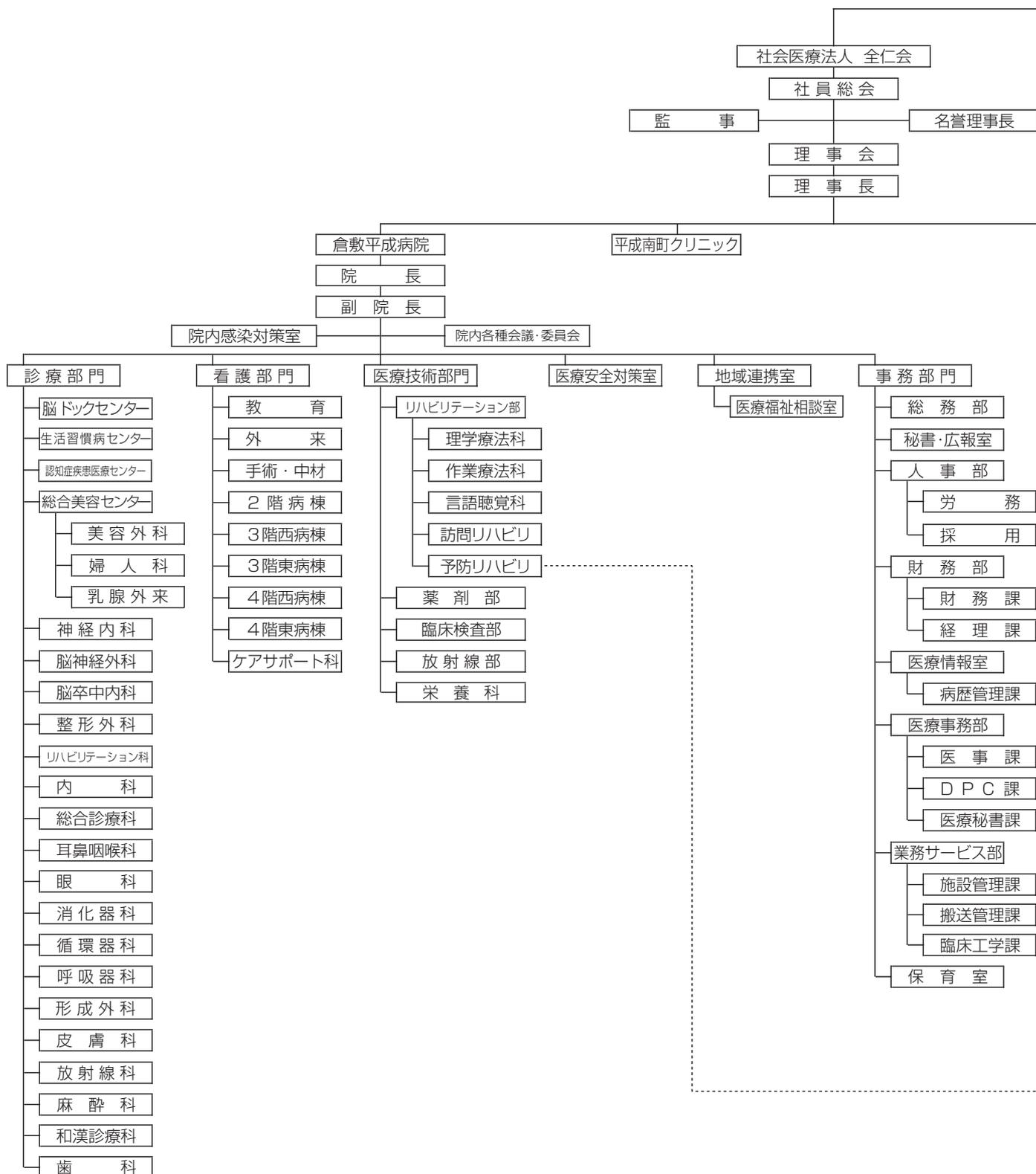
	涌谷 陽介 (わくたに ようすけ) 神経内科
	【役職】 認知症疾患医療センター長 神経内科部長 【資格・専門医・所属学会】 医学博士 日本神経学会指導医・専門医 日本認知症学会指導医・専門医 日本内科学会認定医

	和田 聡 (わだ さとし) 麻酔科
	【役職】 麻酔科部長 【資格・専門医・所属学会】 日本麻酔科学会標榜医・認定医

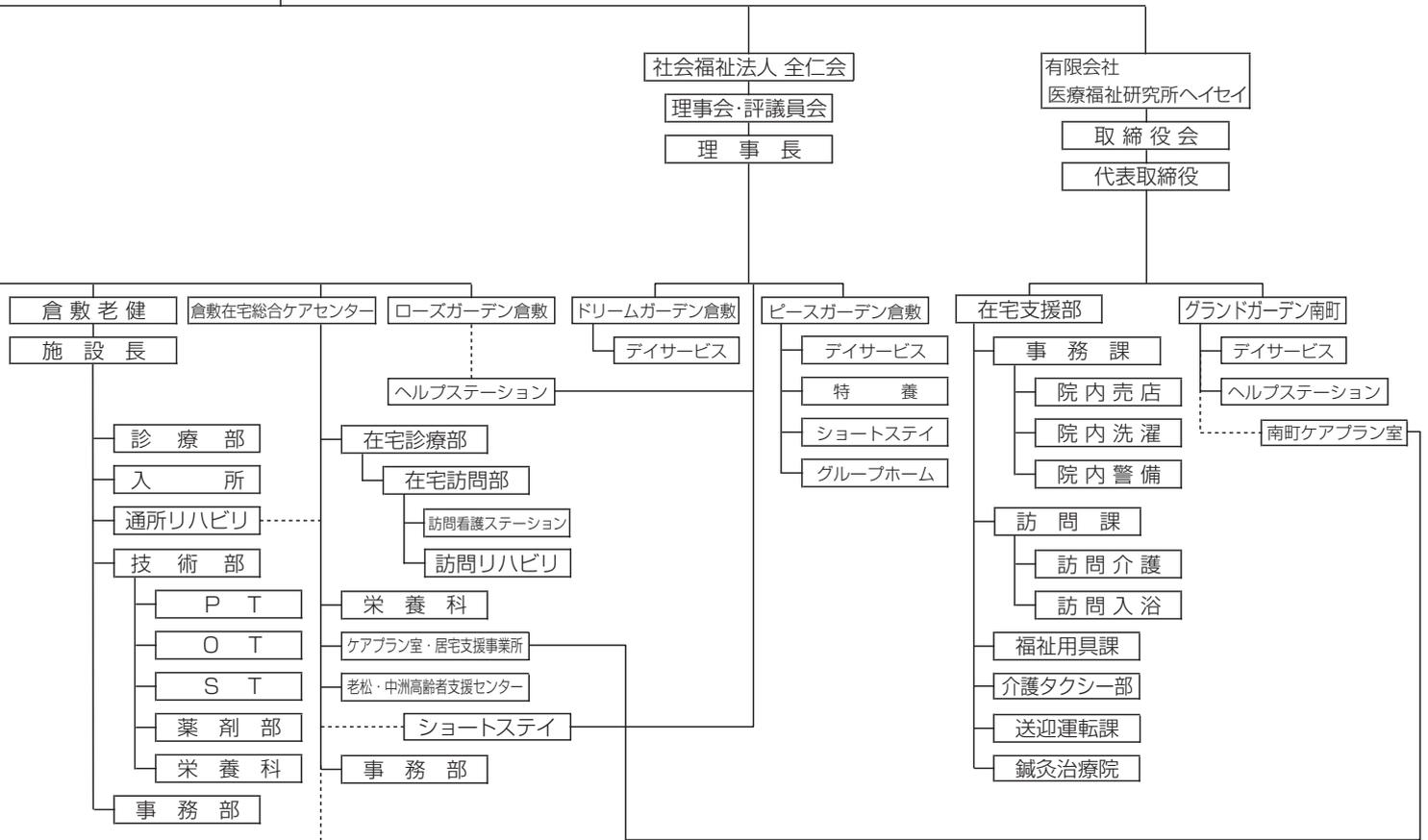
【2017.4 着任】

内科 部長	都築 昌之 (つづき まさゆき)
脳神経外科 倉敷ニューロモデュレーションセンター長	上利 崇 (あがり たかし)
形成外科	廣瀬 雅史 (ひろせ まさし)
神経内科	佐々木 諒 (ささき りょう)

全仁会グループ 組織図



全仁会 グループ



編集後記

全仁会グループの年報第12巻をお届けします。平成28（2016）年度の全仁会グループの活動の記録です。今回も全仁会グループ各部署の責任者の方々には、それぞれの部署の資料の取りまとめと整理をして頂きました。多忙な日常業務のなか、皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

さてこの巻から「業績目録」の項目のいくつかを下記のように整理・新設しました。

1. 従来の「研修・出張」を「学会・研修会等参加」に変更しました。
2. 従来の「勉強会（一般向け）」を「勉強会・公開講座・健康教室（一般向け）」に改めました。
3. 「委員会・会議概要」、「購入図書」および「職員旅行」を新しい項目として取り入れました。

全仁会グループ年報編集委員会

委員長 大浜 栄作

委員 平川 訓己 高尾 芳樹 青山 雅 大根 祐子
武森三枝子 津田陽一郎 森山 研介 福田 忍
家村 益生 秋田 望 福山 浩 栢野 浩行
三宅 裕代 角井 春妃 中杉久美子 吉田 友子

全仁会グループ 年報 第12巻（平成28年度）

発行：2017年（平成29年）8月31日
編集：全仁会グループ年報編集委員会
発行者：社会医療法人全仁会
理事長 高尾聡一郎
〒710-0826 岡山県倉敷市老松町4丁目3-38
TEL(086)427-1111(代) FAX(086)427-8001(代)
印刷所：友野印刷株式会社